

スウエーデンエンドホット
 エムエム汽船
 シヤバチイナジヤバライン

△北米航路

キユーナーードライン
 カナデアングゴビト
 ホーセントンライン
 バナマバシフイック
 トーマスハリニグエンドソン
 ユナイテッドアメリカンライン
 バナマバシフイツタライン
 バターフィールドスワイヤ
 ガーランド
 タンパ、インテロシアン
 カナデアングゴビト
 ハンブルクアメリカ

△東洋航路

桑港濠洲
 濠洲瓜哇印度
 ベルフワスト加奈陀
 晚香坡モントリール
 晚香坡モントリール
 組育北米沿岸
 香港マニラ
 太平洋横斷
 ガルフ極東
 モントリールビクトリア晚香坡横濱
 漢堡極東

(廢止)

二週一回

月一回

(廢止)

ガーランド
 政記公司
 某汽船
 ユーエスアントチャイナ
 永記船務公司
 コロンビヤアバフイウクシツピング
 ガーランド汽船

△近海航路

桑港ホートランド
 芝罘安東
 宜昌重慶
 紐育支那羅府
 汕頭南洋

大阪須崎

◆會社別經營航路内容

(十四年九月現在)

本邦主要船主の經營せる定期及準定期航路は主要左の如し

△日本郵船

△印は航海に依り途中寄港地を異にす
 ※印は往航のみ寄港地

(航路) (回数)(使用船數)

(寄港地)

歐 洲 線 二週一 一 一 (横濱、神戸、※門司、上海、香港、新嘉坡、※馬粒加、※彼南、古倫母、蘇士、坡西土、馬耳塞、倫敦、安土府、密土府)

二ヶ月一回

季浦線	四週一	七△	蘇士、坡西土、馬耳塞、リバプール、古倫母、新嘉坡、橫濱、神戸、門司、上海、香港(大連其他ニ寄港スルコトアリ)
漢堡線	四週一	七△	橫濱、神戸、大連、上海、香港、瓜哇、新嘉坡、古倫母、蘇士、坡西土、倫敦、ロツテルダム、ハンバーク
北米線	約三週二	八	(香港、馬尼刺、各航往航又ハ復航ニ時々寄港)上海、長崎、神戸※四日市
南米線	隔月一	三△	橫濱、神戸、門司、香港、新嘉坡、南阿諸港、南米セントス、リオデジャネイロ、ベノスアイレス(復航北米又ハ歐洲諸港ニ廻港スルヲアルベシ)
紐育線	蘇士經由 每月一 巴奈馬經由 每月一	四△	橫濱、神戸、門司、香港、馬尼刺、瓜哇、新嘉坡、古倫母、蘇士、坡西土、アルチール、紐育(復航寄港地ハ臨時之ヲ定ム)
濠洲線	每月一	七△	神戸、門司、上海、橫濱、四日市、室蘭、桑港、バルボア、巴奈馬、コロソ、ハバナ、紐育(復航寄港地ハ臨時之ヲ定ム)
孟買線	每月二	三	(橫濱、神戸、長崎、香港、馬尼刺、ザンボン、アンガ、木曜島、タウンズウヰル、アリス、メーン、志度尼、メルボルン)
甲谷線	月三、三	六△	橫濱、名古屋、大阪、神戸、門司、香港、新嘉坡、古倫母、孟買、(復航、古倫母又ハ中竹林、上海及四日市(モ寄港ス))
瓜哇線	每月一	六△	神戸、橫濱、※門司、※名古屋、※大阪、香港、新嘉坡、彼南、蘭貢、甲谷陀(復航上海寄港スルコトアルベシ)
日本甲谷陀線	臨時發航	四△	橫濱、名古屋、大阪、神戸、門司、バダウヰヤ、サマラン、スラバヤ、甲谷陀
甲谷陀南米線	臨時發航	四△	甲谷陀、南阿諸港經由、南米ベノスアイレス(復航歐洲紐育又ハ南阿經由、日本ニ復航ス)

甲谷陀シヤトル線	毎月二	一	△甲谷陀、新嘉坡、室蘭、沙市
甲谷陀紐育線	毎月一	六△	甲谷陀、古倫母、蘇士、坡西土、ホストン、紐育(復港巴奈馬經由日本(歸港))
南洋線	東航 二月一 西航 毎月一	一	神戸、橫濱、橫須賀、門司、サイパン、トラツク、ホベナ、クサイ、ヤルト、神戸、橫濱、橫須賀、門司、二見、サイパン、トラツク、ヤツブ、パオ、アンカール、メナード
神戶上海線	每週二	四	大阪、神戸、門司、上海
橫濱上海線	六日一	三	橫濱、大阪、神戸、門司、長崎、上海(内二隻ハ往復航門司寄航ニ代ヘ名古屋寄港)
大阪漢口線	毎月一	一	大阪、神戸、門司、漢口(冬期長江減水中ハ休航)
長崎上海線	一週二	二	長崎、上海間
大阪青島線	毎月二	一	大阪、神戸、宇品、門司、青島
橫濱牛莊線	△近海郵船	三	橫濱※四日市又ハ名古屋、大阪、長崎、※仁川、大連、※天津、牛莊(冬期ニ限り往復航神戸ニ寄港)
大阪天津線	休航期	三	大阪、神戸、門司、天津
大阪牛莊線	休航期	三	大阪、神戸、門司、天津
大阪大連線	休航期	一	大阪、神戸、大連、牛莊

大阪漢口線	每月一	一	神戸、門司、上海、漢口
神戸基隆線	每週一	三	神戸、門司、基隆
横濱高雄線	約十日目	五	横濱、大阪、神戸、門司、基隆、安平、高雄
基隆芝浦線	十日一	二	芝浦、横濱、名古屋、高雄、基隆
小笠原線	(每月一) 乃至二	一	横濱、八丈島、父島、母島、沖港、(母島北港二年八回、北硫黄島中硫黄島三年四回、青ヶ島、鳥島二年一回寄港)
東廻線	每月八	一〇	神戸、大阪、横濱、函館、小樽
横濱樺太線	每月二又三	一	横濱、函館、小樽、大泊
函館樺太線(冬期)	每月六	二	函館、小樽、大泊、真岡(本斗へ夏期毎月二回寄港)
小樽真岡線	每月六	二	小樽、大泊、真岡
樺太伏木線	每月一	一	伏木、小樽、真岡、野田、泊居
函館樺太線(冬期)	每月三	一	函館、釧路、根室、乳呑路、斜古丹、内保、留別、別飛、菱取、紗那
函館網走線(冬期)	每月三	一	函館、釧路、厚岸、霧多布、根室、羅臼、斜里、網走
函館千島線	夏季四	一	函館、根室、摺鉢、奥、四ツ岩「ルエサン」千歳灣、村上岬、(又ハ中川灣) 鯨灣、城ヶ崎、根室

△大阪商船

日本歐洲線	四週一	七	往航横濱、神戸、大連、上海、香港、新嘉坡、古倫母、蘇士、坡西土、馬耳塞、倫敦、安土府、ロツテルダム、漢堡、復航漢堡、ロツテルダム、安土府、坡西土、蘇士、新嘉坡、香港、上海、神戸、横濱
△亞米利加航路	二週一	六	往航、香港、上海、大連、神戸、四日市、横濱、ビクトリア、シアトル、タコマ、晚香港、復航(タコマ、シアトル、ビクトリア、横濱、神戸、門司、上海、香港)
南米線	年一〇	六	往航神戸、四日市、横濱、長崎、香港、西貢、新嘉坡、古倫母、ダーバン、ケイプタウン、リオデジャネイロ、サントス、ヘノスアイレス
甲谷陀線	年七	四	復航バノスアイレス、サントス、リオデジャネイロ、ニューオリンス、クリストバル、バルボア、ロスアンゼルス、横濱、神戸
紐育線	毎月一	六	往航甲谷陀、古倫母、坡西土、サンチャゴ、シンエゴ、ハバナ、ニューオリンス、横濱、神戸、門司、上海、香港、新嘉坡、蘭貢、甲谷陀
△印度航路	毎月一	六	往航香港、基隆、上海、大連、太沽、神戸、四日市、横濱、桑港、ロスアンゼルス、バルボア、クリストバル、細育
孟買線	毎月二	六	復航紐育、クリストバル、バルボア、桑港、横濱、神戸、門司、上海、香港
孟買線	毎月二	六	(往航横濱、四日市、大阪、神戸、門司、香港、新嘉坡、古倫母、孟買) 復航孟買、新嘉坡、神戸、大阪、四日市、名古屋、横濱

日本瓜哇甲谷陀線	日本甲谷陀線	濠洲	南洋	南洋線	隆基海防線	隆基新嘉坡線	瓜哇盤谷線	南洋自由線	神戶高隆線	橫濱高雄線	臺灣西線	沿岸線
每月一	每月一	每月一	每月一	每月一	每月一	每月一	每月一	每月一	每月一	每月一	每月一	每月一
路三	路三	路三	路三	路三	路三	路三	路三	路三	路三	路三	路三	路三

橫濱、名古屋、大阪、神戸、門司、香港、瓜哇、新嘉坡、蘭貢、甲谷陀
 橫濱、名古屋、大阪、神戸、門司、香港、新嘉坡、西貢、蘭貢、甲谷陀

(往航橫濱、名古屋、大阪、神戸、門司、馬尼刺、シドニー、メルボルン
 復航メルボルン、シドニー、ブリスベン、馬尼刺、神戸、大阪、橫濱)

橫濱、名古屋、大阪、神戸、門司、基隆、マニラ、サンタカカン、バタビヤ、サ
 マラン、スラバヤ、復航、マカツサ、サンタカカン、香港、高雄、基隆、内地
 往航基隆、香港、西貢、盤谷、新嘉坡、復航新嘉坡、西貢、香港、高雄、基隆
 基隆、厦門、汕頭、香港、廣東、海口、北海、海防
 基隆、高雄、香港、西貢、盤谷、新嘉坡
 往航スラバヤ、新嘉坡、盤谷、復航盤谷、新嘉坡、バタビヤ、スラバヤ
 橫濱、名古屋、大阪、神戸、門司、瓜哇、基隆、内地
 神戸、門司、基隆
 橫濱、大阪、神戸、宇品、門司、長崎、基隆、馬公、安平、高雄
 基隆、蘇澳、花蓮港、臺東、海口、高雄
 基隆、馬港、高雄、高雄、馬港間往復

大阪青島大連線	大阪青島大連線	大阪青島大連線	大阪青島大連線	大阪青島大連線	大阪青島大連線	大阪青島大連線	大阪青島大連線	大阪青島大連線	大阪青島大連線	大阪青島大連線	大阪青島大連線	大阪青島大連線	大阪青島大連線	大阪青島大連線
每月二	每月二	每月二	每月二	每月二	每月二	每月二	每月二	每月二	每月二	每月二	每月二	每月二	每月二	每月二
路一四	路一四	路一四	路一四	路一四	路一四	路一四	路一四	路一四	路一四	路一四	路一四	路一四	路一四	路一四

大阪、神戸、(宇品)門司、大連
 大阪、神戸、宇品、門司、青島
 大阪、神戸、門司、天津
 基隆、厦門、福州
 基隆、厦門、汕頭、香港
 橫濱、名古屋、大阪、神戸、門司、大連、天津
 高雄、厦門、汕頭、香港、廣東
 橫濱、名古屋、大阪、神戸、門司、大連
 高雄、基隆、福州、上海、青島、大連、天津

敦賀、浦鹽
 小樽、浦鹽
 小樽、浦鹽、七尾、伏木、新潟、夷、函館、青森、小樽
 大阪、神戸、門司、釜山、木浦、群山、仁川、南浦、安東縣

大阪清津線	每月四	二	大阪、神戸、宇品、門司、釜山、元山、城津、清津、雄基
△内地航路			
東京九州線	每月四	二	芝浦、横濱、門司、長崎、三角、芝浦
那覇基隆線	每月五	二	那覇、宮古、八重山、西表、基隆
大阪沖繩直航線	每月五	三	大阪、神戸、油津、名瀬、那覇、鹿兒島
大阪沖繩直航線	每月五	三	大阪、神戸、名瀬、那覇
鹿兒島那覇線	每月十	二	鹿兒島、大島、那覇
大島各島線	每月八	二	鹿兒島、名瀬、喜界島、古仁屋、徳ノ島、沖永良部島
大阪鹿兒島線	隔日一	三	神戸、高嶺、土々呂、内海、油津、福島、波見、鹿兒島
大阪高松直航線	隔日一	一	大阪、神戸、高松
大阪山陽線	隔日一	四	大阪、神戸、四國及山陽各港經由門司、下關
宇品別府線	隔日一	一	宮島、柳井津、鶴川、大分
四國大阪門司線	隔日一	二	大阪、神戸、四國各港經由門司、若松
大阪別府線	隔日一	二	大阪、神戸、四國各港經由門司
大阪細島線	隔日一	五	神戸、高松、高濱、大分、別府
大阪四國線	隔日一	五	大阪、神戸、四國各港經由細島
大阪四國線	隔日一	五	大阪、神戸、四國九州各港經由宇和島、宿毛

大阪高知線	隔日一	二	大阪、神戸、高知
大阪須崎線	隔日一	一	大阪、神戸、須崎
別府宇和島線	隔日一	二	別府、宇和島
大阪徳島線	隔日一	四	大阪、神戸、小松島
大阪勝浦線	隔日一	二	大阪、紀州各港經由勝浦
大阪名古屋線	隔日一	五	大阪、神戸、紀、勢各港經由四日市、名古屋
△東洋汽船			
北米航路桑港線	四週一	六	桑港、ホノルル、横濱、神戸、長崎、大連、上海、マニラ、香港間
南米航路四岸線	二日一	三	(香港、マニラ、基隆、門司、神戸、横濱、布哇、桑港、羅府、巴奈馬、サリナク、ル、カイヤカ、イキケバル、バテイソ間)
新嘉坡桑港線	(臨時)	二	(新嘉坡、香港、日本諸港、布哇、桑港、巴奈馬、ハバナ、ニューオールのアン、紐育間)
瓜哇航路	月一回	一	大阪、神戸、門司、大連、香港、バタバヤ、サマラン、スラバヤ間
△近海航路			
元山長崎線(私)	年二四	二	上海青島釜山仁川線
大阪清津線	年二四	二	長崎朝鮮大連線
	月十五		新義州阪神線
			年一八
			年二一
			年三六
			年二一
			年二一

青島大連線(私)
 仁川北支那線
 清津敦習線
 △東沿岸航路
 元山清津線
 釜山浦鹽關門線
 雄基門司(甲乙)線(令、私)
 釜山元山線
 釜山道洞線
 △南沿岸線

上海漢口線 三週一六又八八
 漢口宜昌線 二週九
 漢口湘潭線 月八
 漢口常德線 月二
 南支那沿岸線 月三回
 大阪漢口線 月三回

△日清汽船
 年二七
 年三〇
 年一五
 月三三
 月三七
 月四七
 二一
 二三
 三三
 二二
 二一

釜山水浦線(私)
 釜山濟州關門線
 木浦濟州島線
 釜山濟州島線
 木浦多島海(東、西廻)
 △西沿岸航路
 木浦多島海線
 仁川木浦線
 仁川海州線
 仁川鎮南浦線

月二
 月四
 月五
 月三
 月三
 月四
 月五
 月四
 月三
 二二
 一一
 一一
 一一

宜昌重慶線 月四回 二 宜昌、重慶間

△北日本汽船
 青森室蘭線 每日一 二 青森室蘭往復(鐵道連絡)
 伏木、樺太、西海岸線 月四 滑川、魚津、函館、小樽、大泊、本斗、真岡、蘭泊、野田寒、泊居、久春内
 小樽大 月五、六 小樽、函館、門司、神戸、大阪行
 橫濱樺太線 月五回 函館、小樽、樺太、西海岸各港行
 函館ニコラエウスク線 夏季一〇 小樽、大泊、真岡、アレキサンドロフスク、ニコラエウスク行
 小樽泊居線 每月三 小樽、大泊、真岡、野田、泊居
 函館安別線 每月四 西海岸國境迄各地行
 函館能登線 每月四 東海岸海狗島迄各地行
 室蘭大湊連絡線 每月一五 室蘭、大湊
 小樽真岡線 每月四 小樽、真岡
 大阪樺太線 夏期十四 西廻線ヲ樺太、大泊、真岡、野田、泊居ニ延長す
 稚内本斗連絡線 每月十五 但シ冬期九 稚内本斗(鐵道ト船車)連帶航路

△南洋郵船

伊太利北米線 月二 一
 紐育神戸線 毎月 一
 日本濠洲線 毎月 一
 紐育漢堡線 二週一
 紐育リバプレート線 月一 一
 臺灣内地線 月一 一

△川崎汽船
 (甲)川崎ルーズベルト線 月一 一
 (乙)川崎ルーズベルト線 月一 七

阪神浦塩線 二週一
 阪神天津線 十日一
 阪神南鮮線 一週一
 阪神北海線 西東廻廻 月一 一

〔セノア、レグホン、ネブレス、リバリ、メツシナ、バレルモ
 アルチール、バレンシア、オラン、紐育、ホストン
 紐育、ノホーク、費府、バルチモア、サバナ、ガルベストン
 ニュオリンズ、モビル、コロン、横濱、神戸
 メルボルン、アデレード、フリマントル、香港、基隆
 上海、神戸、横濱
 紐育、漢堡、ロツテダム
 紐育、ノルホーク、リオアヂヤネイロ、モンテビデオ、ベノスアイレス
 高雄、門司、大阪
 紐育、ノルホーク、バナマ、横濱、神戸、上海、香港
 馬尼刺、瓜哇、海峽殖民地、コロンボ、蘇士、紐育
 神戸、瓜哇、甲谷陀、蘭真、玖馬、紐育、ガルベストン、ホーストン、ニユ
 オルレアンス、巴奈馬、日本
 大阪、神戸、門司、浦塩
 大阪、神戸、門司、大連、天津
 大阪、神戸、門司、釜山、仁川、鎮南浦
 大阪、神戸、熱田、清水、横濱、小樽
 大阪、神戸、門司、新潟、小樽

日本南洋三週一回 四
 (神戸、門司、基隆、バタビヤ、サマラン、スラバヤ、サマラン、マカツサ、バ
 リク、ババン、香港、門司、神戸、横濱、神戸)

△尼崎汽船

朝鮮線 一 二 神戸、門司、釜山、木浦、群山、仁川
 鹿兒島線 若津線 中國線 岡山線 播州線 藝豫線 宇品今治線 伊豫廻下關線 岡山高松線
 以上諸線は南航航線と大同小異に付詳細は省署す

青島航路 月二 一 大阪、神戸、宇品、門司、青島

△栗林商船

ベトロバプロフスク 月一回 一 函館、小樽、ベトロバプロフスク
 其他室蘭内地(三線)釧路内地、浦埜内地、樺太内地及北海道上海航路を經營せり

△國際及川崎汽船

北歐洲大陸東洋線 一 九 〔漢漢、ロツテルダム、ブレイメン、安土府、坡士四
 蘇士、新嘉坡、香港、基隆、上海、門司、神戸、横濱〕

大連安東天津線 每月六回 大阪商船大阪大連定期船接續

大連青島線 每月五回

青島上海線 每月五回

大連龍口線 每月六回

大連貔子窩線 每月十回

青島阪神線 臨時

北米線 △三井船舶部
北支、内地、北米太平洋岸月一回

日本北米線 △山下汽船
月六回 一八

濠洲東洋線 月二回 六

A 日本ポートランド間
B 日本ビウセツトランド間
C 日本ポートランド、ビウセツトサウンド間
上海、香港、神戸、名古屋、横濱、フリマントル、アデレード、メルボルン、シドニー、ニューカッスル、ブリスベン

小樽内地線 月三回 三 小樽、函館、横濱、伊勢灣、大阪、神戸間

天津内地線 月三回 二 横濱、大阪、神戸、門司、大連、天津間

青島内地線 月五回 五 横濱、大阪、神戸、門司、青島間

◎基隆海防線(命令航路)月二回 二 基隆、厦門、汕頭、香港、廣東、北海、海口、海防

◎臺灣内地線 月五回 五 横濱、名古屋、勝浦、大阪、神戸、宇品、門司、三角、基隆、安平、高雄

朝鮮内地線 月六回 四 東京、横濱、伊勢灣、大阪、神戸、門司、兼二浦、群山、仁川、鎮南浦、南浦

(其他東洋、南洋、濠洲、遠洋方面ニ不定期航路ヲ有ス)

◎印商船山下共同經營

自大正十三年九月 本邦汽船配船内容 (總噸數千噸以上 遞信省調査)

至大正十四年二月

航路	九月一日	十月一日	十一月一日	十二月一日	十四年一月一日	二月一日
沿海方面	四六	四六	四七	四七	三五八	三九七
朝鮮方面	三九	八三	八三	九三	一、四三	一、〇四五
浦鹽方面	三五	九一	八八	九三	九三	九三
臺灣方面	四八	一五四	一五八	一五八	一五七	一五七
北支那方面	五九	一八七	一九三	一九四	二〇四	二〇四

中部支那方面	四一	一一、八四五	四三	一一、〇七五	四二	一一、〇六七	四四	一一、八九四	四六	一一、八八三	六〇	一六二、七七四
南支那方面	三三	五、六二〇	二〇	五、九三七	二一	五、九四五	二四	五、八六三	二五	五、九八一	三三	八四、五八二
大洋島方面	九	三〇、二四〇	一〇	三一、一一二	一一	三五、九三三	一一	三四、八九三	一二	三九、九〇四	一八	五七、三四九
瓜哇方面	一四	五五、一三	一五	五七、六八一	一六	六〇、一九九	一八	六四、四九二	一九	六八、八一九	二四	九七、九四六
海峽植民地方面	九	四五、三四九	七	三九、九二一	八	四二、九三九	七	四〇、八八三	八	四三、四七六	一〇	四八、三八三
印度方面	二九	一六〇、三九六	三二	一六三、五二〇	三三	一六四、五八三	三三	一六九、〇八八	三五	一七九、九一七	三五	一八九、〇八〇
濠洲方面	一〇	六〇、二八六	一二	六三、二五四	一四	六七、二二五	一六	七六、二二四	一九	八四、四八七	二五	一四一、〇三三
北米西岸方面	四〇	三〇〇、二一一	三四	二八、三八八	三六	二八、二六六	三八	二六、六六三	四〇	二九、四六一	四七	三三八、八二五
中米方面	一	—	一	三、六七三	二	六、〇四五	三	一四、六六七	三	一九、八一	三	一七、一六五
北米東岸方面	二九	一七六、四九二	三三	一八二、六五五	三〇	一七七、一九二	三五	一九八、四一〇	三九	二一八、五四八	四〇	二五四、一八七
歐洲方面	四七	三四四、三三一	四九	三五三、〇二二	五四	三六三、九四五	五八	三九四、一五六	六三	四二三、七九〇	六四	四四一、三三二
南米西岸方面	七	五三、六四	六	四九、三五六	八	五八、八六八	七	五三、五七五	八	五九、五三九	九	六三、五二二
南米東岸方面	三	七、七六	二	六八、四三八	一〇	六三、〇二〇	九	五三、三三七	九	五二、三三七	一二	七一、七二六
外人傭船	五	一三、三三九	五	一五、八三三	五	一八、四三三	六	二〇、六四三	五	一六、七七七	五	一三、三九九
其他	三三	二七、九〇八	六七	二三四、四一四	六四	二三一、八〇二	六二	二〇、八四五	六〇	一八〇、〇八四	三五	一三五、三三〇
計	九五四	三、四四三、九五二	九五二	三、四四六、六八六	九五三	三、四五三、五二二	九五七	三、四六六、六二七	九五七	三、四七〇、〇七五	九五三	三、四五九、七三七

□日本中心内外競争航路

會社名	戰前(三年七月)	現在(十四年六月)
郵船(倫敦)	定臨	不定期
同(季浦)	—	—
同(漢堡)	—	—
大阪商船	—	—
彼阿汽船	—	—
青筒線	—	—
ローヤル	—	—
メール	—	—
ペンライン	—	—
エラーマン	—	—
佛郵メール	—	—

漢米汽船	北獨ロイド	スチンネス	埃旬ロイド	トリエスチノ	瑞丁東亞汽船	和蘭東亞汽船	スパニツシユ	日本郵船	大阪商船	東洋汽船	加奈陀太平洋	加奈陀政府線	青筒線	ローヤルメール	漢米汽船
二	九	五	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	六	六	五	五	三	三	九	四
二週一回	二週一回	每月一回	每月一回	每月一回	二週一回	二週一回	二週一回	二週一回	二週一回	三週一回	二週一回	二週一回	二週一回	二週一回	二週一回
約每月一回	約每月一回	約每月一回	約每月一回	約每月一回	約每月一回	約每月一回	約每月一回	約每月一回	約每月一回	約每月一回	約每月一回	約每月一回	約每月一回	約每月一回	約每月一回

大北汽船	一	三ヶ月一回
アドミラル線	一	約毎月二回
コロンビヤ汽船	五	約毎月二回
ダラーライン	四	約毎月一回
ストラザース	三	約毎月一回
三井物産	四	約毎月一回
(乙) 北米大西洋岸方面		
日本郵船	七	約毎月一回
大阪商船	四	約毎月二回
青筒線	九	約毎月二回
エラーマン	六	約毎月一回
プリンスライン	七	約毎月一回
ダラーライン	七	約毎月一回
キャツスル	六	約毎月一回
タンバア	七	約毎月一回
(甲) 南米東海岸方面		

日本郵船	一	約隔月一回
大阪商船	一	一ヶ年十回
(乙) 南米西海岸方面		
東洋汽船	三	三ヶ月一回
濠洲	航路	
日本郵船	三	四週一回
大阪商船	三	四週一回
北獨ロイド	三	三週一回
東濠汽船	四	三週一回
濠洲東洋線	二	不定期
中華航業	航路	
(甲) 印度		
印度支那航業	八	約三週一回
英印汽船	七	約三週一回
大阪商船	六	二週一回
日本郵船	六	二週一回
(甲) カルカタ方面		
日本郵船	九	毎月三、三回
大阪商船	三	約毎月一回
英印汽船	五	約毎月二回
印度支那航業	五	約毎月二回

太平洋郵船	一	孟買方面	二	毎月一回
(乙) 孟買方面				
日本郵船	六	二週一回	七	約毎月二回
大阪商船	三	四週一回	七	約毎月二回
彼阿汽船	四	二週一回	四	約毎月一回
埃匈ロイド	六	毎月一回	一	
(乙) 航路				
南洋郵船	四	約三週一回	一	約毎月一回
日本郵船	一	約毎月一回	六	約毎月二回
大阪商船	一	約毎月一回	五	約毎月二回
瓜哇支那日本線	不詳	約毎月二回		
定期船配船 (國別)				
△歐洲航路	三年九月			
船數	一四	總噸數	一〇九、九〇〇	
△歐洲航路	十四年六月			
船數	三三	總噸數	二二、七〇〇	

日本郵船	五	三三、六五三	七	五七、一九〇
英國	三	五〇、九九三	一	
佛國	二	九一、六七六	三	一八、五三九
獨逸	二	一六、八〇〇	二	一三、九四八
伊國	一	三、〇〇〇	一	
瑞典	一	四、〇三三	五	五、八二九
和蘭	一	一〇	三	七、八九七
合計	二七	七六六、〇九四	五	三九、〇九六
(甲) 太平洋岸				
日本郵船	二	一三、三五三	二	一、三三三、二九二
英國	一	七、一六五	二	一九六、一五五
獨逸	一	六三、〇〇四	三	二七、八三九
米國	一	八七、三九九	三	二〇、二八六
(乙) 大西洋岸				
日本郵船	一		二	七〇、〇〇〇

航路
 (自營船)
 (內國備船)
 (外人備船)
 歐洲航路
 地中海
 南米方面
 南亞方面
 日本北米西岸
 北米太平洋
 濠洲航路
 南洋印度支那
 近海一區
 入渠中
 御用船
 繫船
 待難
 遭船

航路	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月
(自營船)	二,〇〇六,三六九	二,〇八五,三九九	二,一三三,一七四	二,一三三,四一〇	二,一三七,〇八三	二,一七九,五二一
(內國備船)	八七七,二五〇	八二二,七三三	八八九,三五四	八八七,五三七	八九九,九八七	八七六,一八八
(外人備船)	一八,五三三	二二,七二四	二一,七八三	二二,七八三	二二,七二四	一六,七五五
歐洲航路	二二八,一八五	五〇四,八一	一七七,三三八	二五六,三三六	二九五,四九九	三三六,九一六
地中海	二九,五三二	六六,五〇〇	六五,〇三九	九三,五五一	三,九三三	四七,三六七
南米方面	一八九,六四〇	三〇一,六三三	二六一,一六〇	二九七,八二七	八,七六九	八,七六九
南亞方面	一九六,七四五	二二四,九三一	一四一,六四三	一三九,〇二五	三六六,三三三	三六七,五八〇
日本北米西岸	二七,三七七	五〇四,七五〇	八一,三二四	六三,〇二八	一九,〇一五	一三七,五九一
北米太平洋	五五三,一八六	五二四,九三七	四三九,九五四	三三三,九〇〇	九二,五九七	一二五,九一四
濠洲航路	一,五六九,七六三	一,四七六,五三九	一,六八,〇三〇	一,六〇五,一三八	一,五三〇,八〇〇	一,四三四,三三八
南洋印度支那	二〇〇,四四八	二六七,三九三	一〇〇,〇七九	一五四,四二四	一三九,九二〇	一六六,一八五
近海一區	五,九六〇	二四,二二〇	六,五八〇	六,一〇〇	六,一〇〇	六,一〇〇
入渠中	二,一〇〇	五七,八六一	二四,二七〇	一〇一,七九〇	五九,八五二	四〇,一八七
御用船	—	—	—	—	—	—
繫船	—	—	—	—	—	—
待難	—	—	—	—	—	—
遭船	—	—	—	—	—	—

合十十九八七六五四
 二一
 計月月月月月月月

(三)

世界標準運賃

樺太	沿海州	北見、天鹽	合計
積取 配船 七隻	積取 配船 三隻	積取 配船 三隻	積取 配船 三隻
積取石數	積取石數	積取石數	積取石數
一,一三三,三七二	一,一五,一八七	七七,六八〇	一,三二五,一四五
一,一六四,九四三	一,三四,八〇三	九六,五四七	一,三六五,二九三
二,〇九五,四一三	一,四三,三五五	一四六,四七五	二,二四二,二六三
一,五〇七,〇九二	二,一三,四八三	一九七,一三六	一,七二〇,七〇七
一,一三三,〇八一	一,七二,二〇一	一〇六,七四四	一,二〇五,九四六
八六六,七九六	一,六四,一五一	八八,三三四	一,〇五九,一八〇
四八九,四二三	一,五八,七四九	一三,〇二六	六六二,一八八
一,一六,〇一五	六,九八一	—	一,二二,九〇六
九,五四二,一九一	一,〇〇七,九一四	九〇四,六六六	一一,四五四,七七六

定期航路		臨時航路	
北米航路 (豆)	歐洲航路 (日本倫敦雜貨)	北米航路 (豆)	歐洲航路 (日本倫敦雜貨)
年月 一月二 五月六 六月七 七月八 八月九 九月十 十月十一 十一月十二 十二月十三 一年十四	年月 一月十五 二月十六 三月十七 四月十八 五月十九 六月二十 七月二十一 八月二十二 九月二十三 十月二十四 十一月二十五 十二月二十六 一年二十七	年月 一月二十八 二月二十九 三月三十 四月三十一 五月	年月 一月三十一 二月 三月 四月 五月 六月 七月 八月 九月 十月 十一月 十二月
命令船 弗	命令船 弗	命令船 弗	命令船 弗
臨時船 弗	臨時船 弗	臨時船 弗	臨時船 弗
運賃	運賃	運賃	運賃

三〇,〇〇〇
三〇,〇〇〇
三〇,〇〇〇
三〇,〇〇〇
三〇,〇〇〇
三〇,〇〇〇
三〇,〇〇〇
三〇,〇〇〇
三〇,〇〇〇
三〇,〇〇〇
三〇,〇〇〇
三〇,〇〇〇
三〇,〇〇〇
三〇,〇〇〇
三〇,〇〇〇
三〇,〇〇〇
三〇,〇〇〇
三〇,〇〇〇
三〇,〇〇〇
三〇,〇〇〇
三〇,〇〇〇
三〇,〇〇〇
三〇,〇〇〇
三〇,〇〇〇

定期航路		臨時航路	
北米航路 (豆)	歐洲航路 (日本倫敦雜貨)	北米航路 (豆)	歐洲航路 (日本倫敦雜貨)
年月 一月二 五月六 六月七 七月八 八月九 九月十 十月十一 十一月十二 十二月十三 一年十四	年月 一月十五 二月十六 三月十七 四月十八 五月十九 六月二十 七月二十一 八月二十二 九月二十三 十月二十四 十一月二十五 十二月二十六 一年二十七	年月 一月二十八 二月二十九 三月三十 四月三十一 五月	年月 一月三十一 二月 三月 四月 五月 六月 七月 八月 九月 十月 十一月 十二月
命令船 弗	命令船 弗	命令船 弗	命令船 弗
臨時船 弗	臨時船 弗	臨時船 弗	臨時船 弗
運賃	運賃	運賃	運賃

三〇,〇〇〇
三〇,〇〇〇
三〇,〇〇〇
三〇,〇〇〇
三〇,〇〇〇
三〇,〇〇〇
三〇,〇〇〇
三〇,〇〇〇
三〇,〇〇〇
三〇,〇〇〇
三〇,〇〇〇
三〇,〇〇〇
三〇,〇〇〇
三〇,〇〇〇
三〇,〇〇〇
三〇,〇〇〇
三〇,〇〇〇
三〇,〇〇〇
三〇,〇〇〇
三〇,〇〇〇
三〇,〇〇〇
三〇,〇〇〇
三〇,〇〇〇
三〇,〇〇〇
三〇,〇〇〇
三〇,〇〇〇

(四) 船 價

□ 本邦船價表

(重量一噸取引値)

年 月	大型船(六千噸以上)			中型船(三千噸以上)			小型船(三百噸以上)		
	新造船	中古船	古船	新造船	中古船	古船	新造船	中古船	古船
三年 七月	一〇〇	七五	六〇	一〇〇	七五	六〇	一〇〇	七五	六〇
四年 自一月至六月	一〇〇	七五	六〇	一〇〇	七五	六〇	一〇〇	七五	六〇
同 自七月至三月	一〇〇	七五	六〇	一〇〇	七五	六〇	一〇〇	七五	六〇
五年 自一月至六月	一〇〇	七五	六〇	一〇〇	七五	六〇	一〇〇	七五	六〇
同 自七月至三月	一〇〇	七五	六〇	一〇〇	七五	六〇	一〇〇	七五	六〇
六年 自一月至三月	一〇〇	七五	六〇	一〇〇	七五	六〇	一〇〇	七五	六〇
同 自四月至六月	一〇〇	七五	六〇	一〇〇	七五	六〇	一〇〇	七五	六〇
同 自七月至九月	一〇〇	七五	六〇	一〇〇	七五	六〇	一〇〇	七五	六〇
同 自十月至十二月	一〇〇	七五	六〇	一〇〇	七五	六〇	一〇〇	七五	六〇
七年 一月	一〇〇	七五	六〇	一〇〇	七五	六〇	一〇〇	七五	六〇
同 三月	一〇〇	七五	六〇	一〇〇	七五	六〇	一〇〇	七五	六〇
同 自四月至六月	一〇〇	七五	六〇	一〇〇	七五	六〇	一〇〇	七五	六〇
同 自七月至九月	一〇〇	七五	六〇	一〇〇	七五	六〇	一〇〇	七五	六〇
同 自十月至十二月	一〇〇	七五	六〇	一〇〇	七五	六〇	一〇〇	七五	六〇

年 月	最高	最低	最高	最低	最高	最低	最高	最低
八年 自一月至六月	三三〇	二〇〇	三三〇	二〇〇	三三〇	二〇〇	三三〇	二〇〇
同 自七月至十二月	三三〇	二〇〇	三三〇	二〇〇	三三〇	二〇〇	三三〇	二〇〇
九年 自一月至六月	三三〇	二〇〇	三三〇	二〇〇	三三〇	二〇〇	三三〇	二〇〇
同 自七月至十二月	三三〇	二〇〇	三三〇	二〇〇	三三〇	二〇〇	三三〇	二〇〇
十年 自一月至六月	三三〇	二〇〇	三三〇	二〇〇	三三〇	二〇〇	三三〇	二〇〇
同 自七月至十二月	三三〇	二〇〇	三三〇	二〇〇	三三〇	二〇〇	三三〇	二〇〇
十一年 最高	三三〇	二〇〇	三三〇	二〇〇	三三〇	二〇〇	三三〇	二〇〇
同 最低	三三〇	二〇〇	三三〇	二〇〇	三三〇	二〇〇	三三〇	二〇〇
十二年 最高	三三〇	二〇〇	三三〇	二〇〇	三三〇	二〇〇	三三〇	二〇〇
同 最低	三三〇	二〇〇	三三〇	二〇〇	三三〇	二〇〇	三三〇	二〇〇
十三年 最高	三三〇	二〇〇	三三〇	二〇〇	三三〇	二〇〇	三三〇	二〇〇
同 最低	三三〇	二〇〇	三三〇	二〇〇	三三〇	二〇〇	三三〇	二〇〇

十一年度以降は海運界最も不振時代にて新古船を問はず實質本位の値段に戻りたる爲め殆んど標準値の適確を期し難し

□ 英國新造船

(重量噸當取引値)

年 月	大型船	小型船
一、九一四年六月	五十七圓	五十五圓
一、九一五年六月	百十圓	百七十五圓
同 十二月	百六十圓	百七十五圓

十	九	八	七	六	五	四	三	二	一	月
二	一									月
二	一									月
二	一									月
二	一									月
二	一									月
二	一									月
二	一									月
同	一	同	一	同	一	同	一	同	一	同
同	一	同	一	同	一	同	一	同	一	同
同	一	同	一	同	一	同	一	同	一	同
同	一	同	一	同	一	同	一	同	一	同
同	一	同	一	同	一	同	一	同	一	同
同	一	同	一	同	一	同	一	同	一	同
同	一	同	一	同	一	同	一	同	一	同
同	一	同	一	同	一	同	一	同	一	同

同 一 同 一 同 一 同 一 同 一 同 一

九二三年最 九二四年最 九二三年最 九二四年最 九二三年最 九二四年最 九二三年最 九二四年最 九二三年最 九二四年最

低 高 低 高 低 高 低 高 低 高 低

英國 英國 英國 英國 英國 英國 英國 英國 英國 英國 英國

六、八八九
七、六四七
七、四六九
六、九三二
六、九三二
五、八〇三
五、八〇三
七、六〇七
七、八〇七
七、九三二
八、三〇五

英國 英國 英國 英國 英國 英國 英國 英國 英國 英國 英國

四 磅 志
八 磅 志
六 磅 志
八 磅 志
六 磅 志
八 磅 志
六 磅 志
八 磅 志
六 磅 志
八 磅 志
六 磅 志

同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同

同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同

六、八八九
七、六四七
七、四六九
六、九三二
六、九三二
五、八〇三
五、八〇三
七、六〇七
七、八〇七
七、九三二
八、三〇五

一二磅一〇志
一四磅五志
一二磅十志
一三磅五志
一二磅志

一	同	一	同	同	同	圓	一	同	同	一	同	同	一	同	同	一	同	同	一	同
一	同	一	同	同	同	圓	一	同	同	一	同	同	一	同	同	一	同	同	一	同
一	同	一	同	同	同	圓	一	同	同	一	同	同	一	同	同	一	同	同	一	同
一	同	一	同	同	同	圓	一	同	同	一	同	同	一	同	同	一	同	同	一	同
一、九二二年最	同	一、九二〇年最	同	同	同	圓	一、九一九年一	同	同	一、九一八年三	同	同	一、九一七年三	同	同	一、九一六年六	同	同	一、九一六年六	同
高	低	高	低	高	低	高	高	高	高	高	高	高	高	高	高	高	高	高	高	高
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同

同 同

二百四十四圓
二百五十五圓
二百七十圓
二百四十四圓
百四十六圓
百九十五圓
二百九十二圓
二百五十七圓
百三十五圓
四百四十五圓
四百六十圓
三百八十圓
四一八磅
一〇磅二志四片
四磅一八志一片
六磅

同 同

二百六十圓
二百八十圓
三百圓
三百五十圓
四百六十三圓
四百四十八圓
三百九十五圓
四百六十五圓
三百五十五圓
四百六十圓
四百二十圓
四百二十圓
四百二十圓
三百五十圓
二〇五磅
一五磅八志
一〇磅八志
一三磅五志

賣買船月別表 (十三年)

(外船購入ヲ除ク)

船名	製造年月	噸數	受渡月	價格	當買主
伏木	一九二〇年	五二〇	一月	五二〇圓	秋田
正保	一九二〇年	五二〇	三月	五二〇圓	青森
神功	一九二〇年	九〇〇	三月	十二萬圓	宇部
鹿兒島	一九二〇年	三、八五〇	一月	四十萬圓	樺太
伏見	一九二〇年	一、五〇〇	一月	七萬圓	尾道
橫濱	一九二〇年	一、〇〇〇	一月	二十萬圓	近海
新造	一九二〇年	一、〇〇〇	一月	十一萬圓	朝鮮
三彌	一九二〇年	一、〇〇〇	二月	三〇圓	原田
鹿嶋	一九二〇年	三、五〇〇	同	四〇圓	東京
神形	一九二〇年	四、三〇〇	同	十三萬圓	同
駒形	一九二〇年	四、三〇〇	同	十四萬圓	笠原

船名	製造年月	噸數	受渡月	價格	當買主
天	一九二〇年	三、五〇〇	直渡	百圓	朝鮮 郵船
基	一九二〇年	二、〇〇〇	同	二十萬圓	同
瑞	一九二〇年	三、五〇〇	同	三萬五千圓	靑島 商船
東	一九二〇年	一、八〇〇	三月	十一萬圓	小池 商店
關	一九二〇年	一、八〇〇	四月	百圓	青木(門司) 郵船
東	一九二〇年	一、九七〇	四月	二萬二千圓	朝鮮 郵船
一	一九二〇年	八、〇〇〇	直渡	二三萬圓	北日本
三	一九二〇年	一、七〇〇	四月末	一〇、〇〇〇	沖山 炭礦
伏	一九二〇年	一、五〇〇	直渡	三、三〇〇	野村 木材
辨	一九二〇年	一、五〇〇	同	三、八〇〇	野村 木材
銀	一九二〇年	一、九七〇	直渡	三十圓五十錢	南洋 興業

船名	製造年月	噸數	受渡月	價格	當買主
紫尾山	一九二〇年	一、九七〇	九月	十圓	朝鮮 郵船
日英	一九二〇年	二、八〇〇	直渡	四萬八千圓	大阪 船具
青葉山	一九二〇年	三、〇〇〇	同	六千五百圓	大阪 船具
櫻城	一九二〇年	一、〇〇〇	同	一萬五千圓	東京 某
三長	一九二〇年	六、〇〇〇	同	一萬五千圓	東京 某
海州	一九二〇年	三、〇〇〇	同	三、〇〇〇圓	松坂
海運	一九二〇年	一、〇〇〇	明年	八萬二千圓	小樽
帝	一九二〇年	一、八七〇	十月	十五萬圓	小樽
十一	一九二〇年	三、七五〇	直渡	七萬五千圓	九州 汽船
英	一九二〇年	三、〇〇〇	同	十五萬圓	杉垣
呂	一九二〇年	一、九〇〇	七月	六萬圓	小池
馬	一九二〇年	七、〇〇〇	同	卅萬圓	中野
喜	一九二〇年	二、〇〇〇	同	四十萬圓	南洋 鑛業
安	一九二〇年	二、〇〇〇	同	十萬五千圓	大信 洋行
三	一九二〇年	二、〇〇〇	同	八萬圓	朝鮮 郵船
二	一九二〇年	二、〇〇〇	同	八萬圓	朝鮮 郵船

船名	製造年月	噸數	受渡月	價格	當買主
五	一九二〇年	二、五〇〇	十月	三、三〇〇	工藤
佐	一九二〇年	三、八七〇	直渡	九萬圓	小池 商店
俊	一九二〇年	三、〇〇〇	同	四萬圓	大阪 船具
二	一九二〇年	一、八五〇	同	九圓	朝鮮 郵船
二	一九二〇年	一、八五〇	同	九圓	朝鮮 郵船
代	一九二〇年	一、六〇〇	直渡	九〇圓	朝鮮 郵船
神	一九二〇年	六、〇〇〇	同	七千圓	共成
日	一九二〇年	二、七〇〇	同	七萬圓	菅原 雄平
土	一九二〇年	七、六〇〇	二月	一萬圓	大阪 海工業
辨	一九二〇年	五、七五〇	月末	二〇萬圓	林 汽船

本邦對外賣買船 (殖民地ヲ含ム)
 (購入船ハ登錄濟賣却船ハ未登錄ヲ含ム)

(五) 備船

船名	重量噸	建造年	價格	買主
十一平榮	七、三〇〇	一、八九八	一八、五〇〇磅	樺太汽船
大正十三年	七	七	六、三三三	
大正十二年	七	七	九〇、二五五	
大正十一年	四	四	一六、〇〇〇	
大正十年	六	六	五、七五一	
大正九年	五	五	五、四〇〇	
大正八年	六	六	九〇〇	
大正七年	六	六	三、八四三	
大正六年	三	三	一〇、九八一	
大正五年	三	三	五、一四六	
大正四年	一	一	七、八四四	

輸出入船明細

船名	噸數	日期	買主
春高	三、四〇〇	一九二〇	山本商事
晴海	一、三〇〇	一九一九	島谷
宇賀	八、一〇〇	一九一八	矢吹
十二札幌	七、一八〇	一九一九	松岡
福興	四、七〇〇	一九二〇	犬上
博洋	四、〇二二	一九一九	日本海運
黑山	五、一〇〇	一九二〇	二宮
天久	八、〇〇〇	一九二〇	板谷商船
長安	五、四〇五	一九二〇	近野
永安	三、四六五	一九二〇	小野
宜洋	六、三三五	一九二〇	大連汽船
十二平榮	五、〇〇〇	一九一九	草場
大雲	八、二〇〇	一九一九	樺太汽船
高國	四、八〇〇	一九二〇	中村組
	八、七〇〇	一九二〇	內外汽船
	五、一五〇	一九二〇	板谷商船

本邦備船料消長 (單位錢)

月次	大型	中型	小型
七月	△大 正三	一七五	
三月	△大 正三	三七〇	
六月	△大 正三	四八〇	
九月	△大 正三	三八〇	
十二月	△大 正三	三〇〇	
三月	△大 正三	三〇〇	
六月	△大 正三	三〇〇	
九月	△大 正三	三〇〇	
十二月	△大 正三	三〇〇	

月次	世界航路	普通遠洋	近海航路
三月	△大 正三	三〇〇	二六〇
六月	△大 正三	三〇〇	二八〇
九月	△大 正三	三〇〇	二八〇
十二月	△大 正三	三〇〇	二八〇
三月	△大 正三	三〇〇	二八〇
六月	△大 正三	三〇〇	二八〇
九月	△大 正三	三〇〇	二八〇
十二月	△大 正三	三〇〇	二八〇

六三	十二	九六	三	十二	九六	三	十二	九	六
月	月	月	月	月	月	月	月	月	月
△大	△大	△大	△大	△大	△大	△大	△大	△大	△大
二五〇〇	二〇〇〇	正三〇〇	一三〇〇	一五〇〇	二七〇〇	二八〇〇	三〇〇〇	三五〇〇	正四〇〇
〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇
年	年	年	年	年	年	年	年	年	年
二七〇〇	二一〇〇	一三〇〇	一三〇〇	一八〇〇	二七〇〇	二五〇〇	二九〇〇	三〇〇〇	三五〇〇
〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇
三五〇〇	三〇〇〇	二三〇〇	三三〇〇	二九〇〇	三六〇〇	三〇〇〇	二八〇〇	二八〇〇	二七〇〇
〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇

の抑壓の爲め一ヶ年を通し二十九志乃至三十志の釘付の姿にて中立國船大西洋航路左の如し

十二	十一	十	九	八	七	六	五	四	三	二	一	十二
月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月
△大	△大	△大	△大	△大	△大	△大	△大	△大	△大	△大	△大	△大
二〇〇〇	二四〇〇	二五〇〇	二五〇〇	二五〇〇	二五〇〇	二五〇〇	二五〇〇	二五〇〇	二五〇〇	二五〇〇	二五〇〇	二五〇〇
〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇
年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年
三五〇〇	三五〇〇	三五〇〇	三五〇〇	三五〇〇	三五〇〇	三五〇〇	三五〇〇	三五〇〇	三五〇〇	三五〇〇	三五〇〇	三五〇〇
〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇

目次

十九	九	六	三	十九	九	六	三	十九	七
二	月	月	月	二	月	月	月	二	月
△一、九一七	△一、九一七	△一、九一七	△一、九一七	△一、九一五	△一、九一五	△一、九一五	△一、九一五	△一、九一五	△一、九一五
〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇
年	年	年	年	年	年	年	年	年	年
三七〇〇	三〇〇〇	三五〇〇	三六〇〇	二二〇〇	一四〇〇	一四〇〇	一四〇〇	一四〇〇	一四〇〇
〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇
四五、六	三八、〇	四三、〇	四一、〇	二八、〇	一六、〇	一五、〇	一五、〇	一五、〇	一五、〇
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇

安全航路

危険航路

の抑壓の爲め一ヶ年を通し二十九志乃至三十志の釘付の姿にて中立國船大西洋航路左の如し

三月 四十五志六片 二月 四十八志六片
 三月 五十志 七月 五十七志六片
 △一、九一八年 (大正七年)

大西洋航路諸威船 自四千噸至六千噸 四三志六片
 同 (同) 六千噸以上 四一志六片
 同 (同) 六千噸以上 四五志
 英佛間 二八志—二五志

a 公定率 △一、九一九年 (大正八年)

一、聯合國貨率管理委員ノ公定率ハ左ノ如ク、大西洋方面ニ在リテ左記公定率ニ制限セラレ居リタリ。

(1) 諾威船 D.W 四、〇〇〇噸 四三志六片
 同 六、〇〇〇噸以上 四一志六片

(2) 丁抹船 各型共一率ニ 四五志

□英國備船料消長

△一、九一四年 (大正三年)

備船成約月別記録 (十三年中) (主要成約)

船名	重量	受渡月	期間	備船料	備船	主
十八小野	二、一五〇	四月	一ケ年	五、三〇	栗	林
ハドソン	六、一〇〇	三月	三ケ月	二、四〇	井	口
島	八、三〇〇	同	同	四、〇〇	新	盛
清島	四、六〇〇	一月	一ケ年	三、三〇	飯	田
廣速	五、一〇〇	一月	一ケ年	三、四〇	杉	村
英正	一、六〇〇	同	同	五、五〇	浦	崎
金山	八、二五〇	三月	一ケ月	七、〇〇	陸	省
ノウルリサ	四、〇〇〇	二月	一ケ年	一、六〇	極	東
英龍	五、九〇〇	一月	一ケ年	三、五〇	福	島
神福	三、三〇〇	二月	同	四、三〇	小	海
神隆	四、九〇〇	同	同	三、八三	近	海
膠州	二、九〇〇	二月	同	三、五〇	大	阪
甲春	八、七〇〇	四月	一ケ年	三、〇〇	樺	太
三河	四、五二五	直渡	六ケ月	三、三〇	井	井

船名	重量	受渡月	期間	備船料	備船	主
明宇	二、六〇〇	直渡	一航海	二、二〇	極	馬
美崎	七、一五〇	四月	六ケ月	二、五〇	大	東
長府	一、八五〇	直渡	一ケ年	四、五〇	山	下
漢口	四、九五〇	同	三ケ月	二、四〇	同	同
バシ	九、一〇〇	同	二ケ月	二、四〇	同	同
来島	八、〇〇〇	三月	六ケ月	五、五〇	窪	山
春南	九、五〇〇	三月	六ケ月	二、〇〇	日	本
甲華	八、四〇〇	四月	八ケ月	三、〇〇	樺	太
南順	六、六〇〇	三月	六ケ月	二、八五	山	下
二順	九、〇〇〇	二月	九ケ月	六、五〇	兩	館
平順	二、二〇〇	四月	六ケ月	四、五〇	松	田
龍威	八、三〇〇	直渡	六ケ月	一、七〇	山	下
神浦	二、四〇〇	二月	一ケ年	四、〇〇	大	阪
紋浦	一、八五〇	直渡	六ケ月	五、〇〇	鈴	木
ラグ	一、〇〇七	二月	四ケ月	六、三〇	大	洋
ラグ	八、〇〇〇	四月	年	二、七〇	北	洋

(3) 瑞典其他中立國船
 D.W 四、〇〇〇噸 四一志九片
 五、〇〇〇噸
 二、次テ二月ニ英國政府ニテ公定率ヲ制定セリ。
 (1) 七百五十噸以上千五百噸未満 四一〇
 (2) 千五百噸以上二千五百噸未満 二八〇
 (3) 二千五百噸以上 二五〇
 三、四月ニ至リ聯合國備船委員ニヨリテ英、佛、伊間
 中立國船公定率ヲ左ノ如ク公定ス。
 (1) 四月迄 船型ニヨリ 二五志一五〇志
 (2) 自五月至七月 二一志一四二志
 (3) 自八月至明年三月 一八志一三六志
 b 市場率
 一月二月ハ一ニ志六片乃至一四志六片ノ相場ナリシ
 モノ、三月ニ入り騰貴シテ二志トナリ五月頃迄保
 合ノ状態ヲ維持シ、六月、七月ハ更ニ二五志ニ昂騰
 セシガ、八月ニ入り一部運賃、備船料制限撤廢ニ影
 響セラレテ二十八志トナリシガ、十月ヨリ年末ニカ

月次	最高	最低	月次	最高	最低
三月	△千九百二十年	二一	三月	最高	最低
六月	二四	二一	六月	最高	最低
九月	△一九二一年	二一	九月	最高	最低
十二月	一四	二一	十二月	最高	最低
三月	△一九二二年	二一	三月	最高	最低
六月	一四	二一	六月	最高	最低
九月	△一九二三年	二一	九月	最高	最低
十二月	一四	二一	十二月	最高	最低
三月	△一九二四年	二一	三月	最高	最低
六月	一四	二一	六月	最高	最低
九月	△一九二五年	二一	九月	最高	最低
十二月	一四	二一	十二月	最高	最低

松	三	十	三	春	神	京	千	吉	遼	大	平	南	大	大	滿
乾	乾	坤	信	川	愛	都	山	山	河	國	戶	海	和	二	壽
五、三〇	五、三〇	五、三〇	三、六〇	一、六〇	六、四〇	三、九〇	二、一〇	七、〇〇	△五、	九、三〇	四、四三	二、二五	八、〇〇	六、八三	六、〇〇
六月	同	直渡	同	同	同	五月	繼續	胃末	胃末	胃末	胃末	胃末	胃末	胃末	胃末
一ヶ月	一ヶ月	六ヶ月	同	年	同	一ヶ月	同	年	六ヶ月	一ヶ月	一ヶ月	一ヶ月	一ヶ月	一ヶ月	一ヶ月
六、三〇	一、七〇	二、五〇	三、四〇	五、〇〇	二、〇〇	二、八〇	四、六〇	四、五〇	一、五〇	三、三〇	五、三〇	二、〇〇	二、八〇	三、三〇	六、五〇
富	大	上	栗	山	同	近	大	村	同	山	樺	鈴	某	隱	某
田	阪	野	林	下	郵	船	船	尾	下	山	太	太	太	太	太
商	商	商	商	商	商	商	商	商	商	商	商	商	商	商	商
田	船	野	林	下	郵	船	船	尾	下	山	太	太	太	太	太

漢	オ	春	長	神	日	東	八	石	龍	壽	千	菊	天	海	駒	漢
口	夕	陽	久	宮	南	瀛	坤	狩	王	寶	山	桐	祐	城	形	口
四、九〇	八、一〇	一、三五	三、四〇	三、三〇	二、七〇	三、六〇	八、八〇	七、二〇	九、〇〇	一、四〇	三、〇〇	△六、	八、二〇	六、四〇	二、五〇	四、〇〇
同	同	直渡	同	直渡	下	繼續	六月	中旬	同	繼續	繼續	月	同	月	繼續	繼續
年	片	年	年	三ヶ月	年	八ヶ月	四ヶ月	二ヶ月	同	四ヶ月	年	同	六ヶ月	一ヶ月	八ヶ月	二ヶ月
二、一〇	一、八〇	五、五〇	二、九〇	二、五〇	二、三〇	三、一〇	一、五〇	二、〇〇	一、四〇	三、五〇	四、五〇	一、五〇	一、六〇	三、〇〇	三、八〇	二、二〇
鈴	山	北	同	山	栗	開	樺	同	山	野	大	樺	極	近	香	山
本	下	海	下	林	下	林	太	下	山	村	阪	太	東	海	港	下
木	下	下	下	下	下	下	下	下	下	下	下	下	下	下	下	下

大	立	佐	ア	大	龍	明	大	日	美	大	天	平	春	明	夕
隆	石	川	イ	山	王	元	正	東	保	新	洋	平	祥	光	顔
三、四七	六、七〇	一、七五	七、五〇	九、〇〇	八、九七	四、五〇	三、四八	七、八〇	二、六〇	五、七〇	七、七〇	二、三〇	九、五〇	六、七九	四、九三
三月	四月	同	三月	四月	同	同	三月	四月	同	三月	繼續	直渡	三月	四月	三月
八ヶ月	三ヶ月	同	年	六ヶ月	六ヶ月	七ヶ月	一ヶ月	年	一ヶ月	六ヶ月	年	六ヶ月	九ヶ月	一航	六ヶ月
四、二〇	三、五〇	四、五〇	二、八〇	六、三〇	一、八〇	二、九〇	二、八〇	二、八〇	四、〇〇	四、三〇	二、八〇	三、〇〇	五、一〇	一、七〇	三、二〇
山	同	同	山	八	大	山	同	北	近	山	同	山	日	太	正
下	下	下	下	下	下	下	下	下	下	下	下	下	下	下	下

一	石	朝	廣	遼	富	寶	廣	神	歷	宇	大	淀	永	廿	旺	瓜
厚	狩	鮮	祐	河	貴	珠	榮	香	山	賀	圖	仁	仁	三	洋	哇
五、〇〇	七、二〇	八、八〇	八、四〇	九、三〇	三、五〇	一、三〇	二、五〇	六、四〇	二、〇八	七、一〇	四、四六	三、五〇	一、二五	△四、	八、五〇	七、八五
繼續	同	同	四月	月	直渡	四月	直渡	五月	五月	五月	同	同	直渡	月	月	直渡
年	六ヶ月	年	六ヶ月	八ヶ月	一ヶ月	一ヶ月	一ヶ月	一ヶ月	二ヶ月	一航	八ヶ月	三ヶ月	年	年	六ヶ月	一航
三、二〇	二、九〇	三、三〇	二、五〇	一、七〇	三、五〇	四、〇〇	三、六〇	一、八〇	四、五〇	二、〇〇	三、六〇	四、〇〇	五、七〇	五、七〇	二、七〇	二、〇〇
栗	鈴	樺	同	山	栗	門	浦	近	山	同	山	城	北	杉	樺	大
林	木	太	下	下	下	下	下	下	下	下	下	下	下	坂	太	阪

攝山	二陽	白鳳	神護	劍山	十二多	濟洲	立石	須磨	萬里	漢口	神王	五龍	金龍	正元	北洋
一、五〇	一、五〇	二、九四	二、九四	一〇、六五	八、〇〇	六、八〇	五、三〇	四、七〇	四、七〇	四、九四	三、三〇	二、六〇	七、三〇	五、二四	七、四〇
十月	十月	十月	十月	十月	十月	十月	十月	十月	十月	十月	十月	十月	十月	十月	十月
四ヶ月	五ヶ月	同	六ヶ月	一航海	六ヶ月	二ヶ月	同	同	同	六ヶ月	同	三ヶ月	六ヶ月	一ヶ月	一ヶ月
三、七〇	一、八〇	二、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	二、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇
東洋	鐵道	同	大阪	外	同	同	同	同	同	近海	大阪	同	山	近海	日露
捕鯨	省	同	商船	人	同	同	同	同	同	同	商船	同	下	下	漁業

廣祐	愛國	富喜	大隆	浦沙	神天	關東	五州	平戶	三日	吉林	豐彦	二旗	廿相	長山	一大
八、四〇	五、一〇	三、七〇	三、五〇	一、三〇	三、〇〇	二、八〇	八、〇〇	二、二五	四、四〇	五、五〇	七、九〇	一、七五	二、〇〇	八、四〇	二、一〇
同	直渡	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
三ヶ月	一ヶ月	一航海	六ヶ月	三ヶ月	同	一ヶ月	六ヶ月	五ヶ月	一ヶ月	六ヶ月	二ヶ月	同	六ヶ月	同	三ヶ月
一、三〇	一、五〇	一、四〇	一、三五	三、三〇	三、〇〇	一、五〇	二、〇〇	一、七〇	一、〇〇	一、〇〇	二、三〇	二、五〇	一、〇〇	二、三〇	三、三〇
山下	大阪	日本	山	北	同	近海	日本	同	同	同	山下	新盛	大阪	山	大連
汽船	商船	郵船	下	日本	同	郵船	木	汽船	同	同	汽船	舍	商船	下	田中

元山	銀山	萬世	石狩	荻島	御影	南都	豐國	六島	淺間	福江	錦江	福勢	二御	夕イムス
五、二〇	二、七〇	二、七〇	七、一八〇	二、〇〇	三、七五	一、三〇	二、三〇	八、五〇	七、四〇	四、〇〇	五、〇〇	一、八六	一、三〇	三、四〇
九月	九月	九月	直渡	一	繼續	直渡	月	同	直渡	同	同	同	同	同
同	一ヶ月	一ヶ月	一ヶ月	一ヶ月	一ヶ月	三ヶ月	年	二ヶ月	一航海	一ヶ月	四ヶ月	一ヶ月	年	一ヶ月
二、〇〇	二、七〇	七、一〇	一、五〇	二、八〇	二、七〇	五、〇〇	七、一〇	六、五〇	一、八〇	二、三〇	三、三〇	三、八〇	四、一五	六、三〇
同	近海	陸軍	北洋	北洋	山	中	陸軍	山	宮	山	日神	近海	北海	開
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同

大正	謙元	富謙	たすまに	長福	關野	登久	射水	春水	天裕	三乾	增穂	釜山	神福	大通
五、一〇	三、五〇	八、二〇	六、三六	八、八〇	一、五〇	八、〇〇	一、六〇	四、四〇	六、四〇	五、三〇	一、六〇	三、五〇	三、六三	一、九五
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
三ヶ月	六ヶ月	一航海	同	一航海	三ヶ月	二月半	一ヶ月	一ヶ月	一ヶ月	一ヶ月	同	一航海	三ヶ月	八ヶ月
四、五〇	一、三〇	一、七〇	一、三〇	一、四〇	四、〇〇	一、一〇	三、三〇	一、二〇	一、二〇	一、六〇	日貨	日貨	日貨	二、七〇
サルベージ	近海	加太	日本	山	北海	山	鈴	近海	東	山	函	日貨	日貨	城
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同

十	九	八	七	六	五				同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
一									十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十
年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年

海員事務成績

新交付 再交付 返還 雇人 雇止 公認 就職船長 退職船長

一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一

(六) 海員

海員現在數

大正五年	內國人	外國人	合計	海技免狀受有者	內國人	外國人	合計
	二五、〇九七	二、八三五	二、五六、九五	三、一九六	三五一	三、九三七	三、九三七

大	五	福	英	太	ハ	金	春	大	福
御	影	浦	龍	陽	ド	山	和	喜	喜
壽	浦	龍	陽	陽	ソ	山	和	喜	喜
一、九四〇	五、六〇〇	四、五〇〇	五、九〇〇	五、五〇〇	六、〇〇〇	二、七〇〇	四、四〇〇	六、八三三	八、六五二
直渡	中旬	上月末	同	直渡	直渡	上月末	同	直渡	直渡
一ヶ月	一ヶ月	一航海	同	六ヶ月	三ヶ月	一ヶ月	一ヶ月	三ヶ月	一航海

同 同 同 同 同 同 同	同 同 同 同 同 同 同	同 同 同 同 同 同 同	同 同 同 同 同 同 同	高等審判		地方審判	
				受理數	裁決數	受理數	裁決數
				件數	人員數	件數	人員數
十二年	十二年	十二年	不詳	一	一	七三	一
十一年	十一年	十一年	一五	一	一	九一	一
十年	十年	十年	二六	一	一	七五	一
九年	九年	九年	一〇〇	三	三	九七	一
八年	八年	八年	四三	三	三	六九	一
七年	七年	七年	五三	三	三	七〇	一
六年	六年	六年	三三	三	三	七一	一
五年	五年	五年	三三	三	三	七五	一
四年	四年	四年	三三	三	三	九六	一
三年	三年	三年	三三	三	三	九七	一
二年	二年	二年	三三	三	三	七三	一
一年	一年	一年	三三	三	三	五〇	一
合計			三三〇	三三	三三	七三	一〇

同 同 同 同 同 同 同	海技受驗者		船舶職員登錄	
大正	受驗者	合格者	同	同
十二年	九、六四二	二、八一一	同	同
十一年	一、二〇〇	三、一〇〇	同	同
十年	六、三六九	二、四〇〇	同	同
九年	八、六八一	三、〇〇〇	同	同
八年	一、四八五	三、七一五	同	同
七年	一、四八五	三、七一五	同	同
六年	一、四八五	三、七一五	同	同
五年	一、四八五	三、七一五	同	同
四年	一、四八五	三、七一五	同	同
三年	一、四八五	三、七一五	同	同
二年	一、四八五	三、七一五	同	同
一年	一、四八五	三、七一五	同	同
合計	一、二、四八五	三、七一五	三、〇三五	三、〇三五

□海技免狀受有者別

十一年九月末	十一年	十年	九年	八年	七年	六年	五年	甲種				乙種					
								船長	運轉士等	運轉士等	船長	運轉士等	運轉士等	機關長	機關士等	機關士等	機關士等
外 人 一 六	內 人 一 五 〇	外 人 一 七 六	內 人 一 四 〇	外 人 一 七 九	內 人 一 三 七	外 人 一 三 七	內 人 一 〇 七	一、五〇四	九〇三	一、〇三三	一、〇三三	一、〇三三	一、〇三三	一、〇三三	一、〇三三	一、〇三三	一、〇三三
外 人 一 六	內 人 一 五 〇	外 人 一 七 六	內 人 一 四 〇	外 人 一 七 九	內 人 一 三 七	外 人 一 三 七	內 人 一 〇 七	一、〇三三	一、〇三三	一、〇三三	一、〇三三	一、〇三三	一、〇三三	一、〇三三	一、〇三三	一、〇三三	一、〇三三
外 人 一 六	內 人 一 五 〇	外 人 一 七 六	內 人 一 四 〇	外 人 一 七 九	內 人 一 三 七	外 人 一 三 七	內 人 一 〇 七	一、〇三三	一、〇三三	一、〇三三	一、〇三三	一、〇三三	一、〇三三	一、〇三三	一、〇三三	一、〇三三	一、〇三三
外 人 一 六	內 人 一 五 〇	外 人 一 七 六	內 人 一 四 〇	外 人 一 七 九	內 人 一 三 七	外 人 一 三 七	內 人 一 〇 七	一、〇三三	一、〇三三	一、〇三三	一、〇三三	一、〇三三	一、〇三三	一、〇三三	一、〇三三	一、〇三三	一、〇三三

大工	水夫	水夫	雜水夫	普通水夫	無線技術手	雜役夫	練習生	客室ホーイ	機長	一等機關士	二等機關士	三等機關士	四等機關士	見習	油庫	倉庫
1	1	1	2	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
5,360	4,000	3,500	5,700	5,700	6,700	7,000	9,500	7,000	1,500	7,000	7,000	7,000	7,000	4,000	4,000	4,000
2,600	2,600	1,600	9,900	9,900	7,600	7,600	9,500	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
4,380	4,380	4,380	4,380	4,380	4,380	4,380	4,380	4,380	4,380	4,380	4,380	4,380	4,380	4,380	4,380	4,380
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
3,760	3,760	3,760	3,760	3,760	3,760	3,760	3,760	3,760	3,760	3,760	3,760	3,760	3,760	3,760	3,760	3,760
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
3,300	3,300	3,300	3,300	3,300	3,300	3,300	3,300	3,300	3,300	3,300	3,300	3,300	3,300	3,300	3,300	3,300
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
2,800	2,800	2,800	2,800	2,800	2,800	2,800	2,800	2,800	2,800	2,800	2,800	2,800	2,800	2,800	2,800	2,800
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
7,500	7,500	7,500	7,500	7,500	7,500	7,500	7,500	7,500	7,500	7,500	7,500	7,500	7,500	7,500	7,500	7,500

職名	船長	醫士	一等運轉士	二等運轉士	三等運轉士	會計	書記	倉庫番	舵手
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
9,000	9,000	7,000	7,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000
6,600	6,600	5,300	5,300	3,800	3,800	3,800	3,800	3,800	3,800
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
10,500	10,500	7,800	7,800	5,300	5,300	5,300	5,300	5,300	5,300
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
8,800	8,800	7,000	7,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
11,000	11,000	7,600	7,600	5,500	5,500	5,500	5,500	5,500	5,500
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
7,300	7,300	5,800	5,800	4,000	4,000	4,000	4,000	4,000	4,000
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
18,500	18,500	15,000	15,000	11,000	11,000	11,000	11,000	11,000	11,000

世界海運主要國海員給料比較 (一九二四年七月) (甲)

英國	甲	諾威	和蘭	日本	瑞典	佛國	米院船
1	1	1	1	1	1	1	1
3,553	3,801	4,383	9,840	10,000	11,000	13,000	1,197
2,787	3,801	4,383	4,520	7,300	7,600	8,200	485
1	1	1	1	1	1	1	1
1,640	1,640	2,130	10,100	11,000	11,000	13,000	1,197
1	1	1	1	1	1	1	1
4,520	4,520	4,520	10,100	11,000	11,000	13,000	1,197
1	1	1	1	1	1	1	1
1,640	1,640	2,130	10,100	11,000	11,000	13,000	1,197
1	1	1	1	1	1	1	1
4,520	4,520	4,520	10,100	11,000	11,000	13,000	1,197
1	1	1	1	1	1	1	1
1,640	1,640	2,130	10,100	11,000	11,000	13,000	1,197
1	1	1	1	1	1	1	1
4,520	4,520	4,520	10,100	11,000	11,000	13,000	1,197

火夫兼油差	火夫見習	石炭	司廚長	司廚	コック長	コック	麵包師	補助コック	ポイ	合計
九	三	三	一	一	一	一	一	一	一	元一、七六、七
三、七四、四	二八、六	三	五、四	一	五、六	一	三、八五	三、〇四	三、〇二	元一、七六、七
九	三	三	一	一	一	一	一	一	一	元一、七六、七
九	三	三	一	一	一	一	一	一	一	元一、七六、七
三、四、八四	四、八七	一、九〇、八	六	一	一	一	一	一	一	元一、七六、七
二五、二四	二	二	二	二	二	二	二	二	二	元一、七六、七
九	二	二	二	二	二	二	二	二	二	元一、七六、七
三、七〇、四	五、四	三	八、四	一	三、九	一	三、九	一	一	元一、七六、七
九	三	三	一	一	一	一	一	一	一	元一、七六、七
二〇、七五	三	三	三、〇	一	二、六	一	三、六	一	一	元一、七六、七
九	三	三	一	一	一	一	一	一	一	元一、七六、七
六、七、五	一八、〇〇	一八、〇〇	一〇〇、〇〇	一〇〇、〇〇	一〇〇、〇〇	一〇〇、〇〇	一〇〇、〇〇	一〇〇、〇〇	一〇〇、〇〇	元一、七六、七

(備考) 本統計は米國商務省の蒐集作成に係り同一航路に従事する重量噸八千八百噸類似型汽船の乗組員給料を比較したるものなり(但し日本船同一型なるも航路を異にせり)
 船長の給料は各國共記載し居らず之れ外國にては船長の給料は特に船主と本人との直接協定に依るものが多いか爲めなり
 本表の各國海員給料は同國船舶院の支給率を採用せり
 本調査は一九二四年七月現在なるも英國の分は同年六月十五日現在なりとす
 各國給料額は米貨に換算の弗、單位〇〇仙なり

世界主要國海員給料 (乙)

船運長	二運長	一運長	機關長	二機長	一機長	水工	大工	舵番	倉庫番	水夫	同見習	火夫
日本	英國	米國	獨逸	日本	英國	米國	獨逸	日本	英國	米國	獨逸	日本
乗組員	乗組員	乗組員	乗組員	乗組員	乗組員	乗組員	乗組員	乗組員	乗組員	乗組員	乗組員	乗組員
給料	給料	給料	給料	給料	給料	給料	給料	給料	給料	給料	給料	給料
二、四〇〇	一、八〇〇	二、一〇〇	二、五〇〇	二、〇〇〇	一、五〇〇	一、〇〇〇	一、五〇〇	一、〇〇〇	一、五〇〇	一、〇〇〇	一、五〇〇	一、〇〇〇

油差 二二〇
 倉庫番 八〇
 副關番 一八〇
 火夫 七五
 同見習 三〇
 石炭夫 一八九
 船長 一〇〇
 料理人 二〇〇
 給仕 二〇〇
 無電技 二〇〇
 合計 四、九一九

(備考) 一、日本は歐洲通ひ、米國は船舶院所有船、英國は東洋通ひ各九千噸級客船乗組員及給料を示す
 二、獨逸は七千噸級貨物船乗組員及給料を示す
 三、本邦社船に在りては左表以外尙乗組員多きものなり
 四、外國に於ては時間外割増給料の制あるも我國船員はの如き賞與なきを以て此等の點を加味參酌せば我國英國船知給料と大差なき計算となるべし

海員勞働時間比較 (一週間)

造船

本邦船側の海員勤務は各部を通じて一日四時間交替
二回の外に二三時間即ち十時間乃至十一時間

船名	水夫	木工	舵夫	航海	機務	甲板	碇泊	機務	事務
獨乙	最高 二五	最高 一五	最高 一五	最高 八〇	最高 一五	最高 一五	最高 一五	最高 一五	最高 一五
白國	最高 二五	最高 一五	最高 一五	最高 八〇	最高 一五	最高 一五	最高 一五	最高 一五	最高 一五
米國	最高 二五	最高 一五	最高 一五	最高 八〇	最高 一五	最高 一五	最高 一五	最高 一五	最高 一五
佛國	最高 二五	最高 一五	最高 一五	最高 八〇	最高 一五	最高 一五	最高 一五	最高 一五	最高 一五
伊國	最高 二五	最高 一五	最高 一五	最高 八〇	最高 一五	最高 一五	最高 一五	最高 一五	最高 一五
諾威	最高 二五	最高 一五	最高 一五	最高 八〇	最高 一五	最高 一五	最高 一五	最高 一五	最高 一五
瑞典	最高 二五	最高 一五	最高 一五	最高 八〇	最高 一五	最高 一五	最高 一五	最高 一五	最高 一五

日英米海員給料比較 (普通)

項目	最高	最低	備考
倉庫	最高 一五	最低 一五	依り三割乃至五割手当あり
水夫	最高 一五	最低 一五	
火夫	最高 一五	最低 一五	
油差	最高 一五	最低 一五	
倉庫番	最高 一五	最低 一五	
火夫	最高 一五	最低 一五	
石炭	最高 一五	最低 一五	
司理	最高 一五	最低 一五	
料理	最高 一五	最低 一五	
給仕	最高 一五	最低 一五	

造船

船名	獨乙	白國	米國	佛國	英國	伊國	諾威	和蘭	瑞典	本邦
航海中	甲板	機務	機務	機務	機務	機務	機務	機務	機務	機務
確泊中	甲板	機務	機務	機務	機務	機務	機務	機務	機務	機務
事務	事務	事務	事務	事務	事務	事務	事務	事務	事務	事務

日英米海員給料比較 (普通)

項目	英國	米國	日本
倉庫	最高 五、七三	最高 五、七三	最高 五、七三
水夫	最高 五、五三	最高 五、五三	最高 五、五三
火夫	最高 五、三三	最高 五、三三	最高 五、三三
油差	最高 五、一三	最高 五、一三	最高 五、一三
倉庫	最高 四、九三	最高 四、九三	最高 四、九三
火夫	最高 四、七三	最高 四、七三	最高 四、七三
石炭	最高 四、五三	最高 四、五三	最高 四、五三
料理	最高 四、三三	最高 四、三三	最高 四、三三
司理	最高 四、一三	最高 四、一三	最高 四、一三
給仕	最高 三、九三	最高 三、九三	最高 三、九三

ANNAKA DENKI SEISAKUSHO



株式會社

營業科目

無線電信機
無線電話機
各種變壓器

製作販賣及修理

安中電機製作所

神戸營業所 (神戸市榮町六丁目二一) 電話元町區一八六〇・二〇六一番
本社及工場 (東京市外下澁谷一八六六) 電話芝區八四五一・五四六一・五五四三番
横濱出張所 (横濱市住吉町三丁目三五)

造船

船舶資格

検査官吏左の標準に依り之を定む。其資格に従ひ航路
定限に差等あることを表下に示す如し。

等級 船種 上甲板噸數最強速力 航路定限

第一 汽船 五百噸以上 八節以上 遠洋航路、近海航路
第二 汽船 五十噸以上 八節以上 沿海航路、平水航路
第三 汽船 二十噸以上 八節以上 遠洋航路、近海航路
第四 汽船 二十噸以上 六節以上 沿海航路、平水航路
第五 帆船 無制限 無制限 平水航路

進水後二十五年以上の船舶にして、外板其他要部の
衰耗著しく、従来の資格を繼續し得ざる處あるもの
に於いては、検査官吏其衰耗の程度を精査し、逕信
大臣の指揮を受けて其資格を定む。

積量測度

百立方呎を一噸として測度す。甲板一層又は二層を備
ふる船舶にありては上甲板を、三層以上を備ふる船舶
にありては最下層甲板より第二層に在る甲板を量噸甲
板とす。

總噸數

甲板一層又は二層を備ふる船舶にありては、量噸甲板
下の噸數に、量噸甲板上敷置したる場所の噸數を加へ
たるもの、甲板三層以上を備ふる船舶にありては、量
噸甲板下の噸數に量噸甲板上各甲板間の噸數及び上甲
板上敷置したる場所の噸數を加へたるものを總噸數と
す。甲板を備へざる船舶にありては舷端以下の噸數に、
舷端以上敷置したる場所の噸數を加へたるものを總噸
數とす。

登簿噸數

總噸數より(一)船員常用室及び海圖室、(二)荷足水艙
(三)機關室、(四)操舵器具、錨船機具、揚錨機具及び主

ANNAKA DENKI SEISAKUSHO



株式會社

營業科目

無線電信機
無線電話機
各種變壓器

製作販賣及修理

安中電機製作所

神戸營業所

神戸市榮町六丁目二一
電話元町四一八六〇・二〇六一番

本社及工場

東京市外下濫谷一八六六
電話芝罘八四五・五四六一・五五四三番

横濱出張所

横濱市住吉町三丁目三五

造船

船舶資格

検査官吏左の標準に依り之を定む。其資格に従ひ航路
定限に差等あることを表下に示す如し。

- 等級船種 上甲板噸數最強速力 航路定限
- 第一級汽船 五百噸以上 八節以上 遠洋航路、近海航路
- 第二級汽船 五十噸以上 八節以上 沿海航路、平水航路
- 第三級汽船 二百噸以上 八節以上 遠洋航路、近海航路
- 第四級汽船 二十噸以上 六節以上 平水航路
- 第五級帆船 二十噸以上 六節以上 沿海航路、平水航路
- 第六級帆船 無制限 六節以上 沿海航路、平水航路
- 第七級汽船 無制限 無制限 平水航路

進水後二十五年以上の船舶にして、外板其他要部の
衰耗著しく、従来の資格を繼續し得ざる虞あるもの
に於いては、検査官吏其衰耗の程度を精査し、逡信
大臣の指揮を受けて其資格を定む。

積量測度

百立方呎を一噸として測度す。甲板一層又は二層を備
ふる船舶にありては上甲板を、三層以上を備ふる船舶
にありては最下層甲板より第二層に在る甲板を量噸甲
板とす。

總噸數

甲板一層又は二層を備ふる船舶にありては、量噸甲板
下の噸數に、量噸甲板上敷圍したる場所の噸數を加へ
たるもの、甲板三層以上を備ふる船舶にありては、量
噸甲板下の噸數に量噸甲板上各甲板間の噸數及び上甲
板上敷圍したる場所の噸數を加へたるものを總噸數と
す。甲板を備へざる船舶にありては舷端以下の噸數に、
舷端以上敷圍したる場所の噸數を加へたるものを總噸
數とす。

登簿噸數

總噸數より(一)船員常用室及び海圖室、(二)荷足水艙
(三)機關室、(四)操舵器具、繫船機具、揚錨機具及び主

唧筒と連絡したる副汽罐、副汽機に供用せらるゝ場所
 (五)水夫長倉庫、(六)帆船の帆庫、(七)主務大臣に於て
 船舶の安全、衛生又は利用上前各號に準すべきものと
 認むる場所の噸數を控除したるものを登簿噸數とす。
 (石數)を以つて積量を表示すべき船舶は、十立方尺を
 一石として測度す。

□公稱馬力

(一)冷汽器を備へざる機關の公稱馬力は汽笛吸鑿の徑
 を時にて測り、之を自乘し、得數を十箇にて除したる
 もの。(二)冷汽器を備ふる機關の公稱馬力は汽笛吸鑿
 の徑を時にて測り、之を自乘し、得數を三十箇にて除
 したるもの。(三)冷汽器を備へざる聯成機關の公稱馬
 力は其汽笛吸鑿の徑を時にて測り、各これに自乘して
 相加へ、其得數を十箇にて除したるもの。(四)冷汽器
 を備ふる聯成機關の公稱馬力は其各汽笛吸鑿の徑を時
 にて測り、各之を自乘して相加へ、其得數を三十箇に
 て除したるもの。

□本邦標準船型

今回の大戦に鑑み、船舶の建造を成るべく容易に且つ
 迅速ならしむる方法を講ずる爲め、臨時船舶管理局内
 には七年三月標準船型調査會を設け、數回の審議を重
 ねたる結果、現下の戦局に處する應急的のものとして、將來
 の造船をも考慮したるものと、二種の成案を得て、六
 月中關係當業者の意見を徴するの運びとなり其案即
 ち左の如し。現時世界列國皆此種の標準型を定めざ
 るなく、船型に一定の基準を定むるは、單に造船術の
 改料進歩、軍事上徴發の利便に資するのみならず、船
 舶の注文を簡易にし且つ材料品を廉價に製作するを得
 せしめ、修繕を迅速ならしむる等の効益あり。
 戦時急造を目的とする。

船型	構造	甲板	長	幅	深	推進器數	航海力
A	八、〇〇〇噸型	覆甲板	三三、五呎	三、〇呎	三、〇呎	一	一〇½
B	八、〇〇〇噸型	重構	二四、〇	二、五	二、五	一	一〇½
C	六、〇〇〇噸型	同	二二、五	二、〇	二、〇	一	一〇

D 三、〇〇〇噸型 同 一 二六、四、七五 三、五〇 一 九
 將來の造船をも併せて考慮する場合。

一普通標準船型

船型	構造	長	幅	深	推進器數	航海力
A	一〇、〇〇〇噸型	覆甲板	四三、五呎	五、〇呎	三、七、〇九	二又二
B	一〇、〇〇〇噸型	重構	四三、五	五、〇	三、四、〇〇	二又二
C	八、〇〇〇噸型	覆甲板	三六、五	五、〇	三、五、〇〇	二½
D	八、〇〇〇噸型	重構	四〇、〇	五、〇	三、〇、〇〇	二½
E	六、〇〇〇噸型	覆甲板	三〇、〇	四、九、〇〇	三、〇、五〇	二
F	六、〇〇〇噸型	重構	三三、五	五、〇、〇〇	二、九、〇八	二
G	五、〇〇〇噸型	同	三三、五	四、三、七五	二、七、二五	一
H	三、〇〇〇噸型	同	二六、	四、〇、七五	二、三、五〇	一
I	三、〇〇〇噸型	同	二六、	四、〇、七五	二、三、五〇	一
J	二、〇〇〇噸型	尾樓	二〇、	三、五、〇〇	一、九、〇〇	八½
K	二、〇〇〇噸型	覆甲板	二〇、	三、五、〇〇	一、八、五〇	八½

二特別標準船型

船型	構造	長	幅	深	推進器數	航海力
L	三、〇〇〇噸型	重構	四八、〇	六、三、七五	三、七、五〇	二
M	一〇、〇〇〇噸型	覆甲板	四三、五	五、七、五〇	三、八、〇〇	二
N	一〇、〇〇〇噸型	重構	四三、五	五、八、五〇	三、五、〇〇	二
O	八、〇〇〇噸型	覆甲板	三〇、〇	五、五、〇	三、五、〇〇	二
P	八、〇〇〇噸型	重構	四三、五	五、五、〇	三、三、五二	二

普通標準船型とは純貨物船にして、特別標準船型とは定航用貨物船の船なり。

□本邦主要造船所獨特標準船型

造船所	總噸數	重量噸
三菱造船所	七、三〇〇噸	一〇、八〇〇噸
川崎造船所	三、八〇〇噸	六、四〇〇噸
大阪鐵工所	五、八〇〇噸	九、一〇〇噸
淺野造船所	六、五〇〇噸	八、五〇〇噸
浦賀船渠會社	四、六〇〇噸	六、九〇〇噸

石川島造船所 (三、二〇〇噸) (三、一〇〇噸) (五、一〇〇噸) (三、五〇〇噸)

□英米佛伊標準船型

世界戦争の勝敗は其の所有する船舶の多寡に依りて決せらる可しと云へるが戦後に起る可き最も激烈なる貿易戦に於ける勝敗も亦船舶所有の多寡に依りて決せらる可し此に於てか聯合諸國の船舶を備へんとする努力前述の如きものあり而して船舶の建造を最も迅速且つ容易ならしめんせば標準船型を一定し其の材料の統一を計らざる可からず之れ列國が一齊に標準船型を制定したる所以にして其の詳細は嚴秘に附せられつゝあるを以て之を知るに由なしと雖も今日迄に判明せる所に依れば大體に於て左の如し

△英・國
船型 (重量噸數) (構造種類)
A型 八、〇〇〇噸 單甲板
B型 八、〇〇〇噸 二層甲板

C型 七、〇〇〇噸
D型 五、〇〇〇噸
E型 三、〇〇〇噸 油槽船
F型 二、〇〇〇噸
△佛・蘭・西
△伊・太・利
△米・國
八、〇〇〇噸 (重量)
七、五〇〇噸 (同)
三、五〇〇噸 (木造船)

□世界造船所數 (一九二〇—一九二二年) (ロイド船名錄に據る)

英國 (同本國)	二九六	伊太利	三〇	支那	七
(海峽殖民地)	二四七	瑞典	二四	希臘	二
(加奈陀)	二一	丹麥	二〇	葡萄牙	二
(新西蘭)	五	露國	一四	伯刺西爾	二
(香港)	一六	白耳義	九	土耳其	一
(印度)	二				
(タスマニヤ)					
和蘭	二四	和蘭	一四	希臘	二
合衆國	一〇	合衆國	一七	葡萄牙	二
獨逸	四	獨逸	五〇	伯刺西爾	二
日本	一〇	日本	四六	土耳其	一
佛國	七	佛國	三六		
諾威	七	諾威	三四		

□最近五箇年世界造船趨勢 (總噸數二百噸以上)

年次	一九二〇年	一九二一年	一九二二年	一九二三年	一九二四年
英國	六八二,〇五五	四六一,五八八	三五一,〇八一	四九四,八八五	四三九,八八五
同殖民地	一〇三,二〇三	一〇三,二〇三	一〇三,二〇三	一〇三,二〇三	一〇三,二〇三
丹麥	三〇,六六九	三〇,六六九	三〇,六六九	三〇,六六九	三〇,六六九
佛國	三〇,六六九	三〇,六六九	三〇,六六九	三〇,六六九	三〇,六六九
獨逸	九三,四九六	二〇,八三〇	五九,三六三	一〇九,二〇九	一七五,二二三
總噸數	九〇〇,〇〇〇	七〇〇,〇〇〇	五〇〇,〇〇〇	六〇〇,〇〇〇	七〇〇,〇〇〇

國別	汽船	モーター船	合計
日本	108	22	130
英國	33	2	35
法國	179	2	181
德國	55	2	57
美國	33	1	34
日本	1	1	2
中國	1	1	2
其他	264	19	283
合計	360	49	409

國別	汽船	モーター船	合計
日本	108	22	130
英國	33	2	35
法國	179	2	181
德國	55	2	57
美國	33	1	34
日本	1	1	2
中國	1	1	2
其他	264	19	283
合計	360	49	409

國別	汽船	モーター船	合計
日本	108	22	130
英國	33	2	35
法國	179	2	181
德國	55	2	57
美國	33	1	34
日本	1	1	2
中國	1	1	2
其他	264	19	283
合計	360	49	409

噸數	隻數
100噸以下	40
100-500噸	31
500-1000噸	6
1000-2000噸	3
2000-4000噸	1
4000-6000噸	1
6000-8000噸	1
8000-10000噸	1
10000噸以上	1
合計	85

米 國 一、四三、三三三
 其 他 國 一、一〇、〇七〇
 一、五三、四〇三

世界建造中船舶

英 國	一、四六、九九一	一九三三年	一九三四年
白 耳 義	四九、二四五	三三、三五五	三三、九三五
米 國	一三九、四八八	九一、五八五	一〇三、六六五
獨 逸	四一六、〇八一	五、六四一	四、〇九〇
佛 蘭 西	一八九、五二五	一一〇、七二五	一四、二四〇
伊 太 利	一四三、九九六	一一、八一	九六、四五三
日 本	二二、四九九	二九、六六三	二七、七二二
諾 威	九三、八三二	六、二〇七	六、六五四
西 班 牙	四〇、九四六	三三、七三五	二七、四四五
瑞 典	五〇、六七七	三三、〇六五	一八、五三〇
其 他	四、二四六	四、一五九	三、八〇〇

一九二四年建造中汽船並にモーター船を船型別に現
 せば次の如し(單位隻)
 二噸以下 自二噸至六千噸 自六千噸至一萬噸 自一萬噸至二萬噸 以上

英 國	二	一	一	一	一
白 耳 義	〇	一	一	一	一
米 國	四	六	一	一	一
獨 逸	七	八	一	一	一
佛 蘭 西	二	七	二	一	一
伊 太 利	五	七	一	一	一
日 本	二	五	一	一	一
諾 威	一	一	一	一	一
西 班 牙	一	一	一	一	一
其 他	一	一	一	一	一

瑞 典 九
 米 國 四
 其 他 六
 合 計 三三
 亦千噸以上の油槽船を國別に示せば左の如し

瑞 典	二	一	一	一	一
米 國	一〇	一	一	一	一
其 他	一	一	一	一	一
合 計	一三	一	一	一	一
獨 逸	一	一	一	一	一
佛 蘭 西	一	一	一	一	一
伊 太 利	三	一	一	一	一
和 國	七	一	一	一	一
英 國	三	一	一	一	一
獨 逸	三	一	一	一	一
合 計	六	一	一	一	一

石川島造船所	東 京	一
淺野造船所	鶴 見	一
横濱船渠會社	横 濱	三
横濱鐵工所	横 濱	一
浦賀船渠會社	浦 賀	二
鳥羽造船所	鳥 羽	一
播磨造船所	相 模	一
大阪鐵工所	大 阪	三
同 因島工場	因 島	三
同 彦島工場	彦 島	三
同 備後工場	備 後	三
同 笠戸島工場	笠 戸	二
同 新田造船所	大 阪	一
同 相澤造船所	大 阪	一
同 小野鐵工造船所	同 前	三
同 藤永田造船所	同 前	二
同 原田造船所	同 前	二
同 大原造船鐵工所	同 前	一

川崎造船所
三菱造船所
同 長崎工場
三井造船所
栃木造船所
深川造船所
松尾鐵工所
名村鐵工造船所
新潟鐵工所

神戶
同 長崎
宇野
八幡
福岡
長崎
大阪
新潟

浮
一三三
一三三
一一一
一一一

一七三
一七三
一七三
一七三
一七三

尼崎伊三郎
山科幸次郎
松尾造船所
大阪築業會社
尾道船渠造船所
向島船渠會社
木村龜治
望月佐平

大 阪
同 同
同 同
尾 道
向 島
彦 島
木 江

一一一一一一
一一一一一一
一一一一一一
一一一一一一
一一一一一一

月次
一 月
二 月
三 月
四 月

△鋼
大正九年
大正十年
大正十一年
大正十二年
大正十三年

隻數
噸數
隻數
噸數
隻數
噸數

二五、八五〇
九、一〇〇
七、一五〇
一、四五〇
四、四八〇

一七、〇〇〇
四、四八〇
八、一四六
六、七〇〇
四、五〇〇

一七、〇〇〇
四、四八〇
八、一四六
六、七〇〇
四、五〇〇

一三、九五〇
五、四〇〇
三、五〇〇
一〇、六〇〇
六、〇〇〇

□本邦累年造船成績(月別)(上)

(千噸以上進水船)

五 月
六 月
七 月
八 月
九 月
十 月
十 月
計

△鋼
大正九年
大正十年
大正十一年
大正十二年
大正十三年

隻數
噸數
隻數
噸數
隻數
噸數

二五、八五〇
九、一〇〇
七、一五〇
一、四五〇
四、四八〇

一七、〇〇〇
四、四八〇
八、一四六
六、七〇〇
四、五〇〇

一七、〇〇〇
四、四八〇
八、一四六
六、七〇〇
四、五〇〇

一三、九五〇
五、四〇〇
三、五〇〇
一〇、六〇〇
六、〇〇〇

□本邦累年造船成績(造船所別千噸以上)(下)

更に之を各造船所別に示せば左の如し

年次
大正九年
同十年
同十一年
同十二年
同十三年

隻數
噸數
隻數
噸數
隻數
噸數

二五、八五〇
九、一〇〇
七、一五〇
一、四五〇
四、四八〇

一七、〇〇〇
四、四八〇
八、一四六
六、七〇〇
四、五〇〇

一七、〇〇〇
四、四八〇
八、一四六
六、七〇〇
四、五〇〇

一七、〇〇〇
四、四八〇
八、一四六
六、七〇〇
四、五〇〇

一三、九五〇
五、四〇〇
三、五〇〇
一〇、六〇〇
六、〇〇〇

九原	州田	木澤	相館	函尾	松井	三羽	島野	小濱	橫田	藤永	播磨	石川	浦賀	淺野	大阪鐵工
計															
九	一	一	二	二	一	三	三	六	四	八	二	九	一	一	三
四三、三六五	一、三三〇	二、〇〇〇	二、五〇〇	三、三七〇	二、〇一〇	一〇、〇〇〇	七、二〇〇	三五、九六〇	九、一五〇	四六、八七五	六、四〇〇	三、四〇〇	五、四〇〇	五、四〇〇	五、四〇〇
四						二	一	五	一	二	一		三	九	
二二、八三〇						一〇、五〇〇	三、〇〇〇	三、八三〇	三、七五〇	一〇、四〇〇	五、六〇〇		一六、七五〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇
六										五	一	一			三
五、七二〇										一四、一〇〇	五、二〇〇	二、一〇〇			五、二五〇
九										六		二			三
六二、八七四		二、二〇〇		二、二八〇				一〇、九九四		五、六〇〇	七、〇〇〇				九、〇〇〇
三						二	一	一	三	三					四
六三、七五〇	一、三〇〇	一、〇〇〇				九、〇〇〇	一、〇〇〇	一、一〇〇	七、三五〇	七、九五〇					八、四五〇

□大正十三年造船成績 (千噸以上)

千噸型	二噸型	三噸型	四噸型	五噸型	六噸型	七噸型	八噸型	九噸型
噸數	噸數	噸數	噸數	噸數	噸數	噸數	噸數	噸數
八、四〇〇	八、四〇〇	七、〇〇〇	九、〇〇〇	九、〇〇〇	三、五〇〇	三、五〇〇	八、四〇〇	八、四〇〇

鋼汽船	木汽船	補汽船	帆	船
噸數	噸數	噸數	噸數	噸數
六	六	六	六	六
八、四〇〇	八、四〇〇	八、四〇〇	八、四〇〇	八、四〇〇

一萬噸型噸數
合計噸數三、七三〇
次に總噸數一千噸以上汽船進水船中造船所別左の如し

船名	甲子	復興	廣安	廣順	長山	愛德
噸數	二、二〇〇	三、六〇〇	三、二〇〇	三、二〇〇	一、二〇〇	一、三〇〇
造船所	明船	北船	廣所	廣所	野所	田所
總噸數	二、二五〇	一、二〇〇	六、五〇〇	一、五〇〇		

赤城山丸	△三井	四、五〇〇	秋葉山丸	四、五〇〇
天城丸	△横濱	三、三〇〇	南嶺丸	二、〇〇〇
北嶺丸	△三井	二、〇〇〇		
墨洋丸	△淺野	八、四〇〇		
津輕丸	△三菱	三、五〇〇	松前丸	三、五〇〇
喜久丸	△相澤	一、一〇〇		
ふろりだ丸	△川崎	六、〇〇〇		

□船質別船舶經濟比較

英國専門家が同一船體容を有するギヤードタービン船 AとBモーター船とAギヤードタービン船と同一積載能力あるモーター船Cとの効率比較調査に依れば左の如き數字を示す

船の長さ	A 四四呎	B 四四呎	C 三六呎
船の幅	A 五呎	B 五呎	C 五呎
船の深さ	A 三呎五吋	B 三呎五吋	C 三呎
船體重量	A 三、三七〇噸	B 三、三〇〇噸	C 二、七〇〇噸
機械重量	A 六五〇噸	B 九八〇噸	C 七八〇噸
排水噸數	A 三、六〇〇噸	B 三、六〇〇噸	C 三、六〇〇噸
全船價	A 三〇、四〇〇	B 三〇、四〇〇	C 三〇、四〇〇
航海速度	A 二節	B 二節	C 二節
航走軸馬力	A 三、一五〇	B 三、一五〇	C 二、四〇〇
重量噸	A 五、八〇〇噸	B 七、二五〇噸	C 五、八〇〇噸
每軸馬力燃料消費高	A 一、五封度	B 〇、五封度	C 〇、五封度
一日燃料消費高	A 五〇噸	B 一八、五噸	C 一三、九噸

一年間燃料代	石炭一噸五磅	六三、七七磅	四七、一四磅
一年間油消費高	六ガロン	二〇ガロン	一五ガロン
一年間油消費代	六〇〇磅	一、五〇〇磅	一、二五〇磅
一年間船員給料及食費	一四、七七磅	一一、〇〇三磅	一一、二〇三磅
一年間破損費	一一、〇〇〇磅	一一、〇〇〇磅	一、八〇〇磅
一年間保險費	二、六〇〇磅	二八、五〇〇磅	三三、八〇〇磅
一年間燃料費	一、四〇〇磅	一、四〇〇磅	一、一〇〇磅
一年間航行費	一九、五七磅	一〇七、七九磅	八五、二七磅
一年間貨物運送費	三三、二〇片半	二五、三片半	二四、三片

(註) 右表中一年間(六航海)燃料代中、B Cに屬する燃料代中にはディーゼルエンジンに使用さるべき純燃料即重油代とエンジン以外にウインチ等補助機を運

動せしむべき動力發生用として用ひるボイラーに使用する一年間の燃料代を包含せり
故に右B C燃料代を詳しく分類して記せば

ディーゼルエンジン用一年間燃料代	一噸十一磅十志	五三、六三磅	三九、六五磅
補助機用一年間燃料代	一噸十磅七志六片	一〇、一五磅	七、四〇磅

即ちディーゼルエンジンの消費する燃料代は非常に小額にして右表A Bとの比較に於て明瞭なる如くモーター船はギヤードタービン船より船價高く船體及機械類の重量多き點に於て弱點なきにあらざるも燃料費及船員給料等遙に安價にて一ケ年の運航費に於て貨物噸當りの航走費は餘程軽減され加之載貨積量増加されモーター船の經濟的効果の大なるを首肯すべし(モーター船と云ふは従來輕油エンジン有する發動船を指したるも今日商船としてのモーター船は三百馬力以上のディーゼルエンジンを有する船舶の謂ひ也)

本邦累年造船用鋼材價格

年	時期	平均價格 (噸當)
大正四年	上半年	一三〇圓
大正五年	上半年	二五〇圓
大正六年	上半年	四〇〇圓
大正七年	上半年	四七〇圓
大正七年	下半年	八五〇圓
大正七年	下半年	九一〇圓
大正七年	下半年	五一〇圓

一、本調査は内地に於ける取引價格にして大正七年上半期以降は製鐵所拂下價格に依れり
 二、製鐵所拂下最高價格は大正七年九月に於て鋼板一噸當一、四六一圓大正七年七月に於て型鋼一噸當九四四圓なり
 三、本調査中には鋼板其他特種材料を含まず
 大正九年(銅板)市場平均相場左の如し
 二月 三二圓 四月 三三圓 六月 一三圓

本邦新造貨物船平均價格

年	時期	噸當
大正四年	上半年	一八〇圓
大正五年	上半年	二二〇圓
大正六年	上半年	二六〇圓
大正七年	上半年	三〇〇圓
大正七年	下半年	三三〇圓
大正七年	下半年	三六〇圓
大正七年	下半年	三九〇圓
大正七年	下半年	四二〇圓
大正七年	下半年	四五〇圓
大正七年	下半年	四八〇圓
大正七年	下半年	五一〇圓
大正七年	下半年	五四〇圓
大正七年	下半年	五八〇圓
大正七年	下半年	六一〇圓
大正七年	下半年	六四〇圓
大正七年	下半年	六八〇圓
大正七年	下半年	七二〇圓
大正七年	下半年	七六〇圓
大正七年	下半年	八〇〇圓
大正七年	下半年	八四〇圓
大正七年	下半年	八八〇圓
大正七年	下半年	九二〇圓
大正七年	下半年	九六〇圓
大正七年	下半年	一〇〇〇圓

年	時期	噸當
大正八年	上半年	三三〇圓
大正八年	下半年	三六〇圓
大正九年	上半年	三九〇圓
大正九年	下半年	四二〇圓
大正十年	上半年	四八〇圓
大正十年	下半年	五一〇圓
大正十年	下半年	五四〇圓
大正十年	下半年	五八〇圓
大正十年	下半年	六一〇圓
大正十年	下半年	六四〇圓
大正十年	下半年	六八〇圓
大正十年	下半年	七二〇圓
大正十年	下半年	七六〇圓
大正十年	下半年	八〇〇圓
大正十年	下半年	八四〇圓
大正十年	下半年	八八〇圓
大正十年	下半年	九二〇圓
大正十年	下半年	九六〇圓
大正十年	下半年	一〇〇〇圓

最高價格は大正六年八月に於て重量噸數一、六〇〇噸の第一久美愛丸が重量噸數一噸當一、〇〇〇圓及大正七年五月重噸噸數九、〇〇〇噸の長門丸が重量噸數一噸當九〇〇圓にて賣買せられたるを最高とす

年	時期	噸當
大正七年	上半年	一八〇圓
大正七年	下半年	二二〇圓
大正七年	下半年	二六〇圓
大正七年	下半年	三〇〇圓
大正七年	下半年	三三〇圓
大正七年	下半年	三六〇圓
大正七年	下半年	三九〇圓
大正七年	下半年	四二〇圓
大正七年	下半年	四五〇圓
大正七年	下半年	四八〇圓
大正七年	下半年	五一〇圓
大正七年	下半年	五四〇圓
大正七年	下半年	五八〇圓
大正七年	下半年	六一〇圓
大正七年	下半年	六四〇圓
大正七年	下半年	六八〇圓
大正七年	下半年	七二〇圓
大正七年	下半年	七六〇圓
大正七年	下半年	八〇〇圓
大正七年	下半年	八四〇圓
大正七年	下半年	八八〇圓
大正七年	下半年	九二〇圓
大正七年	下半年	九六〇圓
大正七年	下半年	一〇〇〇圓

逸五十四時間各一週間の給料(弗貨に時價換算)
 英國 和蘭 獨逸 米國
 弗仙 弗仙 弗仙 弗仙

英米造船職工賃金

年	時期	賃金
大正七年	上半年	一八〇圓
大正七年	下半年	二二〇圓
大正七年	下半年	二六〇圓
大正七年	下半年	三〇〇圓
大正七年	下半年	三三〇圓
大正七年	下半年	三六〇圓
大正七年	下半年	三九〇圓
大正七年	下半年	四二〇圓
大正七年	下半年	四五〇圓
大正七年	下半年	四八〇圓
大正七年	下半年	五一〇圓
大正七年	下半年	五四〇圓
大正七年	下半年	五八〇圓
大正七年	下半年	六一〇圓
大正七年	下半年	六四〇圓
大正七年	下半年	六八〇圓
大正七年	下半年	七二〇圓
大正七年	下半年	七六〇圓
大正七年	下半年	八〇〇圓
大正七年	下半年	八四〇圓
大正七年	下半年	八八〇圓
大正七年	下半年	九二〇圓
大正七年	下半年	九六〇圓
大正七年	下半年	一〇〇〇圓

西伊アル佛白英加米
班牙太ルクセ耳奈陀國
牙利ゲン國義國陀國

鐵	鋼	鐵
大正三年	大正三年	大正三年
大正十一年	大正十一年	大正十一年
三、五〇〇、〇〇〇	四、四〇〇、〇〇〇	三、〇〇〇、〇〇〇
一、三三〇、〇〇〇	一、八八〇、〇〇〇	一、一〇〇、〇〇〇
一、三三〇、〇〇〇	一、八八〇、〇〇〇	一、一〇〇、〇〇〇
一、三三〇、〇〇〇	一、八八〇、〇〇〇	一、一〇〇、〇〇〇
一、三三〇、〇〇〇	一、八八〇、〇〇〇	一、一〇〇、〇〇〇
一、三三〇、〇〇〇	一、八八〇、〇〇〇	一、一〇〇、〇〇〇
一、三三〇、〇〇〇	一、八八〇、〇〇〇	一、一〇〇、〇〇〇
一、三三〇、〇〇〇	一、八八〇、〇〇〇	一、一〇〇、〇〇〇

世界產鐵趨勢

(單位千噸)

獨逸	瑞典	奧地利	捷克	和蘭	匈牙利	露那	日本	印度	其他	合計
三、五〇〇、〇〇〇	三、〇〇〇、〇〇〇	三、〇〇〇、〇〇〇	三、〇〇〇、〇〇〇	三、〇〇〇、〇〇〇	三、〇〇〇、〇〇〇	三、〇〇〇、〇〇〇	三、〇〇〇、〇〇〇	三、〇〇〇、〇〇〇	三、〇〇〇、〇〇〇	三、〇〇〇、〇〇〇
三、〇〇〇、〇〇〇	三、〇〇〇、〇〇〇	三、〇〇〇、〇〇〇	三、〇〇〇、〇〇〇	三、〇〇〇、〇〇〇	三、〇〇〇、〇〇〇	三、〇〇〇、〇〇〇	三、〇〇〇、〇〇〇	三、〇〇〇、〇〇〇	三、〇〇〇、〇〇〇	三、〇〇〇、〇〇〇
三、〇〇〇、〇〇〇	三、〇〇〇、〇〇〇	三、〇〇〇、〇〇〇	三、〇〇〇、〇〇〇	三、〇〇〇、〇〇〇	三、〇〇〇、〇〇〇	三、〇〇〇、〇〇〇	三、〇〇〇、〇〇〇	三、〇〇〇、〇〇〇	三、〇〇〇、〇〇〇	三、〇〇〇、〇〇〇
三、〇〇〇、〇〇〇	三、〇〇〇、〇〇〇	三、〇〇〇、〇〇〇	三、〇〇〇、〇〇〇	三、〇〇〇、〇〇〇	三、〇〇〇、〇〇〇	三、〇〇〇、〇〇〇	三、〇〇〇、〇〇〇	三、〇〇〇、〇〇〇	三、〇〇〇、〇〇〇	三、〇〇〇、〇〇〇

弗米利及加阿

北米合衆國
ニユーファウ
ドニアラ
西印
亞細亞
其細

四、三三〇、〇〇〇	三、三三〇、〇〇〇	三、三三〇、〇〇〇	三、三三〇、〇〇〇	三、三三〇、〇〇〇	三、三三〇、〇〇〇	三、三三〇、〇〇〇	三、三三〇、〇〇〇	三、三三〇、〇〇〇	三、三三〇、〇〇〇	三、三三〇、〇〇〇
三、三三〇、〇〇〇	三、三三〇、〇〇〇	三、三三〇、〇〇〇	三、三三〇、〇〇〇	三、三三〇、〇〇〇	三、三三〇、〇〇〇	三、三三〇、〇〇〇	三、三三〇、〇〇〇	三、三三〇、〇〇〇	三、三三〇、〇〇〇	三、三三〇、〇〇〇
三、三三〇、〇〇〇	三、三三〇、〇〇〇	三、三三〇、〇〇〇	三、三三〇、〇〇〇	三、三三〇、〇〇〇	三、三三〇、〇〇〇	三、三三〇、〇〇〇	三、三三〇、〇〇〇	三、三三〇、〇〇〇	三、三三〇、〇〇〇	三、三三〇、〇〇〇
三、三三〇、〇〇〇	三、三三〇、〇〇〇	三、三三〇、〇〇〇	三、三三〇、〇〇〇	三、三三〇、〇〇〇	三、三三〇、〇〇〇	三、三三〇、〇〇〇	三、三三〇、〇〇〇	三、三三〇、〇〇〇	三、三三〇、〇〇〇	三、三三〇、〇〇〇

歐洲

英獨佛瑞諾奧露西
吉蘭西威典西逸利
其希爾西露奧諾瑞佛獨英
魯克班西匈蘭吉
森班亞國威典西逸利
アアルヒ牙亞國威典西逸利
他臘ヒ牙亞國威典西逸利

鐵	鋼	鐵
一、三〇〇、〇〇〇	一、三〇〇、〇〇〇	一、三〇〇、〇〇〇
一、三〇〇、〇〇〇	一、三〇〇、〇〇〇	一、三〇〇、〇〇〇
一、三〇〇、〇〇〇	一、三〇〇、〇〇〇	一、三〇〇、〇〇〇
一、三〇〇、〇〇〇	一、三〇〇、〇〇〇	一、三〇〇、〇〇〇
一、三〇〇、〇〇〇	一、三〇〇、〇〇〇	一、三〇〇、〇〇〇
一、三〇〇、〇〇〇	一、三〇〇、〇〇〇	一、三〇〇、〇〇〇
一、三〇〇、〇〇〇	一、三〇〇、〇〇〇	一、三〇〇、〇〇〇
一、三〇〇、〇〇〇	一、三〇〇、〇〇〇	一、三〇〇、〇〇〇
一、三〇〇、〇〇〇	一、三〇〇、〇〇〇	一、三〇〇、〇〇〇

世界鐵鑛包藏量

(一九二三年調査)

實藏量

潛在量

造船職工人員

大正十一年に成り造船職工は左の如く減少せり

造船所名	二月末	六月末
石川島	三、〇〇〇	三、〇〇〇
浦賀船渠	四、〇〇〇	四、〇〇〇
横濱船渠	三、九七〇	三、九七〇
神戶製鐵	六、三三六	六、三三六
三菱造船	三、〇七八	三、〇七八
川崎造船	三、〇七三	三、〇七三
三井物産	一、八六五	一、八六五
其他	一、六九九	一、六九九
合計	六、三三六	六、三三六

英米獨製鐵能力比較 (單位英千噸)

年次	米國	英國	獨逸
一九〇一年	一三、四七五	四、九〇五	六、三九〇
一九〇四年	一三、八六〇	五、〇二五	八、七九〇
一九〇六年	一三、四〇〇	六、四六〇	一〇、九三〇
一九〇八年	一四、〇二五	五、三〇〇	一一、〇〇〇
一九一〇年	一六、〇九五	六、三九五	一二、四八〇
一九一二年	一三、二五〇	六、八〇〇	一七、〇〇〇
一九一四年	一三、五〇〇	七、八三五	一四、六〇〇
一九一六年	一四、〇〇〇	八、五〇〇	一三、〇〇〇
一九一八年	一三、五六八	七、三八〇	一六、一八八
一九一九年	一三、九六八	七、八〇〇	一八、三三八
一九二〇年	一四、一四七	七、七九七	一六、三三七

列強鐵消費額 (百分率單位噸)

北米	自一九〇一	自一九〇六	自一九一〇	自一九一五
消費	一三、二	一五、〇	一七、〇	一八、〇
增率	一三、二	一五、〇	一七、〇	一八、〇

本邦鋼材需給趨勢 (單位千噸)

年次	獨逸	英國	佛國	白國	日本
消費	一七、五	一〇、五	一三、四	一六、一	一七、四
增率	一三、五	一五、一	一六、一	一七、四	一七、四
備考	本邦鐵消費高は輸入鋼鐵を八〇と一〇との割合を以て鉄鐵に換算し之を産出鉄鐵に加へて其總量を全消費高と假定して推算したるものなり				

年次	充	四七	四二
三十九年	三、四八	四、七	四、二
四十年	九、〇	五、五	五、七
四十一年	九、九	五、九	五、七
四十二年	一〇、三	五、三	五、七
四十三年	一〇、七	五、三	五、六
四十四年	一〇、九	五、三	五、六
四十五年	一〇、九	五、三	五、六
四十六年	一〇、九	五、三	五、六
四十七年	一〇、九	五、三	五、六
四十八年	一〇、九	五、三	五、六
四十九年	一〇、九	五、三	五、六
五十年	一〇、九	五、三	五、六
五十一年	一〇、九	五、三	五、六
五十二年	一〇、九	五、三	五、六
五十三年	一〇、九	五、三	五、六
五十四年	一〇、九	五、三	五、六
五十五年	一〇、九	五、三	五、六
五十六年	一〇、九	五、三	五、六
五十七年	一〇、九	五、三	五、六
五十八年	一〇、九	五、三	五、六
五十九年	一〇、九	五、三	五、六
六十年	一〇、九	五、三	五、六
六十一年	一〇、九	五、三	五、六
六十二年	一〇、九	五、三	五、六
六十三年	一〇、九	五、三	五、六
六十四年	一〇、九	五、三	五、六
六十五年	一〇、九	五、三	五、六
六十六年	一〇、九	五、三	五、六
六十七年	一〇、九	五、三	五、六
六十八年	一〇、九	五、三	五、六
六十九年	一〇、九	五、三	五、六
七十年	一〇、九	五、三	五、六
七十一年	一〇、九	五、三	五、六
七十二年	一〇、九	五、三	五、六
七十三年	一〇、九	五、三	五、六
七十四年	一〇、九	五、三	五、六
七十五年	一〇、九	五、三	五、六
七十六年	一〇、九	五、三	五、六
七十七年	一〇、九	五、三	五、六
七十八年	一〇、九	五、三	五、六
七十九年	一〇、九	五、三	五、六
八十年	一〇、九	五、三	五、六
八十一年	一〇、九	五、三	五、六
八十二年	一〇、九	五、三	五、六
八十三年	一〇、九	五、三	五、六
八十四年	一〇、九	五、三	五、六
八十五年	一〇、九	五、三	五、六
八十六年	一〇、九	五、三	五、六
八十七年	一〇、九	五、三	五、六
八十八年	一〇、九	五、三	五、六
八十九年	一〇、九	五、三	五、六
九十年	一〇、九	五、三	五、六
九十一年	一〇、九	五、三	五、六
九十二年	一〇、九	五、三	五、六
九十三年	一〇、九	五、三	五、六
九十四年	一〇、九	五、三	五、六
九十五年	一〇、九	五、三	五、六
九十六年	一〇、九	五、三	五、六
九十七年	一〇、九	五、三	五、六
九十八年	一〇、九	五、三	五、六
九十九年	一〇、九	五、三	五、六
百年	一〇、九	五、三	五、六

製鐵所	種別	十一年	十二年
八計	兼二浦	一、三三三	三、〇六、三五五
尚我國主要製鐵所の生産高左の如し			
製鐵所	佛	四〇、三三〇	四四、〇三三
製鐵所	佛	五七、八五三	六二、六四七
株式會社日本製鐵所	佛	三六、四〇三	四七、一九三
製鐵所	佛	四、一三六	四、〇八四
株式會社日本製鐵所	佛	二、八四三	一、九六〇
製鐵所	佛	一、九〇三	一、三二八
製鐵所	佛	一、一〇三	一、一八四
製鐵所	佛	三、七〇五	五、八三四
釜石礦山株式會社	佛	四、〇四六	二、四六一
富士製鋼株式會社	佛	一、〇一一	二、二八二
日本鋼管株式會社	佛	三、〇六四	四、三三九
日本鋼管株式會社	佛	九、七四九	八、七九六
同社伏木電氣製鐵所	佛	八、四七三	八、一六三
同社伏木電氣製鐵所	佛	五、五六四	六、三〇五
大倉礦業會社山陽製鐵所	佛	二、八〇六	—
東洋製鐵株式會社	佛	五、二七〇	五、〇四七

保
險

株式會社大島製鋼所	鋼材	三三三	三五九	大阪鐵板製造會社	鋼材	一〇五四	二三四
川崎造船所兵庫工場	鋼材	二四六	一五七八	德山工業	鋼材	一三二五	八四〇
同 社 葺合工場	鋼材	一七四八	三四〇五	株式會社淺野造船部	鋼材	九四三	二二三
大阪製鐵株式會社	鋼材	五九三四	六七〇九	東京鋼材株式會社	鋼材	一〇五	二二三
株式會社住友製鋼所	鋼材	二九六五	三二四七	兼 三 菱 製 鐵 會 社	鋼材	八三七九	九九六
住友會社伸銅所	鋼材	一四三三	一五〇四	兼 二 浦 製 鐵 會 社	鋼材	八三九九	一一
尼ヶ崎工場	鋼材	一三六九	二九〇九			九四二	
三菱造船會社	鋼材	一〇六八	二六二四				
長崎造船會社	鋼材	四六九八	七九五三				
株式會社淺野	鋼材	五八七三	一三六九三				
小倉製鋼所	鋼材	二五七一	五三七四				
株式會社神戸製鋼所	鋼材	三五〇七	二九六				
東海鋼業株式會社	鋼材	二〇一五	三三二二				
		一二三五	二五九七				
		六四九九	九九五九				
		一八七五	六七九九				
			二六九三				

保
險

株式會社大島製鋼所	鋼材	三三三	三五九	大阪鐵板製造會社	鋼材	一四三	三三三
川崎造船所兵庫工場	鋼材	二四六	二五七	德山工業	鋼材	一三五	八四〇
同 社 荊合工場	鋼材	二四六	三二五	株式會社淺野造船部	鋼材	一三五	三三三
大阪製鐵株式會社	鋼材	二九六	三二七	東京鋼材株式會社	鋼材	九四三	三三三
株式會社住友製鋼所	鋼材	一四七	一五七	三 菱 製 鐵 會 社	鋼材	八三九	九六三
住友會社仲銅場	鋼材	二九二	二九七	二 菱 浦 製 鐵 會 社	鋼材	九四三	一一一
尼ヶ崎工場	鋼材	一六八	二六二				
三菱造船會社	鋼材	五七三	七五五				
長崎造船會社	鋼材	二五一	二九六				
株式會社淺野	鋼材	三五七	三三二				
小倉製鋼所	鋼材	二一五	二五九				
株式會社神戸製鋼所	鋼材	二三五	九九九				
東海鋼業株式會社	鋼材	二八七	六九九				

營業種目

海上保險。火災保險。運送保險

大阪市西區川口町拾番地



大阪海上火災保險株式會社

支店 東京。橫濱。金澤。仙臺。
出張所 神戶。名古屋。九州。京城。

保險

保險會社調 (十二年末内國保險會社)

種類	會社數	資本金
生命保險	四〇	三〇,九百千圓
徵兵保險	三	三,八〇〇
火災保險	九	二九,〇〇〇
海上保險	一	二,〇〇〇
機關汽鍋保險	一	五〇〇
火災海上保險	三	三〇,〇〇〇
火災海上運送	三	一四,五〇〇
火災海上運送信用	一	一,五〇〇
火災海上運送傷害	二	一〇,〇〇〇
火災海上運送自動車	二	三〇,〇〇〇

火災海上運送傷害

1 10,000

海上保險契約趨勢 (新契約)

過去五ヶ年間に於ける本邦海上保險契約の趨勢は左の如し

年	件數	金額	收入保險料
六年	二,〇四九	六,五五二,三四圓	三七,二六,五三圓
七年	二,一四五	六,五四二,二四圓	三七,九三,三六圓
八年	二,八四六	八,五五七,三九〇	四四,六一,五七圓
九年	二,八四六	八,五七,三九〇	二八,六九,三〇〇
十年	二,五六四	九,七五〇,一八三	二五,三五,六三三
十一年	二,七七一	九,七四五,三三七	二四,九六,二六〇

新契約月別内容左の如し

十二年度以降契約月別及年額共に震災の爲め農商務省に正確な統計なきを以て省略す

營業種目 海上保險。火災保險。運送保險

大阪市西區川口町拾番地



大阪海上火災保險株式會社

支店 東京。橫濱。金澤。仙臺。
出張所 神戶。名古屋。九州。京城。

保險

保險會社調 (十二年末內國保險會社)

種類	會社數	資本金
生命保險	四〇	三七、〇九〇千圓
徵兵保險	三	三、八〇〇
火災保險	九	二九、〇〇〇
海上保險	一	二、〇〇〇
機關汽鐘保險	一	五〇〇
火災海上保險	三	三五、〇〇〇
火災海上運送	三	一四、五〇〇
火災海上運送信用	一	一、五〇〇
火災海上運送傷害	二	一〇、〇〇〇
火災海上運送自動車	二	三、〇〇〇

火災海上運送傷害

1 10,000

海上保險契約趨勢 (新契約)

過去五ヶ年間に於ける本邦海上保險契約の趨勢は左の如し

年	件數	金額	收入保險料
六年	二、〇六四、九六三	六、五五一、二四一	三七、二六、五二三
七年	二、一四五、五四一	六、五五五、二四一	三七、九三三、三六〇
八年	二、八四六、三九八	八、五五七、二九〇	三四、二六一、五三七
九年	二、八四六、三九八	八、五五七、二九〇	二八、六二九、三〇〇
十年	二、五五四、一九	九、七五〇、一八三	三五、六二五、六二三
十一年	二、七二七、一三三	九、七四五、三三七	二四、九三八、二六〇

新契約月別內容左の如し
十二年度以降契約月別及年額共に震災の爲め農商務省に正確な統計なきを以て省略す

□十一年度海上保險成績(會社別)(十二年度以降は震災の爲め調査遅延)

會社別	期末現在契約		新契約		保險料收支		事業費
	件數	金額	件數	金額	收入	支出	
東京海上	五四〇,九三八	一,六二八,五二一	三八,〇三〇	一〇一,二二一	八,六三〇,一三三	五,五九〇,三九八	一,五八五,二七
東京火災	七五,九七〇	一四三,〇五三	五,三七七	一〇,六七七	五〇八,一四八	九四〇,三三四	二,三,〇八四
日本火災	二四,〇六七	四三,三五一	二,二四一	七,四三七	三三三,五六九	三七五,九五六	五四,五六七
帝國海上	八八,六二八	二三一,四六六	二,三四六	三四,〇四二	一,二〇四,九〇五	九三三,六七一	四六二,三六五
大阪海上	一四〇,五三八	三三〇,二六六	三,七〇九	一七,三一一	二八一,八二六	一,三八三,五四六	三六九,一七六
日本海上	四六六,九六〇	五三八,七五三	二五,九七〇	二八,二二〇	一,六七三,六九〇	一,五〇,四七六	六一三,三五一
横濱火災	八三,七二七	一五四,〇四六	一,七一一	六,三二四	六七五,六一四	五九〇,三六六	一九八,一九三
共済火災	八三,三六五	一五六,〇八二	二,三九〇	三,八五四	五二二,八一六	九九六,九九五	一五五,四六一
神戶海上	一四九,九七一	一六七,四七六	三,四一四	四,九五二	六六八,九六九	三〇八,九六九	五〇一,五〇五
東明海上	二八,四七一	一八一,一七四	五,三九〇	二一,八六三	七九九,六五一	五七七,一二五	八七,四五三
東洋海上	五九,五三七	一三二,五〇三	二,一三三	三,六〇五	六九一,八八八	五六二,二四六	一九六,〇八六
福壽海上	三,四九六	一六,八五四	六,三二一	二,九一〇	二四,三三六	二二四,三三六	一九,一五七
日清海上	九二,七五七	六二,九五九	八,七二八	一四,一三五	二三四,一三三	二八四,三四五	五八,九五八
豐國火災	三,八二五	二五,六八九	六〇六	四,〇九一	三三,一〇四	一六五,二〇〇	三三,二四四

帝國火災	二,一五六	七,八一五	五五五	二,一七三	八三,七七八	五五,八五六	二,〇〇四
千代田火災	八八,三三八	九二,三三九	五,〇三五	九,〇四七	四一九,六四〇	二八五,一九一	四四,五六五
日章火災	八二,七二八	八七,〇三五	六,四七三	九,四一一	三〇一,三五五	三三四,一五九	六〇,一四七
第一火災	五五,六二二	七〇,二五七	一,四一四	一七,六六七	三三三,七四四	三五三,九〇八	五五,五九三
扶桑海上	三六,〇七七	三二,〇七〇	六,五五六	三四,三二二	一,〇〇九,七二五	四九〇,三五二	三〇六,六五三
日東海上	一六,四九九	二四,五五八	一,一三八	二,二九三	一一九,八七三	一四九,九五〇	二〇,四八五
中外海上	一〇,七七〇	一一,〇九五	二,一〇五	一六,三五六	五二二,三三七	三八六,〇五八	一七,〇四七
大東海上	二六,三四八	五二,二四六	三,一〇五	八,〇三五	二〇〇,九四六	一九一,三八九	四四,一四八
朝日海上	三九,〇六四	七三,九三三	二,三七五	七,四一八	二四四,五〇七	三二五,四五二	一〇七,〇一一
大正海上	一三,二二八	二四八,七四一	二,九二六	一八,九〇一	一,〇三九,五九一	七三三,五八三	一八二,三九〇
八千代海上	九二,四七一	二九,五三三	三,七五〇	二,八二三	一一五,〇五八	一四三,八八七	九,一一二
大福海上	七,九〇一	二六,〇〇六	六二六	四,三〇〇	二二四,四九八	一六〇,七七九	四〇,四六五
三菱海上	四三,三三二	三三,四六七	七,四六五	六五,七〇九	一,三八〇,〇六〇	五五七,七七五	三三三,三七五
三洋海上	一九,九六〇	六二,九五〇	六,四三七	二六,三四一	三〇五,八四八	二三八,〇一一	一八,一九三
太平洋海上	三〇,七二二	九二,九五六	一,八七三	八,四一九	二六三,五〇五	一三三,五九三	一〇八,〇三七
辰馬海上	二,八四三	二〇,六三三	六五五	四,五三六	一八二,九二九	九五,五一一	三七,六四七
大平海上	三五,五六二	四五,七八二	二,五二四	二,七八四	一四七,四四〇	一四八,〇三〇	二八,二九五
大和海上	三六,六二五	三三,一八四	一,五三三	二,一六四	一六四,〇一六	一三〇,五七一	八五,〇三三

大日本火災
中央火災傷害
神國海上

六、四三三	九、四三五	六、一	三〇、三六八	二、三三三
四、五六一	七、五三七	一、四三四	二八〇、一一〇	八七、七〇七
二四	一六五	一五九	九八四	九八

世界遭難趨勢 (十ヶ年間)

△印ハ英保險協會年報ニ依ル

年次	汽船 隻數	汽船 噸數	帆船 隻數	帆船 噸數	汽船 噸數	帆船 噸數
一九一五年	九七	一、八九三	二二六	三三	二六	三三
一九一六年	一、二八	二、二七一	五一	二八四	二六	三三
一九一七年	二、〇五	六、〇七	七四八	五〇	二八	四五
一九一八年	一、二九四	三、三三	三三三	一一	二七	四五
一九一九年	四三	五、四	二四一	二二	二七	四五
一九二〇年	三七〇	五、八	二二五	一一	二七	四五
一九二一年	三五四	五、六	二二五	一一	二七	四五
一九二二年	△ 一七六	△ 二二六	四七、七五六	四	一七	三五
一九二三年	△ 一七六	△ 二二六	四七、七五六	四	一七	三五

一九二四年
更に一九二四年海難及喪失船(汽船)の國別内容は左の如し

國別	汽船 隻數	汽船 噸數	帆船 隻數	帆船 噸數
日本	二六	六六、七六五	二	二〇
英國	二八	五八、三七八	一	一〇
米國	四五	一一八、〇四〇	一	一〇
丁國	三七	一五、二七四	一	一〇
佛國	八	七、六二六	一	一〇
獨逸	四	一一、三八一	一	一〇
希臘	四	一一、一七一	一	一〇
希國	四	一一、一七一	一	一〇
和蘭	一	一〇、一九三	一	一〇
其他諸國	一六六	九、〇〇八	一	一〇
合計	一四四	四一〇、四三四	一	一〇

伊太利
諾威
西班牙

一二	四五、四八二
一二	二三、二八五
四	九、〇四三

瑞典	五	九、〇〇八
其他諸國	一六六	一三、九八七
合計	一七二	四一〇、四三四

世界船舶海難件數明細 (五ヶ年間)

年次	原因	天候ニ因ル故障	沈没及委付	擱坐	衝突	火災及爆發	不明	機關及推進器故障	其他	合計
一九一九年	五五二	三五	一、一五二	一、四二	五〇三	一、〇七	三三	一、〇〇	五、〇五七	
一九二〇年	二八八	七三	一、五三三	一、八八	七〇三	一、〇七	三三	一、〇〇	七、〇九四	
一九二一年	二八六	七〇	一、三〇四	一、三三三	五〇七	一、〇六	三三	一、〇〇	五、四四〇	
一九二二年	四九四	四三	一、五一一	一、六六	五三三	一、〇六	三三	一、〇〇	六、六八五	
一九二三年	四四五	四三	一、六六	二、〇九	五三三	一、〇六	三三	一、〇〇	七、〇〇七	

本邦海難船及海難者 (船は隻數遭難者は人員)

年次	汽船 減失	汽船 損傷	帆船 減失	帆船 損傷	汽船 死亡	汽船 負傷	帆船 死亡	帆船 負傷	合計 死亡	合計 負傷
明治四十一年	二九	四三	三六	一五	六	一四	一六	三	二二	一七
大正二年	二	六三	一九	二九	五〇	四八	八一	四	九九	三九

船名	噸數	遭難月日	船主	第幾	噸數	船名	噸數	遭難月日	船主	第幾	噸數
船名山	1,100	11	小樽造船主	新多賀	1,500	原真一	5	5	深澤增吉	1	5
福生田	1,100	11	對馬商船	松山船	1,500	木鄉伊吉	5	5	近海郵船	1	5
主基	3,000	11	辰馬汽船	大禮	1,794	近海郵船	1	1	北日本汽船	1	1
德福	5,889	11	國際汽船	天運	1,794	旭木商店	1	1	旭木商店	1	1
瓜哇	4,686	11	大阪商船	佐代	1,794	支洋汽船	1	1	支洋汽船	1	1
寧靜	2,533	11	原田汽船	三平	1,794	樺太汽船	1	1	樺太汽船	1	1
彌彦	4,000	11	神戶汽船	神戶	1,794	村尾汽船	1	1	村尾汽船	1	1

本邦汽船遭難明細 (十三年度)

月	噸數	隻數	噸數	隻數	噸數	隻數	噸數	隻數	噸數	隻數
八月	1,100	1	1,500	1	1,500	1	1,500	1	1,500	1
九月	1,100	1	1,500	1	1,500	1	1,500	1	1,500	1
十月	1,100	1	1,500	1	1,500	1	1,500	1	1,500	1
十一月	1,100	1	1,500	1	1,500	1	1,500	1	1,500	1
十二月	1,100	1	1,500	1	1,500	1	1,500	1	1,500	1

月次	沈没	坐礁	衝突	火災	行衛不明	其他遭難
一月	1	1	1	1	1	1
二月	1	1	1	1	1	1
三月	1	1	1	1	1	1
四月	1	1	1	1	1	1
五月	1	1	1	1	1	1
六月	1	1	1	1	1	1
七月	1	1	1	1	1	1
八月	1	1	1	1	1	1
九月	1	1	1	1	1	1
十月	1	1	1	1	1	1
十一月	1	1	1	1	1	1
十二月	1	1	1	1	1	1

十三年度遭難汽船月表 (本社調査)

伊吹山 高知 隆昌 二新 豐前 赤城 東華 來島 吉備 神福 日洲 大神海 大津 玉東 一色 宜陽 二萬

六、〇〇〇 三、〇〇〇 二、八八〇 三、六〇〇 二、一五〇 五、〇〇〇 二、五〇〇 六、五〇〇 一、〇七〇 二、三〇〇 三、三〇〇 七、三〇〇 一、九〇〇 六、五七三 一、八〇三 一、八〇〇 一、八〇〇

一、二 一、一八 二、四 三、三 三、三 三、三 三、三 三、三 三、三 三、三 三、三 三、三 三、三 三、三 三、三 三、三 三、三

三井物産 大阪商船 佐藤商店 市村船具 栗林商船 尼崎汽船 川崎汽船 帝國海軍 日下部汽船 岸本汽船 岡崎汽船 岸本汽船 帝國汽船 日本汽船 日清汽船 共立汽船

運天 八萬 大鳳 雲海 千島 香洋 大城 天正 高阪 大正 八代 蘇州 神海 東海 快運 み谷 鈴木 正木

九七五 八〇一 六、九〇七 二、〇七〇 一、三五四 五、四七一 八、四〇〇 一、六〇〇 五、八〇〇 二、七四〇 一、三三三 一、六五二 一、七七七 五、三〇〇 一、〇〇〇 一、八五〇 一、八五〇 一、三三五

七、三 七、二 七、二 八、一四 一〇、一三 一〇、一三 一〇、一三 一〇、一三 一〇、一三 一〇、一三 一〇、一三 一〇、一三 一〇、一三 一〇、一三 一〇、一三 一〇、一三 一〇、一三

帝國汽船 岡崎汽船 岡崎汽船 栗林商船 田中善三郎 東洋汽船 日本汽船 東京汽船 大阪商船 內田汽船 岡崎汽船 大阪商船 川口善次 東海汽船 鐵道省 田中鏡業 北日本汽船 日本郵船

船名 神宮 秩父 加賀 昌福 廣榮 三影 大井 十一博 龍川 龍田 富江 富江 室蘭 ノルホーク 三橋 アマン 正宗

噸數 三、〇〇〇 一、五〇〇 二、二〇〇 二、二〇〇 二、二〇〇 二、二〇〇 一、五〇〇 七、〇〇〇 四、〇〇〇 一〇、九七九 三、〇〇〇 三、〇〇〇 九、七三九 九〇〇 三、〇〇〇 一、三三六 一、三三六

遭難月日 一、三 二、七 二、七 二、九 二、九 二、五 二、二 三、二 三、二 三、二 三、二 三、二 三、二 三、二 三、二 三、二 三、二

船主 小栗六郎 今井六郎 靱商 川崎汽船 高井 奧田榮吉 大田商船 北日本汽船 大阪商船 日本郵船 九州汽船 鹿兒島商船 川崎汽船 村尾造船 大阪商船 尼崎汽船

ハブール 神奈川 神吉 秀運 海極 二東 桂信 大信 アマチ 樂洋 東洋 北洋 熊本 日高

五、六〇〇 五、八七〇 六、六〇〇 七、〇〇〇 八、〇〇〇 四、三三六 八、四四〇 三、八七〇 一、一四八 六、六〇八 九、四一四 五、八七〇 八、〇〇〇 四、〇〇〇 三、〇〇〇 三、〇〇〇 三、〇〇〇

七、一六 七、二四 八、一四 一〇、一三 一〇、一三 一〇、一三 一〇、一三 一〇、一三 一〇、一三 一〇、一三 一〇、一三 一〇、一三 一〇、一三 一〇、一三 一〇、一三 一〇、一三 一〇、一三

大阪商船 日本郵船 岸本汽船 尼崎汽船 金澤商船 極東公司 桂國汽船 佐藤商店 北海汽船 大田商船 東洋汽船 國際汽船 北洋汽船 山下汽船 栗林商船

神鐵	阿元	抗神	龍旭	北山	高山	東海	ホラ	ス	セ	バ	綾	天
宮山	蘇山	州威	勢辰	陽辰	神海	海	ノ	コ	イ	イ	羽	利
二、七六	三、一〇〇	三、一〇〇	二、八〇〇	三、八〇〇	二、〇〇〇	八、五八〇	九、〇六四	一〇、六七六	五、三三〇	五、七三三	一、二〇〇	
七、三三	同	同	六、二五	六、六	同	五、一〇	四、六	三、三	三、三	三、三	同	
小栗	橋本	日本	山本	大阪	岸本	窪山	北海	新瀉	島谷	大阪	東海	大阪
汽船	汽船	郵船	汽船	商船	汽船	商會	郵船	水産	汽船	商船	汽船	商船
同	浸水	同	同	接	同	同	同	同	同	同	同	同
				觸	坐	破	破	破	破	破	破	破

十二	平	隼	天	海	三	美	ま	芝	和	宇	高	久	隆	雲
二雲	戸	山	城	千	代	ら	浦	氣	島	砂	愛	福	陽	陽
八、四〇〇	一、五〇〇	三、〇〇〇	一、五八	一、三六	三、四〇〇	九、四〇〇	一、二六〇	四、九八	一、〇二	八、二	八、二	八、二	八、二	八、二
二、四	二、三	二、三	同	二、九	同	一、三	一、〇	一、〇	一、〇	八、二	八、二	八、二	八、二	八、二
中	野	中	近	岸	新	神	大	朝	米	新	日	岡	國	日
口	部	部	海	本	木	港	阪	鮮	村	興	本	崎	際	清
村	幾	幾	本	本	本	本	本	本	本	本	本	本	本	本
組	汽	汽	郵	汽	商	汽	商	郵	合	汽	汽	汽	汽	汽
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同

福安	東北	海八	ウ	三	コ	原	伊	孫	大	津	久	船	若
喜藝	結辰	福丈	山	國	ア	田	山	海	通	輕	島	名	戎
八、〇〇〇	六、〇〇〇	一、八五〇	四、七〇	五、〇四九	三、五〇	八、七〇〇	七、七六	三、〇〇〇	四、一〇九	五、八二四	八、七〇	一、二〇〇	一、〇八〇
三、五	三、一	一、〇六	一、〇九	六、九	四、三	四、三	三、三	三、三	三、七	二、〇	二、八	一、三〇	一、三〇
橋本	日本	川崎	藤山	勝田	東京	山一	高井	東洋	原田	三井	入江	内田	大阪
汽船	郵船	汽船	汽船	汽船	汽船	汽船	汽船	汽船	汽船	汽船	汽船	汽船	汽船
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同

香	關	大	海	木	廣	和	共	船	香	長	チ	船	銀
港	野	山	正	曾	速	蘭	濟	名	川	幸	ヨ	名	洋
六、〇〇〇	九、九四	五、〇〇	一、二〇〇	六、四〇〇	五、〇〇〇	九、〇九〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇	二、四〇〇	二、二〇〇	一、九〇〇	一、九〇〇	一、六、〇〇〇
三、三〇	二、二〇	二、二五	二、八	二、三	同	一、一六	一、一六	一、一六	二、四〇〇	二、二〇〇	二、二〇〇	二、二〇〇	二、三〇〇
大阪	東	橋	雜	三	廣	川	共	船	大	長	チ	船	銀
商	海	本	賀	井	速	崎	濟	名	港	川	ヨ	名	洋
船	運	船	船	船	船	船	船	船	船	船	船	船	船
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同

石

炭

石炭

世界石炭需給

我國の石炭埋藏量は世界中第十一位にある第一位が北米合衆國、二位が加拿大、支那、露西、英吉利、西伯利亞、瀋洲、印度、露西亞、埃國、佛蘭度、順位で其次が日本である各埋藏量に就いて見れば我國は實に格違ひの貧弱國である最上の調査(エクス、バ、カ、一著歐洲大戰の經濟的經論)に依れば左の如し

白佛埃露英獨	國	逸名
耳 匈	國	國
義 國	國	國
一四八、二四八、〇〇〇、〇〇〇	埋	藏
一六五、三八七、〇〇〇、〇〇〇	埋	藏
一、九八八、〇〇〇、〇〇〇	埋	藏
一、九八八、〇〇〇、〇〇〇	埋	藏
一八、五七七、〇〇〇、〇〇〇	埋	藏
一、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇	埋	藏

諸 班 威	八、七五〇、〇〇〇
西 牙	五、五三七、〇〇〇
和 蘭	四、四〇二、〇〇〇
バルカン諸邦	九、九六六、〇〇〇
伊 太 利	二、四三三、〇〇〇
米 國	三、八三八、六五七、〇〇〇
カ ナ ダ	一、二三四、二六九、〇〇〇
支 那	九、九、五八七、〇〇〇
シベリヤ	一、七三三、八七九、〇〇〇
印 度	七、九〇一、〇〇〇
日 本	七、九七〇、〇〇〇
滿 洲	一、二〇八、〇〇〇
朝鮮	八、〇〇〇、〇〇〇
朝 鮮	五、七、八三九、〇〇〇
アフリカ諸州	三、二、一〇二、〇〇〇
南米中米諸國	一、六五、五七二、〇〇〇
瀋 洲	一、六五、五七二、〇〇〇

而して歐洲戦争後世界各國に於る石炭消費額の明白なる統計を得ざるが故に大正三年に於ける實績に依つて埋藏量百に對する比率を求めて見ると左の如くになつ

神戸市播磨町十六番



合資 會社 大濱組運送部

大阪市東梅田町二九三

大阪(梅田驛)出張所

電話 (特選) 四六五一番 二四六一番

電話北一九六七番

石炭

世界石炭需給

我國の石炭埋藏量は世界中第十一位にある第一位が北米合衆國で二位が加奈陀それから支那、獨逸、英吉利、西伯利亞、濠洲、印度、露西亞、澳匈國佛領印度の順位で其次が日本である各埋藏量に就いて見れば我國は實に尙ほ遠くの貧弱國である最近の調査(エクス、パカ)著歐洲大戰と經濟的經路)に依れば左の如し

國名	埋藏量
獨逸	一四八、二四八、〇〇〇、〇〇〇
英國	一六五、三八七、〇〇〇、〇〇〇
露國	一、九八八、〇〇〇、〇〇〇
佛國	九八八、〇〇〇、〇〇〇
奧國	一八、五七七、〇〇〇、〇〇〇
白耳義	一一、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇

赤戦後異動!! 米國地理學會調査

諸國	埋藏量
西班牙	八、七五〇、〇〇〇、〇〇〇
和蘭	五、五三七、〇〇〇、〇〇〇
巴爾カン諸邦	四、四〇二、〇〇〇、〇〇〇
伊太利	九、九六〇、〇〇〇、〇〇〇
米國	三、八三八、六五七、〇〇〇
カナダ	一、二三四、二六九、〇〇〇
支那	九、九八七、〇〇〇、〇〇〇
シベリヤ	一、七三三、八七九、〇〇〇
印度	七、九〇〇、〇〇〇、〇〇〇
日本	七、九七〇、〇〇〇、〇〇〇
滿洲	一、二〇八、〇〇〇、〇〇〇
朝鮮	八、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇
アフリカ諸州	五、七八三、九〇〇、〇〇〇
南米中米諸國	三、二一〇、〇〇〇、〇〇〇
濠洲	一、六五五、五七二、〇〇〇

而して歐洲戰争後世界各國に於る石炭消費額の明白なる統計を得ざるが故に大正三年に於ける實績に依つて埋藏量百に對する比率を求めて見ると左の如くになつ



神戸市播磨町十六番

大濱組運送部

大阪市東梅田町二九三

大阪(梅田驛)出張所

電話(特設)四六五一番
二四六一番

電話北一九六七番

右比率は數年前の統計に屬し、現在に於ては其國々の工業發展の長短に依つて實情を異にするに至つて居る事は勿論であらうが佛國、白耳義と共に我國は最も石炭國としての壽命が短い部分に屬して居る

大正三年
消費額
埋藏量百に對する消費額の比

□世界の石炭産額（一九二四）（單位千噸）

國名	産出額	輸入額	輸出額
英國	二、八〇五	一六	三、八三三
獨逸	一、三三三	—	—
南亞細亞	一、三三三	—	—
佛國	一、三三三	九、九五五	七、一九四
白耳義	三、三三〇	—	—
南阿弗利加	二〇、五三四	七三四	八八一
英領印度	八、八三三	—	—
加奈陀	一、九〇〇	—	—
佛國	一、九〇〇	—	—
獨逸	四、九五五	—	—
伊太利	一、八八九	—	—
日本	—	—	—
日蘭	—	—	—
波蘭	三、〇〇〇	—	—
露西亞	—	—	—
和蘭	—	—	—
チエックスロバキヤ	—	—	—
英吉利	—	—	—
合衆國	—	—	—

支那 三二、三〇〇
其他 三七、八六七
總計 一、三五〇、〇〇〇

(註)輸出入額ハ一九二〇年度ナリ
次に米國地學協會調査になる世界産炭額の過去十ヶ年趨勢左の通りである (單位百萬噸)

年	一九一五年	一九一六年	一九一七年	一九一八年	一九一九年	一九二〇年	一九二一年	一九二二年	一九二三年	一九二四年
一九一五年	一九六	一九一六年	一九一七年	一九一八年	一九一九年	一九二〇年	一九二一年	一九二二年	一九二三年	一九二四年
一九一七年	一三五五	一九一八年	一九一九年	一九二〇年	一九二一年	一九二二年	一九二三年	一九二四年		
一九一九年	二六六	一九二〇年	一九二一年	一九二二年	一九二三年	一九二四年				
一九二一年	二二六	一九二二年	一九二三年	一九二四年						
一九二三年	二三九	一九二四年								

國名	一九二三年	一九二四年
獨逸	一、九三三	一、九三三
英國	三、二〇〇	二、七八四
佛國	四、〇〇〇	三、五五、八九一
白耳義	三、三〇〇	三、一九二五
露西亞	三、五、九〇〇	二、二、三三四
チエックスロバキヤ	一、四、五〇〇	一〇、〇〇〇
ロヴアキア	—	—
合衆國	—	—
加奈陀	—	—
日蘭	—	—
支那	—	—
印那	—	—
南亞	—	—
南阿弗利加	—	—
南南ウエルス・新西蘭	—	—

亦一九二三年度各需要國に於ける需給状態左の如し (單位千噸)

消費出炭	不足年額	月額
南米諸國	九〇,〇〇〇	一,三〇〇
佛國	七五,〇〇〇	三,〇〇〇
伊太	二〇,〇〇〇	二,〇〇〇
加奈	三,〇〇〇	三,〇〇〇
丁抹	三,〇〇〇	三,〇〇〇
和蘭	三,〇〇〇	三,〇〇〇
諾威	三,〇〇〇	三,〇〇〇
其他歐洲各國	一八,五五〇	七,四〇〇
計	一八,五五〇	七,四〇〇

一九二三年度主なる仕向地は左の通りである

仕向國	噸數	仕向國	噸數
佛蘭西	一八,八六六,三五三	諾威	一,六〇九,七七八
獨逸	一四,八〇六,二二三	伯刺爾	一,一五一,六二九
伊太	七,五九二,七三五	西班牙	一,一四五,八〇一
和蘭	六,五〇四,三四六	葡萄牙	七六六,三三九

米炭輸出國別

仕向國	噸數	仕向國	噸數
白耳義	六,五〇四,五九二	露西亞	四七六,二〇五
瑞典	三,一六八,三六七	希臘	四六三,〇七〇
丁抹	三,一七〇,七五六	英領印度	八四一,七四五
亞爾然丁	二,四六〇,七四〇	智利	一九〇,〇九一
埃及	一,六九六,七五〇	其他	五,〇三三,七六三

無煙炭

仕向國	噸數
加奈	二,二九七,八三〇
其他	六八,三五七
計	二,三六六,一八七

青炭

仕向國	噸數
佛國	一,一〇二
伊太	二,四〇八
ネーセルラント	二,五三七
其他歐洲諸國	一三,九七二

支那炭輸出入 (單位千噸)

年次	外國炭輸入	總輸出	日本向輸出	支那輸入
一九一〇	一,五〇〇	三〇〇	一〇	一,四〇〇

仕向國	噸數
加奈	九,六七五,三〇〇
巴馬	一〇五,四三八
墨西	九〇,五五六
英領印度	九〇,五六六
玖馬	四六,八五六
其他西印度	一〇三,九一八
亞爾然丁	七八,九七一
伯刺爾	一五二,一三三
智利	四六,九二六
其他南米	一
埃及	五三,二一八
佛領アフリカ	二七,二三四
其他諸國	四三,九五〇
合計	一一,〇八三,一一二

撫順炭輸出趨勢

大正三年	四年	五年	六年	七年	八年
八〇六,九五四噸	五九一,七五八	七九二,二五	七〇〇,七七六	六六四,二三	四二四,六四一

年次	輸出噸數	輸出噸數
一九一一年	一,六〇〇	五〇〇
一九一二年	一,六〇〇	七〇〇
一九一三年	一,八〇〇	一,五〇〇
一九一四年	一,七〇〇	二,〇〇〇
一九一五年	一,五〇〇	一,三〇〇
一九一六年	一,五〇〇	一,三〇〇
一九一七年	一,五〇〇	一,三〇〇
一九一八年	一,一〇〇	一,七〇〇
一九一九年	一,一〇〇	一,五〇〇
一九二〇年	一,三〇〇	一,九〇〇
一九二一年	一,四一八	一,八八六

本邦炭界趨勢

△全國産炭額 (單位千噸)

九州及山口縣産額

年次	全國産炭額	九州及山口縣産額
大正三年	一六、二六六	九、四六三
同四年	一六、三九九	八、〇一〇
同五年	一八、五九九	九、〇四七
同六年	二〇、七〇七	一〇、三六六
同七年	二二、〇五五	一〇、三四〇
同八年	二四、八〇〇	一一、三八三
同九年	二五、六六四	一〇、四五六
同十年	二四、六三二	一七、二四二
同十一年	二四、九七一	一八、六四六
同十二年	二六、三〇五	一五、二八〇
同十三年	二七、四九四	一九、八三一

次に昨年中の出炭数を地方別として一昨年と對照する時は左の如し

地方別	大正十三年	大正十二年	大正十一年
北海道	四、九四二	四、三四九	三、八六三

福島縣	一九三三	一九三三
茨城縣	七三〇	六四六
長崎縣	一、四三五	一、二九八
山口縣	一、三九二	一、〇三六
福岡縣	一、五八六	一、五五六
佐賀縣	一、一五一	一、五五四
計	二七、四九三	二六、二八五

尙大正元年より十三年迄の生産輸出入額を擧ぐれば左の如し (單位千噸)

大正三年	生産	輸出入
同四年	三、二九三	九五八
同五年	二〇、四九一	六二五
同六年	二二、九〇二	五五六
同七年	二六、三三六	七二三
同八年	二八、〇〇九	七六八
同九年	三三、二七一	六〇九
同十年	二九、二四五	六九七
同十一年	二六、三三〇	七七七
同十二年	二四、九七二	一一六八
同十三年	二七、四九三	一一六八

次に消費炭の内容左の如し

内國	鐵道用	製鹽用	工場用
外國			
船外			
船内			
大正元年	一、五七〇	七九一	六六七
同二年	一、七八五	七九八	七二三
同三年	一、九一五	八二〇	八二五九
同四年	一、九一五	八二六	八、三三三
同五年	一、九三三	八三八	一〇、四三九
同六年	二、三九九	七九八	二、三三六
同七年	二、九四〇	五九六	一四、三四二

又輸出炭の仕向地別數量を示せば左の如し

支那	佛領印度	一、五七一
香港	布哇	一、七二一
新嘉坡	北米	一、五七〇
比律賓	濠洲	三、五三一
蘭領印度	關東洲	二、八五〇
合衆國	其他	二、〇五八
同十一年		二、九四五
同十二年		二、〇〇〇
同十三年		三、五三一

筑豊炭成績

十三年度	八、五、六七	六七六	三、三三三	八六四	一四、八一九
同十一年	九、六、〇五	九四五	三、三一九	七七八	一四、六九五
同十一年以降の統計を欠ぐ	七、三六	二、八八六	七三五	一四、八六四	

十三年度築豊炭需給左の如し

十三年度	九、〇、四三	一、〇、一、五三九	九四〇、二二三	九三、一八八
同十二年	八、八、五八	八三九、〇九二	九四〇、二二三	九三、一八八
同十一年	八、八、五八	八三九、〇九二	九四〇、二二三	九三、一八八

十三年度産出は一千百十六萬噸にして月別左の如し

一月	九、〇、四三	八五二、一八九	七六六、九九七
二月	八、八、五八	八三九、〇九二	八四八、三〇九
三月	八、八、五八	八三九、〇九二	八四八、三〇九
四月	八、八、五八	八三九、〇九二	八四八、三〇九
五月	八、八、五八	八三九、〇九二	八四八、三〇九
六月	八、八、五八	八三九、〇九二	八四八、三〇九
七月	八、八、五八	八三九、〇九二	八四八、三〇九
八月	八、八、五八	八三九、〇九二	八四八、三〇九
九月	八、八、五八	八三九、〇九二	八四八、三〇九
十月	八、八、五八	八三九、〇九二	八四八、三〇九
十一月	八、八、五八	八三九、〇九二	八四八、三〇九
十二月	八、八、五八	八三九、〇九二	八四八、三〇九

十一月	九四三、四四八	八三九、〇一九	八三六、八八一
十二月	九五八、四七六	八五一、一〇四	八六一、二四
計	一、〇、〇四三	九六一、七四七	九五五、八四七
計	二、一六八、九四四	一、〇、四九九	一、〇、二七六、三八

十三年中の筑豊炭需要は海外輸出炭四十六萬噸内地移出炭六百八十七萬噸門若兩港に於て内外汽船に供給せらる燃料炭内國船百四十七萬噸外國船三十三萬噸九州方面直送並に鐵道供給百八十七萬噸合計一千二百二萬噸にして前年との比較は輸出七萬噸内地積出三十二萬噸及び外國船用六萬噸船用炭内國船十七萬噸及九州地場並に鐵道用炭は二萬噸と全部増加せり
 海外輸出炭の仕向地は左の如し

仕向地	十三年	十二年	十一年
上海	三〇六、七五	三〇六、九八〇	一四九、三九一
香港	七三、八七	八八、七六七	七六、九七六
新嘉坡	七、八六〇	一九、八二五	五〇、一〇三
カラチ	—	—	一〇、一五〇

内地積出炭内容は左の如し

孟買	—	—	六六、三八七
西貢	—	—	三〇、六五一
廣東	—	—	三、五七六
大連	—	—	二八〇
浦沙	—	—	—
カルカッタ	—	—	—
青島	—	—	—
蕪湖	—	—	—
アング	—	—	—
漢口	—	—	—
荻波	—	—	—
寧波	—	—	—
黄浦	—	—	—
カンドニア	—	—	—
厦門	—	—	—
南京	—	—	—
其他	—	—	—

仕向地	十三年	十二年	十一年
大阪	一、六五四、六三三	一、六三二、九四九	一、六七九、一〇四
神戸	五三九、一五八	四八〇、〇一一	四八四、五五九
横濱、東京	四六二、七三三	四九七、二一一	四八一、五八
熱田	八三、四〇四	八五、二五九	一六三、七五五
朝鮮各港	三二八、四四〇	二八二、一三五	二八二、八八八
飾磨	一〇四、七八九	一一八、七三三	九四、八八〇
和歌山	一〇三、三〇三	一六五、六九三	一六四、三〇〇
岸和田	九九、五五六	一一七、一六	一三三、四三三
半田	九五、〇〇三	一〇七、二八四	一〇八、一五三
名古屋	一一〇、九九九	一〇三、二〇六	八八、六六一
岡崎市	七五、六四九	六四、五四二	六二、七八
四日市	六四、五四八	七一、三七〇	九二、〇〇四
堺市	七三、四四六	七六、二四九	七九、三〇〇
下野	五三、三六〇	四五、六八三	五八、七五五
宇野	—	一〇三、五一八	一三二、〇九〇
高知	五九、四八四	六四、八九〇	六二、一八一
高知	七三、三四	六三、七八一	六四、〇四七

尼崎	八五、六九〇	四九、五四九	一〇一、五八九
宇品	一九、一八	一一、六三九	八八、三三五
清水	三三、五九二	三三、九一九	四三、四六一
其他	五二九、〇四三	三六八、五三三	—
共計	—	—	—
一月	—	—	—
二月	—	—	—
三月	—	—	—
四月	—	—	—
五月	—	—	—
六月	—	—	—
七月	—	—	—
八月	—	—	—
九月	—	—	—
十月	—	—	—
十一月	—	—	—
十二月	—	—	—

マ セ	マ テ	パ タ	シ ン	カ ル	コ ロ	ホ ン	カ ラ	ポ ー	マ ル	ナ ボ	ゼ ノ	オ ラ	ア ル	シ ブ	供 給
セント ヴン セント	イ ラ	ビ ヤ	ガ ポ ール	カ ツ タ	ン ボ	ン ベ イ	ラ チ	ト サ イ ド	ル タ	ボ リ	ノ ア	ラ ン	ジ エ ール ス	ブ ラ ル ター	港
同	英	上	日	濠	同	同	同	印	同	同	同	同	同	英	炭
(ウ エル 炭)	國	等	本	洲	上	上	度	切	切	切	切	切	切	國	種
三、〇六	二、九〇	二、八〇	二、六〇	二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇	一九三三年 の市價 志片
三、〇〇	二、九〇	二、八〇	二、六〇	二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇	一九三五年 の市價 志片

ロ ン ド	ラ ブ ラ ン	ニ ュー ボ ト ニ ュー ス	ノ ー フ オ ー ク	パ ル チ モ ア ー	ヒ ラ デ ル ヒ ヤ	ニ ュー ヨ ー ク	シ ド ニ ー	バ ー ド ー ス	セ ン ト ト ー マ ス	ケ ー プ タ ウ ン	ナ タ ル	グ エ ノ ス ア イ レ ス	ア レ ト	モ ン テ ビ テ オ	サ ン ト ス	リ ン コ	ベ ナ ン コ	
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	英	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
一、五〇〇	三、九〇〇	三、三〇〇	三、三〇〇	三、三〇〇	三、三〇〇	三、三〇〇	三、三〇〇	三、三〇〇	三、三〇〇	三、三〇〇	三、三〇〇	三、三〇〇	三、三〇〇	三、三〇〇	三、三〇〇	三、三〇〇	三、三〇〇	三、三〇〇

一月	十二月	十一月	十月	九月	八月	七月	六月	五月	四月	三月	二月	一月
別	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月
大阪	大阪	大阪	大阪	大阪	大阪	大阪	大阪	大阪	大阪	大阪	大阪	大阪
四、〇五	三、九〇	三、八〇	三、七〇	三、六〇	三、五〇	三、四〇	三、三〇	三、二〇	三、一〇	三、〇〇	二、九〇	二、八〇
吳	吳	吳	吳	吳	吳	吳	吳	吳	吳	吳	吳	吳
二、九〇	二、八〇	二、七〇	二、六〇	二、五〇	二、四〇	二、三〇	二、二〇	二、一〇	二、〇〇	一、九〇	一、八〇	一、七〇
岡山	岡山	岡山	岡山	岡山	岡山	岡山	岡山	岡山	岡山	岡山	岡山	岡山
三、八五	三、七〇	三、六〇	三、五〇	三、四〇	三、三〇	三、二〇	三、一〇	三、〇〇	二、九〇	二、八〇	二、七〇	二、六〇
伊勢灣	伊勢灣	伊勢灣	伊勢灣	伊勢灣	伊勢灣	伊勢灣	伊勢灣	伊勢灣	伊勢灣	伊勢灣	伊勢灣	伊勢灣
五、九〇	五、八〇	五、七〇	五、六〇	五、五〇	五、四〇	五、三〇	五、二〇	五、一〇	五、〇〇	四、九〇	四、八〇	四、七〇

最近世界の船舶燃料炭價は各國の産炭額及其の需要關係より各異れどもそれを戦前一九一四年に比すれば八割見當の騰貴を告げ居れり即ち世界の船舶燃料供給諸港に於ける炭價の戦前相場と十四年四月との比較を示せば左の如し

二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月
四、三〇	四、二〇	四、一〇	四、〇〇	三、九〇	三、八〇	三、七〇	三、六〇	三、五〇	三、四〇	三、三〇
二、九〇	二、八五	二、八〇	二、七五	二、七〇	二、六五	二、六〇	二、五五	二、五〇	二、四五	二、四〇
二、九〇	二、八五	二、八〇	二、七五	二、七〇	二、六五	二、六〇	二、五五	二、五〇	二、四五	二、四〇

三四月五六月七月八月九月十月十一月十二月

世界石油産額

一九二四年に於ける世界各國の石油總産高は一、〇一三、〇一〇バレルと概算さる之れを各國別産油高を示せば左の如し

メキシコ	二〇三、五〇〇	一五三、〇七五	一四三、〇〇〇
米	四六四、〇〇〇	七三三、七〇二	七二八、〇〇〇
國名	大正十一年	同十二年	同十三年

露國	三六、四〇〇	三六、一六七	四九、〇〇〇
蘭領印度	一九、〇〇〇	一五、〇〇〇	一五、〇〇〇
羅馬尼亞	七、四三五	一〇、八五〇	七、五〇〇
印度	七、五〇〇	七、五七五	七、五〇〇
波蘭	三、三三三	二五、〇〇〇	三〇、〇〇〇
波蘭	四、〇〇〇	五、四〇〇	五、〇〇〇
秘魯	三、八八七	六、三七五	六、五〇〇
日本	二、四四〇	一、六九五	一、〇〇〇
日	二、三三〇	三、〇八七	三、五〇〇
トルンダット	一、〇四三	一、〇三七	一、〇〇〇
埃	一、六六六	三、四〇〇	三、五〇〇
獨逸	二、二二二	三、三三三	三、〇〇〇
加奈陀	一、九七七	一、七五五	一、七〇〇
グエネツエラ	八、〇〇五	四、〇五九	八、〇〇〇
伊太利	三、三三三	三、三三三	三、三三三
佛國	三、八九九	四、四〇〇	五、二九〇
其	一	四、六三三	一
合計	七六一、七六〇	一、〇一〇、九九五	一、〇一三、〇一〇

船舶用燃料油價

十一年三月末現在紐育石油會社の發表に依れば船舶用燃料油價は英米炭競争の爲め炭價崩落影響を左の如く低落せり

港名	十一年三月	十年九月
バルテモア	一弗五仙	一弗五〇仙
古倫母	八〇志	九〇志
ホノルル	二弗一五仙	二弗二五仙
ハル	七〇志	七五志
香港	八〇志	九〇志
季浦	七〇志	七五志
倫敦	七〇志	七五志
モントリール	二弗一〇仙	二弗二〇仙
ノーフォーク	一弗五仙	一弗五〇仙
紐育	一弗五〇仙	一弗五〇仙
巴奈馬	一弗五〇仙	一弗五〇仙
坡土蘭	一弗八五仙	一弗九〇仙
沙市	一弗八五仙	一弗九〇仙

世界重油供給港

世界産炭額の減少に伴って船舶の燃料は之れを石炭に俟たずして重油を以て充當すに至り重油船使用之れ列國の海運競争上最も有利なるべしと主張され居るも而も世界の重油産地及び之れが供給港に就いて見るに日本は殆ど問題以外にて洵に寒心すべき状態なり左に世界の供給港中の重要なものを示さん

新嘉坡	八〇志
上海	八〇志
香港	一弗九〇仙
日本	二弗三〇仙
加奈陀	二弗三〇仙
大西	二弗三〇仙
洋岸	二弗三〇仙
地方	二弗三〇仙
供給能力	二弗三〇仙
供給港	二弗三〇仙
供給能力	二弗三〇仙
ハリファックス	二弗三〇仙
モントリール	二弗三〇仙
一〇、〇〇〇	二弗三〇仙
マラクルス	二弗三〇仙
一八〇、〇〇〇	二弗三〇仙
プリンズルバート	二弗三〇仙
一〇、〇〇〇	二弗三〇仙

△英國地方
アパーデン 二,七〇〇
アボンマウス 四,五〇〇
パローン 五,〇〇〇
バートン 七,〇〇〇
テボート 三,六〇〇
ドボート 二,八〇〇
フオルクストン 四,〇〇〇
グランジマウス 七,〇〇〇
キングジヨージ 三,八〇〇
アレキサンドラ 三,八〇〇
トック 三,八〇〇
リス 三,八〇〇
リボン 三,八〇〇
△西班牙地方
△伊太利地方
ゼノボリア 六,〇〇〇
モルボリア 三,〇〇〇
バノル 一八,〇〇〇
サルテンド 六,五〇〇
フオルボライン 二,〇〇〇
インバード 三,五〇〇
キンボルム 一七,〇〇〇
ポートランド 二五,六〇〇
ボートランド 七五,四〇〇
ペンブローク 一,六〇〇
ロイス 二〇,〇〇〇
サウスシエルド 三,八〇〇
シラルター 一
グアラネテ 二〇,〇〇〇
サネテ 二四,〇〇〇
バニナス 四八,〇〇〇

△東地中海地方
サラミナ 二〇,〇〇〇
スミルナ 五,〇〇〇
レキサンドリア 一〇,〇〇〇
ボートサイド 三〇,〇〇〇
ビゼルタ 三六,〇〇〇
オラ 一
アルシール 一
アンゴ 一
△西亞弗利加地方
△南亞弗利加地方
ケープタウン 七,〇〇〇
△英領印度地方
マドラス 二八,〇〇〇
ランド 二八,〇〇〇
ツチ 二八,〇〇〇
コロナ 二八,〇〇〇
コラ 二八,〇〇〇
カラ 二八,〇〇〇
カッタ 二八,〇〇〇
コナ 二八,〇〇〇
カラ 二八,〇〇〇

パンク トリヤ 四四,〇〇〇
タックスパン 五五,〇〇〇
△西印度地方
サイエンフューゴ 二〇,〇〇〇
ハバナ(政馬) 二五,〇〇〇
マタンザス(同) 二五,〇〇〇
ボンス(ポートリス) 四〇,〇〇〇
△布哇地方
ホル 一四七,〇〇〇
△墨西哥灣地方
ビエト・メキシコ 五,〇〇〇
△東カリビアン地方
ウイルムタッド 七〇,〇〇〇
スベール 二五〇,〇〇〇
△西カリビアン地方
パオ 一〇〇,〇〇〇
△アマゾン及東刺西爾地方
クリストバル 一〇〇,〇〇〇
ネイロ 一〇〇,〇〇〇
セント・トーマス 一〇〇,〇〇〇
ゴイラ 一,〇〇〇

バヒア 三七,〇〇〇
サントス 二〇,〇〇〇
△リグアプレート地方
メンテビテヤ 四八,〇〇〇
ヴェノスアイレス 二五〇,〇〇〇
△秘露地方
カラ 一八,〇〇〇
△中央及北部智利地方
アントファガスタ 一五,〇〇〇
イタケ 二〇,〇〇〇
イタケ 九,〇〇〇
△スカンデナヴィヤ地方
パル 四,〇〇〇
クリスチヤニア 八,〇〇〇
スタバンゲル 六,〇〇〇
△和蘭地方
ロッターダム 一三,〇〇〇
サントス 二〇,〇〇〇
バヒアブランカ 一〇〇,〇〇〇
ビザギニ 三〇,〇〇〇
タルタル 三〇,〇〇〇
ゴツテボルグ 四,〇〇〇
ストックホルム 二四,〇〇〇

事業成績
 新設會社
 貨物運賃建



ベ	バ	パ	ダ	
ナ	レ	タ	ラ	
ン	ン	ビ	カ	△東
ン	ン	ヤ	ン	印
				度
				地
				方
三	七	一	三	五
〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇
バ	ベ	ス	マ	
シ	ラ	カ	ツ	
ン	ナ	ツ	サ	
コ	ガ	ナ	ヤ	
ツ	ボ	ン		
ク	ール			
		五	一	
		〇〇〇	八	
			〇〇〇	

事業成績
 新設會社
 貨物運賃建



ベ	サ	バ	パ	タ	
		レ	タ	ラ	
ナ	バ	ン	ビ	カ	△東
		バ	ン	ン	印
ン	ン	ン	ヤ	ン	度
					地
					方
一	七	一	三	五	
三、	五、	〇、	〇、	〇、	
〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	
バ	シ	バ	ス	マ	
ン	ン	ラ	カ	カ	
コ	ガ	ナ	ツ	ツ	
ツ	ボ	バ	サ	サ	
ク	ール	ン	ヤ	ヤ	
			五、	一八、	
			〇〇〇	〇〇〇	

大阪市東區今橋三丁目二十一番地

太平洋海上保險株式會社

取締役社長	中村 準 策	監查役	四井喜一郎
專務取締役	鷺野米太郎	同	福原芳次
同	岩川 與 助	同	高木重兵衛
取 締 役	佐藤 重 遠	同	濱崎照胤
同	長谷川 喜太郎	相 談 役	多木彖次郎
同	賴 久一郎	同	小口 村 吉

事業成績

◆海運會社

(十三年成績)

利益金項目中△印は欠損の意なり

項目	日本郵船	大阪商船	國際汽船	東洋汽船	日清汽船	朝鮮郵船	北日本汽船
資本金	100,000	100,000	80,000	33,500	16,100	3,000	3,000
拂込額	58,000	62,500	70,698	33,750	10,135	3,000	11,100
社債及借入	—	6,500	85,303	16,750	—	—	—
諸積立	79,046	36,273	35,053	1,360	4,997	—	629
利益金	1,618,221	1,479,000	1,360,011	66,973	563,549	—	110,098
積立及償却	3,692,296	4,295,000	4,447,045	1,034,873	457,565	—	465,767
配當率	—	—	—	—	—	—	—
所有噸數	—	—	—	—	—	—	—
船價	1,180	1,180	1,180	1,180	1,180	1,180	1,180

大阪市東區今橋三丁目二十一番地

太平洋海上火災保險株式會社

取締役社長	中村 準 策	監査役	四井喜一郎
常務取締役	鷲野米太郎		福原芳次
同	岩川 與助		高木重兵衛
取締役	佐藤 重遠		濱崎照胤
同	長谷川 喜太郎	相談役	多木榮次郎
同	久一郎		小口 村吉

事業成績

◆海運會社

(十三年成績)

利益金項目中△印は欠損の意なり

項目	日本郵船	大阪商船	國際汽船	東洋汽船	日清汽船	朝鮮郵船	北日本汽船
資本金	100,000	100,000	80,000	33,500	16,200	3,000	3,000
拂込額	58,000	63,500	70,698	33,750	10,135	3,000	2,100
社債及借入	—	6,500	6,500	16,303	—	—	—
諸積立	79,000	33,275	35,000	1,365	4,597	—	639
利益金	1,682,211	1,491,079	1,479,000	1,560,011	563,599	—	1,000,996
積立及償却	3,693,296	3,335,603	4,295,000	1,034,873	457,565	—	465,767
配當率	11.0%	10.7%	0.7%	無配	無配	0.0%	0.0%
所有噸數	—	—	—	—	—	—	—
船價	1,466	1,466	1,466	1,466	1,466	1,466	1,466

社名	種別	資本金	拂込額	準備積立	責任準備	支拂備金	利益	積立	配當	新契約高
朝日海上	海上	10,000,000	2,500,000	2,000,000	3,000,000	150,000	188,951	28,100	0.6	不詳
日本海上	海上	10,000,000	2,600,000	2,638,000	1,800,000	166,000	359,360	110,000	1.0	1,242,110
帝國海上	海上	10,000,000	2,500,000	2,661,000	1,714,000	410,000	503,363	95,000	1.0	1,916,260
神戶海上	海上	5,000,000	3,750,000	3,793,000	3,500,000	90,000	769,375	22,500	1.5	不詳
日清海上	海上	2,000,000	500,000	800,000	1,050,000	175,000	131,000	—	無配	不詳
東洋海上	海上	3,000,000	750,000	650,000	1,750,000	349,000	398,666	110,000	1.8	398,666
扶桑海上	海上	1,000,000	250,000	280,000	1,990,000	750,000	258,700	45,000	0.8	972,062
横濱海上	海上	1,000,000	250,000	280,000	3,980,000	450,000	1,468,852	370,000	1.2	3,233,522
八千代海上	海上	2,000,000	500,000	2,800,000	—	—	—	—	—	不詳
太平洋海上	海上	5,000,000	1,250,000	1,000,000	—	—	—	—	—	不詳
大正海上	海上	5,000,000	1,250,000	750,000	—	—	—	—	—	不詳

社名	種別	一九二三年	一九二二年	損分	損分
彼阿汽船	汽船	八割二分	一割一分	六	七
英印汽船	汽船	五五分	八分	缺	缺
キユーナード	汽船	五五分	七分五厘	缺	缺
白星線	汽船	六分	七分五厘	缺	缺
ローヤルメル	汽船	四分	六分	無	無
青筒線	汽船	—	—	無	無

社名	種別	資本金	拂込額	準備積立	責任準備	支拂備金	利益	積立	配當	新契約高
神戶棧橋	海上	12,000,000	8,575,000	—	—	—	—	—	—	—
明治海運	海上	5,000,000	4,000,000	—	—	—	—	—	—	—
川崎造船	造船	90,000,000	5,250,000	35,000,000	44,500,000	2,683,579	135,000,000	1.0	1,587,379	
大阪鐵工	造船	12,000,000	10,500,000	4,000,000	44,700,000	2,949,990	148,000,000	1.0	1,632,649	
横濱船渠	船渠	5,000,000	5,000,000	4,000,000	8,630,000	456,175	10,500,000	0.8	33,990	
浦賀船渠	船渠	7,000,000	4,375,000	—	8,560,000	233,433	10,500,000	0.8	33,990	
東京海上	海上	3,000,000	3,000,000	6,000,000	—	—	—	—	—	—
大阪海上	海上	10,000,000	2,790,000	3,350,000	5,300,000	3,730,000	498,149	90,000,000	1.3	2,894,780

英國汽船會社成績

廿年間貨物船會社成績

年次	拂込資本	社債及借入金	船價	總噸數	運航利益	配當金	歩合
一九〇四年	七,五九四,二七六磅	三,一五七,二八磅	一〇,七五三,七五三磅	一,八四三,五三噸	六四〇,五二磅	二七七,三九磅	三,六四%
一九〇五年	八,五九四,四三四	三,七五五,六八一	一二,三三三,八四九	一,三六三,〇四九	七六三,六九八	二八六,〇〇五	三,三三%
一九〇六年	八,〇八一,八〇〇	三,六六九,四三二	一二,一六〇,二八五	一,三三六,八二五	九七九,五四九	三三七,四四五	四,〇五%
一九〇七年	九,一六七,二五九	四,四四八,九〇五	一三,七三三,七六四	一,五五六,四〇一	一,〇七九,二五七	三八三,〇七七	四,一七%
一九〇八年	九,六三三,四〇一	四,四〇九,三四三	一四,三三八,六五二	一,六九五,八三七	一,一四五,三八七	三五五,一六五	三,四八%
一九〇九年	九,五七七,〇〇一	四,九八五,〇五一	一三,九一五,四九四	一,六〇三,三四一	六四九,七九七	一九九,八八六	一,八九%
一九一〇年	九,四五七,六五〇	五,五四八,九九九	一四,六一〇,八七七	一,七五五,三三三	八四三,五一一	二二七,六八一	二,三〇%
一九一一年	九,八八三,五八四	六,二六一,五八八	一五,七七七,七三九	一,八三三,三三〇	一,四七一,五四一	三七〇,〇六一	三,七三%
一九一二年	一〇,五五九,八四三	六,〇五八,〇六七	一六,四七七,三五四	一,九八一,二〇九	二,八六四,五一六	七二〇,五五八	六,八二%
一九一三年	一〇,九六四,一〇八	五,四九〇,三八八	一六,六八二,九六五	二,一一一,四二七	五,五〇七,八五〇	一,三三三,六一五	三,五五%
一九一四年	一〇,八四二,〇三六	四,六七七,五七一	一五,五八七,七〇八	二,〇六七,四三三	三,八三〇,九三三	一,二二六,〇九六	一,〇三%
一九一五年	一四,一〇七,五二〇	六,三六五,三二〇	一七,六二九,八七〇	二,三三八,八六三	四,七四三,一〇三	一,六一三,六七三	一,一四%
一九一六年	一四,八三三,三五六	八,三五一,八〇三	一六,〇二二,八五五	一,九五三,五〇三	一〇,九六六,八六三	二,七四三,一〇三	一,八五%
一九一七年	一三,五六六,六九五	一四,五〇五,〇〇三	二五,七七三,九六二	一,七四〇,四三一	五,七九三,七三二	二,六一〇,六六二	一九,二四%

年次	拂込資本	社債	借入金	船價	投資、現金	總噸數	配當金	歩合
一九一八年	二,七九八,八七一	九,九八四,三七一	三三,〇四八,〇二六	一,四六一,四七三	二,五四四,四八八	一,五五四,八三三	一,三一%	
一九一九年	一四,二二五,六五〇	九,三三三,五二九	二四,六八一,三四三	一,〇七七,七三三	三,三三八,六七五	一,七七二,八八	一,三三%	
一九二〇年	二〇,七三七,八五四	一一,六〇〇,六一五	三五,二六四,四一六	一,一七六,三九二	六,三三七,一九八	二,三八〇,六六〇	一,一四%	
一九二一年	二一,七八八,一七九	一一,三三三,四六九	三五,九三三,四四〇	一,一六九,三三三	四,三三六,四九二	一,七七二,三三三	一,八一%	
一九二二年	二八,二二一,五六〇	一四,一七六,三三三	四三,七三三,二八三	一,四三三,八三三	二,六七九,四五六	一,六三三,三三三	五,七九%	
一九二三年	二七,八五七,九〇八	一三,八九一,八八四	四四,六二二,八七五	一,六六七,六六八	二,四八三,四二八	一,三四一,七五	四,八一%	

十八ヶ年間定期船會社成績

年次	拂込資本	社債	借入金	船價	投資、現金	總噸數	配當金	歩合
一九〇六年	二〇,三四〇,二九磅	一〇,八九一,八三三磅	三三,〇四〇,二九三磅	一,四六一,四七三	三,一七四,五〇七磅	九〇九,〇二五磅	四,四六%	
一九〇七年	一八,八二六,三三八	一一,八一八,八三三	三二,八四八,七三三	一,〇七七,七三三	二,九一七,七〇九	八五九,三九二	四,五五%	
一九〇八年	二〇,四七五,二〇八	一五,九八七,四六六	三五,六四〇,六三〇	一,一七六,三九二	三,五四六,九八七	九三四,二九四	四,五五%	
一九〇九年	二二,四七五,二〇八	二二,四三〇,七〇〇	四三,三〇三,七七一	一,一八五,六八二	三,八八五,四一五	八六五,二六四	四,一〇%	
一九一〇年	二二,二二一,三六〇	二二,四三〇,七〇〇	四三,三〇三,七七一	一,一八五,六八二	四,一七二,一四七	一,〇三〇,一〇四	四,八五%	
一九一一年	三三,三〇〇,七三〇	一〇,八三三,八二四	四三,三〇三,七七一	一,一八五,六八二	四,三九九,八〇六	一,三七二,一三四	六,〇六%	
一九一二年	三三,一六五,一三四	一四,四〇六,二二二	二,三五九,三六四	一,三九八,七三九	四,一八二,八二八	一,七三六,八六一	七,七六%	
一九一三年	二七,〇六七,二三六	一八,三九九,九六六	一四,四八,一四五	五,七八〇,八七八	四,七九四,三九八	二,八〇八,〇三〇	一〇,三七%	
一九一四年	三〇,二二二,八七五	一七,八八四,〇〇七	一五,五九三,三七六	六,〇一七,九三三	五,一〇六,四九五	二,六〇五,一八二	八,三六%	
一九一五年	三二,四九九,七〇九	一九,一三五,一六五	二〇,二七〇,八九八	五,七二八,七三二	五,〇四六,八四五	二,五六〇,二八三	八,二四%	
一九一六年	三三,四五九,七〇九	一九,〇六九,六三六	二九,六五四,〇〇八	六,二八七,七九二	四,九〇八,〇二二	三,八五八,八四六	二,八七%	

船	郵	東	川	鐵	橋	船	船	郵
船	船	船	船	橋	橋	船	船	船
高	高	高	高	高	高	高	高	高
低	低	低	低	低	低	低	低	低
一九一七年	一九一八年	一九一八年	一九一八年	一九一九年	一九一九年	一九一九年	一九二〇年	一九二〇年
三、七、九、五、七	四、〇、四、七、四、三	三、七、九、一、八、八	三、七、九、一、八、八	三、七、九、一、八、八	三、七、九、一、八、八	三、七、九、一、八、八	三、七、九、一、八、八	三、七、九、一、八、八
一、七、六、四、九、三、五、五	一、七、一、七、八、六、〇、八	一、五、九、一、三、二、四	一、四、八、六、六、三、八、〇	一、三、八、〇、八、〇、七	一、三、八、〇、八、〇、七	一、三、八、〇、八、〇、七	一、三、八、〇、八、〇、七	一、三、八、〇、八、〇、七
四、三、八、二、〇、三、三	五、六、五、〇、〇、七、四	六、四、三、四、六、一、八、六	六、六、六、五、九、五、一	七、三、三、三、六、七、二、六	七、三、三、三、六、七、二、六	七、三、三、三、六、七、二、六	七、三、三、三、六、七、二、六	七、三、三、三、六、七、二、六
八、一、四、四、五、八、五、五	九、七、九、三、一、四、四	八、八、四、九、四、八、三、三	一、〇、九、九、一、八、五、四	一、三、一、四、九、一、六、八、〇	一、三、一、四、九、一、六、八、〇	一、三、一、四、九、一、六、八、〇	一、三、一、四、九、一、六、八、〇	一、三、一、四、九、一、六、八、〇
三、五、五、八、二、九、四、八	五、五、七、九、一、四、一	五、四、七、〇、三、三、七、八	四、三、六、九、一、二、七、七	五、三、四、九、七、五、三、八	五、三、四、九、七、五、三、八	五、三、四、九、七、五、三、八	五、三、四、九、七、五、三、八	五、三、四、九、七、五、三、八
四、八、八、四、二、四、三	五、二、六、三、三、八、六	四、三、〇、三、九、一、〇	四、九、〇、六、一、六、八	五、〇、〇、五、五、九、三	五、〇、〇、五、五、九、三	五、〇、〇、五、五、九、三	五、〇、〇、五、五、九、三	五、〇、〇、五、五、九、三
五、三、三、七、三、四、九	五、〇、七、一、八、〇、九	四、三、三、三、九、三、三	四、九、〇、六、一、六、八	五、〇、〇、五、五、九、三	五、〇、〇、五、五、九、三	五、〇、〇、五、五、九、三	五、〇、〇、五、五、九、三	五、〇、〇、五、五、九、三
一、四、〇、九	一、三、五、四	一、三、九、七	一、三、八、八	一、三、八、八	一、三、八、八	一、三、八、八	一、三、八、八	一、三、八、八
一九三三年	一九三三年	一九三三年	一九三三年	一九三三年	一九三三年	一九三三年	一九三三年	一九三三年
五、九、三、八、八、五、六	五、九、三、八、八、五、六	五、九、三、八、八、五、六	五、九、三、八、八、五、六	五、九、三、八、八、五、六	五、九、三、八、八、五、六	五、九、三、八、八、五、六	五、九、三、八、八、五、六	五、九、三、八、八、五、六

大正十三年度關係會社株價 (單位圓)

新設會社

海運業

(單位千圓十萬圓以上會社)

設立 月日	資本金	營業種目	所在地	會社名
一、三、二	一〇〇	海運業	神戶	神戶商社
二、一、一	一〇〇	同	大阪	大阪商社
二、一、一	一〇〇	同	東京	東京商船會社
二、一、一	一〇〇	同	東京	東洋汽船會社
二、一、一	一〇〇	同	東京	芝浦汽船會社
二、一、一	一〇〇	同	東京	東海汽船會社
二、一、一	一〇〇	同	東京	甲南汽船會社
三、一、一	一〇〇	同	和歌山	熊野汽船會社
三、一、一	一〇〇	同	和歌山	江田島汽船會社
三、一、一	一〇〇	同	和歌山	舞鶴製材會社
三、一、一	一〇〇	同	和歌山	萩長商社
三、一、一	一〇〇	同	和歌山	丸大運送店
三、一、一	一〇〇	同	和歌山	栗山運送店
三、一、一	一〇〇	同	和歌山	新瀨運送店
三、一、一	一〇〇	同	和歌山	倉庫業
三、一、一	一〇〇	同	和歌山	倉庫業
三、一、一	一〇〇	同	和歌山	倉庫業
三、一、一	一〇〇	同	和歌山	倉庫業
三、一、一	一〇〇	同	和歌山	倉庫業
三、一、一	一〇〇	同	和歌山	倉庫業
三、一、一	一〇〇	同	和歌山	倉庫業
三、一、一	一〇〇	同	和歌山	倉庫業
三、一、一	一〇〇	同	和歌山	倉庫業
三、一、一	一〇〇	同	和歌山	倉庫業
三、一、一	一〇〇	同	和歌山	倉庫業
三、一、一	一〇〇	同	和歌山	倉庫業

二、六	通船業	神戸	中央波止場通船會社
二、五	倉庫業	新潟	入船倉庫
三、二	同	長野	信濃倉庫運輸會社
□石炭コークス業			
一、一〇	石炭業	京都	京阪炭業會社
四、二	同	大阪	若田商店
四、一八	同	臺北	鶯山炭鑛會社
五、八	同	東京	三四石炭會社
五、一七	石炭探堀	基隆	基隆鑛業會社
五、三〇	石炭業	函館	旭石油會社
七、二	石炭探堀	東京	唐津探炭會社
一〇、八	同	同	山口鑛業貿易會社
三、一五	同	大阪	香燒コークス會社
三、一八	及石炭探堀	和歌山	紀州炭鑛會社
三、一六	造船業	石川縣	九十九造船所
□造船業			

□貿易業			
一、三	貿易業	大阪	瓜哇貿易會社
三、四	同	鹿兒島	日華貿易委託會社
六、五	同	大阪	ユニオンカード社



貨物運賃建

船舶に搭載すべき貨物運賃計算法は當事者間の隨意契約に基くものなり各地商々の慣習ありて多くはこれを標準に運賃計算を行ふを常とす茲に普通運賃市場に現はるる主要貨物に對する所謂運賃建ての標準を畧記せり

(一) 運賃建標準原則

- 噸 重量
 - 英噸(重噸) 二、二四封度—三〇本—一、六〇斤
 - 米噸(輕噸) 二、〇〇封度—三〇本—一、五〇斤
 - 佛噸 一、〇〇〇斤—一、六〇斤
 - 容積 立方呎(才) 一才(一才ハ一尺立方)
 - 石 一六石
- 備考 其他担は二六、一六、七、一六、八、一噸の制あり
- (二) 各地標準建
- △日 本 (重量ハ輕噸二、〇〇封度一、五〇斤容積ハ四才ヲ以テ一噸トス)

- 一、石炭 近海 一〇〇斤(一〇、〇〇斤六噸)
- 一、砂糖 近海 一噸(二、四〇封度一、六〇斤)
- 一、材木 内地 一擔(一六担一噸)
- 一、枕木 六本
- 一、生糸 一〇〇封度
- 備考 北海雜穀ハ一〇〇石(六石一噸)ノ粉、莖包鹽魚、昆布、砂等ハ一〇〇石(四、〇〇貫)散鹽魚ハ一〇〇石(六、〇〇又ハ三、〇〇尾)ヲ以テ運賃率トス
- △朝 鮮 (日本ト同シ) 一〇〇石
- 一、米 一〇〇斤
- △北支那 (營口、牛莊、大連) (重噸二、三四封度一、六〇斤及四才ヲ用フ)
- 一、大豆 日本 一擔(六、八擔)
- 一、豆 遠洋 一擔(六、八擔)
- 一、豆粕 一擔又ハ二枚

△南支那 (海防、西貢、盤谷) (佛噸一、六六斤、四〇才、蘭

頁、重噸、四〇才用フ)

一、米

{日本 一擔(六、八擔一噸)
佛國 一噸(一、六六斤)}

備考 其他チーク材、黒檀、紫檀等ハ四〇才單位ナリ

△比島 (馬尼刺)

一、麻 四〇才

一、鉄 一噸(二、〇〇〇封度)

備考 其他葉烟草等ハ四〇才以テス

△濠洲 (マウンスヴィル、プリスマー、ニュー
キヤッスル、シドニー、メルボルン)

(重噸、四〇才用フ)

一、小麥 一噸(一、二五〇封度)

一、小麥粉 小麥ト同ジ

一、羊毛 二〇〇封度又ハ二俵

一、木材 (ジャラカリ) 一ロード(五〇才)

△印度 (孟買、古倫母、甲谷陀)

一、棉花 100封度又ハ二俵

一、木材 1,000 SFT. FT. (約三才)

一、小麥 一噸(一、〇〇〇封度)

一、石油及礦油 (樽入) 100封度

同 (函入) 一函

△南米 (重噸及四〇才用フ)

一、穀物 一噸(一、二〇〇封度)

大畧以上ノ如シト雖モ時ニ當事者間ノ契約ニ依リ
又ハ其航路等ニ依リ種々變更スル場合アリ

一、棉花 四〇才 一噸(三、三三三封度又ハ四〇才)

備考

當地ハ種々ノ(スケール)噸存在シ頗ル繁雜
ヲ種ム重ナルモノヲ掲グレバ落花生、棉實
等ハ三本三―四才、胡麻等ハ二五本、四才、小
麥、菜種等ハ二六本三―四才、扁豆ハ三本、四
才麻羊毛等ハ四〇才ヲ以テ各一噸ト見做ス

△瓜哇 (スラバヤ、バタビヤ、サマラング)

一、砂糖 日本 一擔 歐大陸 一噸(二六、七七擔)

備考 當地モ頗ル復雜ニテ瓜哇(スケール)噸ナル
モノアリ茶、コブラ、珈琲及主トシテコッ
テルダム輸出ノ葉烟草等アレド之ヲ省畧ス

△北米 (晚香坡、沙府、紐育其他) (重噸ハ輕噸、四
才用フ)

一、鉄材 一噸(二、〇〇〇封度)



海事關係者

附
錄

海損精算専門

FOREIGN ASSOCIATE MEMBERS
of the
Association of Average Adjusters
of the United States.

浅井市川海損精算所

神戸市明石町明海ビルディング四一號

電話 三宮

四四一
四四九
四七三
四七二
四七三

時間外電話
(大阪南三五四番
神戸三宮二四〇二番)

海損精算人 浅井義 暁

海損精算人 市川牧之助

海事關係者

(一) **公署及團體職員錄**

□ **管船局**

局長	宮崎 清則	船泊課長	
庶務課長	長川 豊樹	書記官	
事務官	長岡 信捷	技師	
同	福岡 敬次		
同	安田 丈助		
同	石川 源二		
技師	妹尾喜代次		
同	板部 成雄		
同	廣幡 忠隆		
同	長川 豊樹		
同	長川 豊樹		
同	福岡 敬次		
同	町田 敬均		

候爵

書記官	山本 幸男	同	
技師	津島 憲一	同	
	上ノ畑 悌二	同	
	越智 誠二	同	
	井上 要	船用品検査所長	
	德永 格	書記官	
	湊 一磨	技師	
	長谷川 熊彦	同	
	生島 莊三	同	
	湛増 秀史	同	
	飯田 嘉六	同	
	武正 敏夫	同	
	田中 敏郎	大阪支所長	
	大倉 堯信	技師	
	浅野 平二	同	
	小野 昌治	同	
	篠原 昌治	同	
	杉江 吉治	部長	

□ **東京遞信局海事部**

永野馬太郎	鈴木 七郎	同	
妹尾喜代次	岩松 經盛	同	
越智 誠二	津島 憲一	同	
重光 炭	板部 成雄	同	
乾 康郷	山縣 昌夫	同	
加藤 熙彦	野尻 狂介	同	
齊藤 貞一	河合 芳雄	同	
吉澤 房吉	淺田 正一	同	

技師
同
同
同
同
岡
岡
同
同
小樽出張所長

□高等海員審判所

所長
宮崎 清則
越智 誠二
山本 幸男
島谷 敏郎
淺野 平二
永野 馬太郎
廣幡 忠隆
須川 邦彦
鈴木 七郎
長川 豐樹

□大阪地方海員審判所

所長
小森 七郎
淺田 正一
竹下 爲志
菅口 貞治
齊藤 淨元
上ノ畑 悌二
椿 孫次郎
松本 倉吉
津島 憲一
野本 正一
荒木 賢保

□長崎地方海員審判所

所長
石田伊奈二郎
小美川眞止
松下 倉吉
高橋 百千
田倉 八郎
平原桃三郎
西原久壽英
牧村愛之助

□函館地方海員審判所

所長
猪間信一郎
門脇觀次郎
生野 熊一
佐々木正次
高橋 功

□税關長

横濱
神戸
大阪
長崎
門司
函館

□商船學校

東京高等商船學校長
神戶高等商船學校長
函館商船學校長

富山商船學校長
島羽商船學校長
廣島商船學校長
佐賀商船學校長
鹿兒島商船水產學校長
弓削商船學校長
粟島航海學校長
大阪高等海員養成所長
大島商船學校長
兒島商船學校長
大島商船學校長
鳥根縣商船水產學校長

□帝國海事協會

理事長
工學博士 斯波忠三郎
工學博士 今岡純一郎
梅村 貞明
伊東米治郎
井坂 孝
各務 謙吉

依託技師(札幌駐在)
△横濱出張所長

内田 德郎
山田 眞吉
深尾隆太郎
藤島 純平
淺野 眞三
榎田 泰介
緒明 圭造
寺島 成信
片山峰太郎
小野 輝雄
横山 要三
篠原新次郎
山本十起雄
滋野 豊
中本 榮爾
鳥山 嶺男
高野 開通
富樫 眞三

菅野 禎吉 技師
 白崎 進 同
 山田 太郎 技師
 菊地 寅治 技師
 宮廻惣太郎 技師
 藤村恒一郎 技師
 篠原重太郎 技師
 多田三之輔 技師
 廣井 正澄 技師
 早川 喜夫 技師
 山本 長治 技師
 津田 靜一 技師
 腹卷 五郎 技師
 須田 勝雄 技師
 山口 增人 技師
 小關 恒磨 技師
 石川 悟郎 技師
 永松 文一 技師
 田丸 信俊 同
 久保 勘一 同
 伊藤 宅治 同
 柏谷豐太郎 同
 池田藤太郎 同
 加頭 或 同
 小林俊次郎 同
 近藤 常松 同
 淺野總一郎 同
 有松 英義 同
 水野練太郎 同
 吉村 弘 同
 近藤 常松 同
 宇敷甲子郎 同
 梅村 貞明 同
 武井 逸三 同
 甲 孫七 同
 椿居信太郎 同
 藤田 富吉 同
 山崎米三郎 同
 松村 敬一 同
 永末新次郎 同
 河野孝次郎 同
 小西 信通 同

△大阪出張所長

△神戸出張所長

△因島出張所長

□日本海員救濟會

△門司出張所長

△長崎出張所長

委託技師(福岡駐在)

大勳位 博恭王殿下
 欠 員
 塚原 周造
 伊東米治郎
 石橋 甫
 入澤 寅吉
 堀 啓次郎
 内田 嘉吉
 梅村 貞明
 山根 武亮
 酒井 忠利
 種子田右八郎
 釜屋 六郎
 石博辻五郎
 村田虎太郎
 花房 太郎
 實吉 安純
 佐野 常羽
 見山 正賀
 小野 正信
 琴陵 光熙
 水野練太郎
 古市 公威
 堀田 貢
 湯淺 倉平
 田 昌
 桑山 鐵男
 常務理事
 庶務部
 會報部
 出版部
 宣傳部
 資料部
 情報部
 會計部主任
 第一調查部
 第二同
 第三同
 第四同
 第五同
 第六同
 第七同
 第八同
 評議員
 幹事
 堀切善次郎
 三宅川百太郎
 淺野 良三
 武田良太郎
 佐分利定男
 安川雄之助
 谷本伊太郎
 原田 貞介
 黒田 英雄
 種田 虎雄
 副島 千八
 宮崎 清則
 奥村 久郎
 比田 孝一
 松波仁一郎

□帝國水難救濟會

□港灣協會

門司出張所長 川上 正一
 長崎出張所長 永淵源八郎
 吳高等海員養成所長 高田竣治郎
 佐世保高等海員養成所長 松村 豐記
 若松船員職業紹介所長 森田六三郎
 小樽船員職業紹介所長 露崎 岩吉
 東京船員職業紹介所長 小池 友徳
 下關船員職業紹介所長 岡村 三藏
 四日市船員職業紹介所長 川松 武治
 函館船員職業紹介所長 川島重次郎
 大勳位 博恭王
 伯爵 幸藏
 伯爵 言忠
 清浦 奎吾
 塚原 周造
 和田彦次郎
 酒井 忠利
 種子田右八郎
 釜屋 六郎
 石博辻五郎
 村田虎太郎
 花房 太郎
 實吉 安純
 佐野 常羽
 見山 正賀
 小野 正信
 琴陵 光熙
 水野練太郎
 古市 公威
 堀田 貢
 湯淺 倉平
 田 昌
 桑山 鐵男
 常務理事
 庶務部
 會報部
 出版部
 宣傳部
 資料部
 情報部
 會計部主任
 第一調查部
 第二同
 第三同
 第四同
 第五同
 第六同
 第七同
 第八同
 評議員
 幹事
 堀切善次郎
 三宅川百太郎
 淺野 良三
 武田良太郎
 佐分利定男
 安川雄之助
 谷本伊太郎
 原田 貞介
 黒田 英雄
 種田 虎雄
 副島 千八
 宮崎 清則
 奥村 久郎
 比田 孝一
 松波仁一郎

(七十六名)
 (四百餘名)
 (七百餘名)
 氏名省略

神戸出張所 鑑定人検査員船長 同副會長
 馬場信次郎 中西有之助 常務委員
 金子 幸助 服部 猪熊 (本部出張)
 大阪出張所 同 同 同
 勝浦出張所 同 同 同
 名古屋出張所 同 同 同
 四日市出張所 同 同 同
 横濱出張所 同 同 同
 東京出張所 同 同 同
 下關出張所 同 同 同
 門司出張所 同 同 同
 小樽出張所 同 同 同
 基隆出張所 同 同 同
 高雄出張所 同 同 同

伊藤 董 同(在神戸)
 安井 確郎 海事仲裁委員
 吉宮 金一 同
 高橋 一雄 主幹
 辻 高平 教諭
 中澤尚次郎 囑託
 植松虎一郎 同
 内丸 勇 同
 黒田 秀麿 同
 藤城吉太郎 同
 矢野 静哉 同
 綾 末廣 同
 來村 琢磨 同
 關根四男 同
 大河内得一 同
 富山久米吉 同
 吉富 金一 同
 森下知次郎 同

市川 牧之助 大塚 源吾 來村 琢磨 袴田 可坪 前田 庸一 高橋多佳次

神戶海運業組合
 組合長 勝田銀次郎
 副組合長 石田 貞二
 會計監理者 上西龜之助
 評議員 道家權太郎 田中卯三郎 津田 靖平 辻村芳太郎 中井 昌雄 山地 四郎 佐藤勇太郎

大連海務協會
 理事會長 市川 敷造
 検査委員長 神戶出張所主任検査委員 富山久米吉
 海損精算委員 同

仲裁委員長 仲裁委員
 佐藤 國一 評議員 大洋社出張所
 菊地 吉藏 同 丸二海運商會
 三原 美男 同 丸二海運商會
 三上清一郎 同 原田 商店
 佐藤勇太郎 同 加藤 商店
 石田 貞二 同 谷口 商店
 畑 茂 同 日本商工會社
 西川 莊三 同 深尾 商店
 勝田銀次郎 同 仲裁委員 渡邊武三郎
 川瀬 俊繼 同 渡邊武三郎
 中井 昌雄 同 谷口 庄藏
 上西龜之助 同 堤 市治
 松井 久男 同 三隅福次郎
 後藤 長七 同 同
 菊地 吉藏 同 同

東京海運業組合
 組合長 栗林 商船 水梨岩太郎
 副組合長 徳島 商店 徳島 清松
 尾城 商店 尾城 満三
 荒川回漕店 荒川 敬
 大二 商店 安見 與吉

神港海運組合
 組合長 三隅 商店 三隅福次郎
 副組合長 梶 市治
 會計監理 ミツワ商會 橋 善郎
 同 評議員 同

下關海運業組合
 組合長 向野回漕店 向野 榮藏

山下汽船支店 松尾恒四郎
 福島 商店 福島 信純
 東京 海商 成宮金三郎
 御前回漕店 米村 英雄
 日本 海運 谷道耕太郎
 東京 海商 成宮金三郎
 日下部汽船 山崎 正身
 大二 商店 安見 與吉
 福島 商店 福島 信純
 荒川回漕店 荒川 敬

一般法律事務

市村法律事務所

法學博士辯護士 市村 富久藏
 法學士辯護士 山田 浩喜
 法學士辯護士 石三 森原
 法學士辯護士 河三

大阪市東區高麗橋三丁目廿八番
 電話特圖本局一三六五番
 住宅 電話特圖南二一一二番
 大阪市東區小橋西ノ町一番地廿二號

副組合長	內國通運支店	北村吉次郎	理事	日下部株式會社	前田 秀陳	同	宮崎 商會
評議員	富海回漕店	富海松兵衛	同	向井 商店	向井甲太郎	會計監理	丸二 商會
同	尼崎汽船支店	岡山 貞三	同	共同回漕店	佐々木支吉	仲裁委員	長國際 運送
同	北市屋回漕店	中村憲一郎	評議員	共立 商會	松谷 忠藏	仲裁役員	高橋 商會
同	新盛 舍	山本 義雄	同	松本 商會	松本喜一郎	同	後藤 商會
同	廣瀨 商店	廣瀨 彌吉	同	三好 商會	三好治太郎	同	堤 商會
同	廣瀨 商店	廣瀨 彌吉	同	柿野 商會	柿野彌太郎	同	山下 汽船
管理會計	北市屋回漕店	中村憲一郎	同	成田 商店	成田甚太郎	同	澤山 商會
仲裁委員			同	林	康三	同	丸二 商會
	秋田商會船舶部	秋田 三一	同	松茂 洋行	河邊 勝	同	靖和 商會
	上繁 商會	上繁龍太郎	同	大三 商會	三村 元介	同	大三 商會
	廣瀨 商店	廣瀨 彌吉	同	宮崎 商會	宮崎 愿一	同	東和 汽船
	新盛 舍	山本 義雄	同	國際 運送	吉村 英吉	同	善甫亥三郎
	北市屋回漕店	中村憲一郎	同	後藤 商會	高濱 直一	同	
	道森汽船部	生田 七藏	同	堤 商會	堤 昇	同	
	內國通運支店	北村吉治郎	同	丸二 商會	久保 衛門	同	
			同	大三 商會	三村 元介	同	
			同			同	

△參事

◎支店出張所

△東京支店長(兼務) 次
△横濱支店長 席
△大阪支店長 席
△神戸支店長 席
△高松支店主席 席
△高知支店主席 席
△高濱支店主席 席
△門司支店長 席
△同下關出張所員 席
△同若松出張所員 席

湯豊石内廣小關山山津阿矢渥中渥 島橋
川田垣山野林原野崎田部島美川美 本金
朝公正猛民秀主弘萬郡育幹育 之信
隆平廉也逸吉雄弘計季平平耶太郎 助一

△別府支店主席 同
△長崎支店主席 同
△那覇支店長 同
△基隆支店長 同
△同臺北出張所員 同
△同臺南支店長 同
△同高雄支店長(兼務) 同
△釜山支店長 同
△仁川支店長 同
△大連支店長 同
△天津支店長 同
△上海支店長 同

安久大 大伊飯駒山武高武柴森諏大長林武久
留崎津藤塚田口田木田田田訪津濱内保
田島真犬鎌 祇萬完金 金質三初禮久惣正 勝勝
安次生武董吉二司助陸助朴郎郎介耶克耶 之太
太次生武董吉二司助陸助朴郎郎介耶克耶 造

△同次席 同
△香港支店長 同
△同次席 同
△新嘉坡支店長 同
△同次席 同
△孟買支店長 同
△同次席 同
△タコマ支店長(兼務) 同
△廣東出張所主任 同
△廈門出張所主席 同
△福州出張所主席 同
△シアトル出張所主席 同
△字品 在勤
△浦鹽斯德 在勤
△汕頭 在勤
△甲谷陀 在勤
△ストラバヤ 在勤
△市俄古 在勤(兼)

内山岡森高岩香伊岡富内安小富牧神竹家
本七五三 茂洲 耀一吉郎夫衛熊一茂次雄助元夫一
茂洲 耀一吉郎夫衛熊一茂次雄助元夫一

△紐育 在勤
△ベノスアイレス 在勤
△倫敦 在勤
△漢堡 在勤
△漢口 駐在
△ロシアンセルス 駐在
△攝陽商船株式會社
△東洋汽船株式會社

大淺川野平三郎 大野平三郎
木武中濱武森阿部 木武中濱武森阿部
下田村中田部 下田村中田部
昌俊次 昌俊次
吉夫郎平耶夫郎 吉夫郎平耶夫郎

勸定掛主任
 出納掛主任
 △東京派出員首席
 △三池派出員首席
 △門司派出員首席
 △小樽派出員首席
 △香港派出員首席
 △沙府派出員首席
 △倫敦派出員首席
 △大連派出員首席
 △上海派出員首席

▲國際汽船株式會社

(神戸)

原橋 宮本 橋本 亮
 岡山 沼田 田島 亮
 高橋 錦山 谷井 貞
 同 同 同 同
 同 同 同 同
 同 同 同 同
 同 同 同 同
 同 同 同 同
 同 同 同 同
 同 同 同 同
 同 同 同 同

同 同 同 同 同 同 同 同
 同 同 同 同 同 同 同 同
 同 同 同 同 同 同 同 同
 同 同 同 同 同 同 同 同
 同 同 同 同 同 同 同 同
 同 同 同 同 同 同 同 同
 同 同 同 同 同 同 同 同
 同 同 同 同 同 同 同 同

同 同 同 同 同 同 同 同
 同 同 同 同 同 同 同 同
 同 同 同 同 同 同 同 同
 同 同 同 同 同 同 同 同
 同 同 同 同 同 同 同 同
 同 同 同 同 同 同 同 同
 同 同 同 同 同 同 同 同
 同 同 同 同 同 同 同 同

監査役
 同 文書課長
 營業課長
 會計課長
 船務課長
 △釜山支店長
 △元山支店長
 △仁川出張所長

▲合名會社尼崎汽船部

(大阪)

山口 内 兵衛
 山本 正三
 石垣 孝治
 池松 貫時
 廣瀬 博一
 廣瀬 博一
 一井 政
 高井 春五
 高井 春五
 尼崎 伊三
 牧本 長太郎
 松本 長太郎
 水田 政吉
 福井 政吉
 谷井 政吉
 同 同 同 同
 同 同 同 同
 同 同 同 同
 同 同 同 同
 同 同 同 同
 同 同 同 同
 同 同 同 同

▲三井物産船舶部

(神戸)

△長崎支店長
 △廣島支店長
 △高松出張店長
 △今治出張店長
 △若松出張店長
 △大川出張店長
 △群山出張店長

近藤 義太郎
 吉田 昇
 橋本 一
 渡海 清一
 五味 彌七
 四村 善四
 藤井 昭
 大石 七郎
 古川 文三
 小泉 文三
 三宅 寛三
 伊藤 誠之
 永津 卯
 余語 光
 余野 光
 河野 光
 山形 治郎

△上海出張所主任
 △哈爾濱出張員
 △浦鹽斯德出張員
 △香港支店長
 △廣東出張員
 △西貢出張員
 △瓜哇出張員
 △盤谷出張員
 △蘭貢出張員
 △倫敦支店長
 △シドニー出張所主任
 △ホーランド支店長
 △桑港出張所
 △晚香坡出張所

平賀三介
 立川七郎
 三宅定八
 御手洗信夫
 中川寅吉
 野田重吉
 荒木重吉
 山口重吉
 及川喜代志
 野坂喜代志
 米田健一
 金井久一郎
 澤田文清
 九鬼文清
 鈴木岩治
 勝原正次
 篠原正次

▲三菱商事船舶部

部長代理(兼)庶務係主任
 配船係主任
 遠洋係主任(兼)
 近海係主任

同 同 同 同 同 同 同 同 同 同
 監 監 監 監 監 監 監 監 監 監
 查 查 查 查 查 查 查 查 查 查
 役 役 役 役 役 役 役 役 役 役

佐竹員
 高橋中
 辻野誠
 日野誠
 松島誠
 宮尾亮
 村上孝
 土井邦太
 壓井邦太
 內田光
 田中光
 林田備
 早川恭茂
 橋本恭茂
 川副恭茂
 山口副恭茂

三原美次
 八木貞輔
 村上誠
 日野誠
 松島誠
 宮尾亮
 村上孝
 土井邦太
 壓井邦太
 內田光
 田中光
 林田備
 早川恭茂
 橋本恭茂
 川副恭茂
 山口副恭茂

△東京出張所主任
 △監督課長
 △會計課長
 △庶務課長
 △營業課長
 △監査役
 △取締役
 △常務取締役
 △專務取締役
 △專務取締役
 △專務取締役

大井龜吉
 藤咲無二衛門
 細谷嘉一
 水澤嘉一
 勝田銀次
 村田彌太郎
 青木彌太郎
 門司宗太郎
 中村西太郎
 村田西太郎
 中村西太郎
 萬代西太郎
 門司宗太郎
 菅代西太郎
 菅代西太郎

勝田銀次
 村田彌太郎
 青木彌太郎
 門司宗太郎
 中村西太郎
 村田西太郎
 萬代西太郎
 門司宗太郎
 菅代西太郎
 菅代西太郎

▲太洋海運株式會社

常務取締役
 取締役
 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同
 監 監 監 監 監 監 監 監 監 監
 查 查 查 查 查 查 查 查 查 查
 役 役 役 役 役 役 役 役 役 役

三原美次
 八木貞輔
 村上誠
 日野誠
 松島誠
 宮尾亮
 村上孝
 土井邦太
 壓井邦太
 內田光
 田中光
 林田備
 早川恭茂
 橋本恭茂
 川副恭茂
 山口副恭茂

三原美次
 八木貞輔
 村上誠
 日野誠
 松島誠
 宮尾亮
 村上孝
 土井邦太
 壓井邦太
 內田光
 田中光
 林田備
 早川恭茂
 橋本恭茂
 川副恭茂
 山口副恭茂

相談役 遠掛主任 近海掛主任 船舶掛主任 會計掛主任 監督掛主任 庶務掛主任
 取縮役社長 取縮役社長 取縮役社長 取縮役社長 取縮役社長 取縮役社長 取縮役社長
 取縮役社長 取縮役社長 取縮役社長 取縮役社長 取縮役社長 取縮役社長 取縮役社長
 同兼監督課長 同兼監督課長 同兼監督課長 同兼監督課長 同兼監督課長 同兼監督課長 同兼監督課長
 運送課長 人事課長 會計課長 庶務課長 庶務課長 庶務課長 庶務課長
 用人課長 會計課長 會計課長 會計課長 會計課長 會計課長 會計課長
 庶務課主任

▲岸本汽船株式會社

勝野六郎 紺野清六郎 藤上秀次郎 藤上義三郎 石垣雄三郎 齋藤雄三郎
 岸本 岸本 岸本 岸本 岸本 岸本 岸本 岸本 岸本 岸本 岸本 岸本 岸本
 本兵衛 本兵衛 本兵衛 本兵衛 本兵衛 本兵衛 本兵衛 本兵衛 本兵衛 本兵衛
 五郎 五郎 五郎 五郎 五郎 五郎 五郎 五郎 五郎 五郎 五郎 五郎 五郎
 兼助 兼助 兼助 兼助 兼助 兼助 兼助 兼助 兼助 兼助 兼助 兼助 兼助
 大野 大野 大野 大野 大野 大野 大野 大野 大野 大野 大野 大野 大野
 杉本 杉本 杉本 杉本 杉本 杉本 杉本 杉本 杉本 杉本 杉本 杉本 杉本

社取縮役社長 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同
 庶務課長 庶務課長 庶務課長 庶務課長 庶務課長 庶務課長 庶務課長 庶務課長 庶務課長 庶務課長
 調查役 調查役 調查役 調查役 調查役 調查役 調查役 調查役 調查役 調查役 調查役 調查役 調查役 調查役
 △幹部
 庶務課長 (兼務) 調查課長 (兼務) 營業課長 會計課長 監督課長 (同)
 △天津支店長 △安東縣支店長 △青島支店長
 計理課長 事務取扱 營業課長

塚本貞次郎 是松進郎 阪井秀郎 安井清太郎 長秋太 千富金一 吉富金一 小川勝雄 山內勝雄
 三村賢治 三村賢治 高木秀雄 阪井秀雄 安井秀雄 川村龍三 島田信三 松本博文

計理課主任 秘書課主任 監督課技師 監門司出張所主任
 取縮役社長 常務取締役 常務取締役 常務取締役 常務取締役 常務取締役 常務取締役 常務取締役
 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同
 監督課長 監督課長 監督課長 監督課長 監督課長 監督課長 監督課長 監督課長 監督課長 監督課長
 同兼監督課長 同兼監督課長 同兼監督課長 同兼監督課長 同兼監督課長 同兼監督課長 同兼監督課長 同兼監督課長
 運送課長 人事課長 會計課長 庶務課長 庶務課長 庶務課長 庶務課長 庶務課長 庶務課長 庶務課長
 用人課長 會計課長 會計課長 會計課長 會計課長 會計課長 會計課長 會計課長 會計課長 會計課長
 庶務課主任

▲神戶棧橋株式會社

甲田市憲三郎 吉浦茂八郎 杉浦茂八郎 泉茂八郎 南郷三郎 中郷三郎 神代龍三郎 五代龍三郎 五邊龍三郎 島邊龍三郎 瀧川龍三郎 渡邊龍三郎 山邊龍三郎 島邊龍三郎
 神代龍三郎 五代龍三郎 五邊龍三郎 島邊龍三郎 瀧川龍三郎 渡邊龍三郎 山邊龍三郎 島邊龍三郎
 常務取締役 常務取締役 常務取締役 常務取締役 常務取締役 常務取締役 常務取締役 常務取締役 常務取締役 常務取締役 常務取締役 常務取締役 常務取締役 常務取締役 常務取締役 常務取締役 常務取締役 常務取締役
 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同
 監督課長 監督課長 監督課長 監督課長 監督課長 監督課長 監督課長 監督課長 監督課長 監督課長 監督課長 監督課長 監督課長 監督課長 監督課長 監督課長 監督課長 監督課長
 同兼監督課長 同兼監督課長 同兼監督課長 同兼監督課長 同兼監督課長 同兼監督課長 同兼監督課長 同兼監督課長
 運送課長 人事課長 會計課長 庶務課長 庶務課長 庶務課長 庶務課長 庶務課長 庶務課長 庶務課長 庶務課長 庶務課長 庶務課長 庶務課長 庶務課長 庶務課長 庶務課長 庶務課長
 用人課長 會計課長 會計課長 會計課長 會計課長 會計課長 會計課長 會計課長 會計課長 會計課長 會計課長 會計課長 會計課長 會計課長 會計課長 會計課長 會計課長 會計課長
 庶務課主任

▲大連汽船株式會社

櫻木俊一郎 長阪清太郎 原田六郎 長崎嘉吉郎 津村嘉吉郎 岩中嘉吉郎 淺見嘉吉郎 川畑嘉吉郎

△上海支店長 長阪清太郎
 △神戶出張所長(兼) 長阪清太郎
 專務取締役社長 專務取締役社長 專務取締役社長 專務取締役社長 專務取締役社長 專務取締役社長 專務取締役社長 專務取締役社長
 取縮役社長 取縮役社長 取縮役社長 取縮役社長 取縮役社長 取縮役社長 取縮役社長 取縮役社長
 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同
 監督課長 監督課長 監督課長 監督課長 監督課長 監督課長 監督課長 監督課長 監督課長 監督課長 監督課長 監督課長 監督課長 監督課長 監督課長 監督課長 監督課長 監督課長
 同兼監督課長 同兼監督課長 同兼監督課長 同兼監督課長 同兼監督課長 同兼監督課長 同兼監督課長 同兼監督課長
 運送課長 人事課長 會計課長 庶務課長 庶務課長 庶務課長 庶務課長 庶務課長 庶務課長 庶務課長 庶務課長 庶務課長 庶務課長 庶務課長 庶務課長 庶務課長 庶務課長 庶務課長
 用人課長 會計課長 會計課長 會計課長 會計課長 會計課長 會計課長 會計課長 會計課長 會計課長 會計課長 會計課長 會計課長 會計課長 會計課長 會計課長 會計課長 會計課長
 庶務課主任

▲長馬汽船株式會社

長阪清太郎 原田六郎 長崎嘉吉郎 津村嘉吉郎 岩中嘉吉郎 淺見嘉吉郎 川畑嘉吉郎
 長馬勇治 尾喜貞一郎 四井喜貞一郎 木村喜貞一郎 福井喜貞一郎 川野敬太郎 山尾敬太郎
 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同
 監督課長 監督課長 監督課長 監督課長 監督課長 監督課長 監督課長 監督課長 監督課長 監督課長 監督課長 監督課長 監督課長 監督課長 監督課長 監督課長 監督課長 監督課長
 同兼監督課長 同兼監督課長 同兼監督課長 同兼監督課長 同兼監督課長 同兼監督課長 同兼監督課長 同兼監督課長
 運送課長 人事課長 會計課長 庶務課長 庶務課長 庶務課長 庶務課長 庶務課長 庶務課長 庶務課長 庶務課長 庶務課長 庶務課長 庶務課長 庶務課長 庶務課長 庶務課長 庶務課長
 用人課長 會計課長 會計課長 會計課長 會計課長 會計課長 會計課長 會計課長 會計課長 會計課長 會計課長 會計課長 會計課長 會計課長 會計課長 會計課長 會計課長 會計課長
 庶務課主任

監 同 同 同 查 役

▲北海道炭礦汽船株式會社(東京)

川野宗太
大塚茂十郎
安藤秀三郎
壹岐敏直

取 務 取 務 取 務
締 取 締 取 締 取
役 締 役 締 役 締 役 締 役

▲東和汽船株式會社

菊地吉藏
渡邊甚吉

同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同
查 役

高城規一
磯村豊太
山田直一
櫻内幸雄
倉知鐵一
高洲鐵一
石川川
吉田川
渡邊川

取 務 取 務 取 務
締 取 締 取 締 取
役 締 役 締 役 締 役 締 役

▲栗林商船株式會社

依田信作
吉田弘素
倉澤弘之
東田敬之
深田敬之
河原敬之
大森伯
藤田森伯
小藤田
宮崎宇吉

水梨岩太
小栗林德一
鈴木林清三
笠木林清三
栗林友次
中澤宗次

專 務 取 務 取 務 取 務
取 務 取 務 取 務 取 務
締 取 締 取 締 取 締 取
役 締 役 締 役 締 役 締 役 締 役

▲橋本汽船株式會社

戶田實太郎
松田三郎
玉井三郎
太田三郎
松田三郎
玉井三郎
井田三郎
下市三郎
市川三郎
友谷三郎
丸谷三郎
伊藤三郎

同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同
查 役

▲明治海運株式會社

谷口茂雄

取 務 取 務 取 務
締 取 締 取 締 取
役 締 役 締 役 締 役 締 役

△神戸出張所長

▲樺太汽船株式會社

北村勝文
齊木七次郎
川平三郎
大川八郎
田中三郎
藤田三郎
小田三郎
白石三郎
長谷川三郎
熊澤三郎
渡邊三郎
岡崎三郎
松村三郎
小松三郎
鈴木三郎

專 務 取 務 取 務 取 務
取 務 取 務 取 務 取 務
締 取 締 取 締 取 締 取
役 締 役 締 役 締 役 締 役 締 役

▲日本海運株式會社

谷道耕太郎

谷道耕太郎
鈴木實衛
小松喜兵衛
松村精一
岡崎久次郎
渡邊甚吉
熊澤一太郎
長谷川三郎
白石三郎
小田三郎
藤田三郎
田中三郎
大川八郎
川平三郎
川平三郎
田中三郎
藤田三郎
小田三郎
白石三郎
長谷川三郎
熊澤三郎
渡邊三郎
岡崎三郎
松村三郎
小松三郎
鈴木三郎

取 專 同 取
務 務 副 締
締 取 社 社
役 締 長 長
役 役 長 長

長 廣 廣 廣
谷 山 海 海
川 彦 二 二
太 太 三 三

取 專 取
務 務 締
締 取 社
役 締 長
役 役 長

竹 津 田
內 村 村
維 秀 市

監 同 同 同 取 專
查 締 締 取
役 役 役 締 締
役 役 役 役 役

石 阪 伊 田 關 永
丸 口 藤 中 口 田
英 則 卯 高 章

同 監 同 取 常 取
查 締 取 締 取
役 役 役 役 役

四 上 松 福 松 勝 飯
井 西 井 井 本 田
喜 龜 久 拾 博 次



向島船渠株式會社

第一號船渠

渠口幅下部 全長二百九十尺
 渠口幅上部 四十四尺三寸
 盤木上滿潮面 深二十四尺六寸
 排水時間 四十八分

第二號船渠

渠口幅下部 全長三百四十五尺
 渠口幅上部 五十二尺
 盤木上滿潮面 深十五尺
 排水時間 五十九分

本社出張所

尾道市對岸向島
 神戸市下山手通六丁目六番屋敷

電話長八七番
 電話元町四一六五番

取締役社長
 常務取締役

濱根岸太郎
 泉京次郎

露光量違いの為重複撮影

造船會社

取締役會長 取務取締役 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同
 三宅川百太郎 青木菊雄 串田萬藏 木村久壽藏 山口久壽藏 山崎重吉 三船好重 舟越四郎 江崎小四郎 岩崎小太郎 新崎小太郎 永原孝四郎 濱原孝四郎 武田秀彪

總營業課 長 長 長 長 長 長 長 長 長 長 長 長 長 長
 會計課 主 主 主 主 主 主 主 主 主 主 主 主 主 主
 庶務課 主 主 主 主 主 主 主 主 主 主 主 主 主 主
 會務課 主 主 主 主 主 主 主 主 主 主 主 主 主 主
 總務課 主 主 主 主 主 主 主 主 主 主 主 主 主 主
 技術顧問 長 長 長 長 長 長 長 長 長 長 長 長 長 長
 長崎造船所

武藤松三 伊藤榮一 岡本規一 松田均一 長崎泰一 植木長一 山崎元一 江崎元一 孕石元一 阿部元一 原元一 元元一 伊藤元一 岡本元一 岡田元一 片岡元一 寺澤元一



明發士博賀志
 許特式賀志

船底塗料

- シント (各色)
- ゼーケル (白蟻絶滅劑)
- ラ (木材防腐防虫劑)
- ラ (鐵材防銹塗料)
- ホールドペイント (防銹塗料)
- セクロン (各色) (鐵材防銹塗料)
- グラファイトペイント (防銹塗料)
- コツパーペイント (木船々底塗料)

品質優良ニシテ價格低廉ナリ
 日本郵船并ニ大阪商船ニ特約御使用ヲ願フノ外帝國陸海軍
 岸本汽船、辰馬汽船、大阪鐵工所、横濱船渠、浦賀船渠
 其他汽船會社ニ多數御採用ヲ得ツ、アリ

グンデルビ阪大島之中阪大

大東塗料株式會社

電話一八九五番

造船會社

▲三菱造船株式會社

取締役會長
常務取締役

同 取締役

同 取締役

同 監事

同 同 同

△本店

武田 秀
濱田 伸
永原 四
新波 孝
斯崎 彌
岩崎 小
江崎 定
舟越 四
三好 重
山崎 泉
木村 久
串田 萬
青木 菊
三宅 百太郎

武田 秀
濱田 伸
永原 四
新波 孝
斯崎 彌
岩崎 小
江崎 定
舟越 四
三好 重
山崎 泉
木村 久
串田 萬
青木 菊
三宅 百太郎

總營業課長
營業課長
會計課長
技術顧問
技術顧問
副所長
同所長
同所長
同所長
同所長
同所長
同所長
同所長

◎長崎造船所

武藤 榮
伊藤 長
岡田 均
松田 泰
塩田 一
山本 長
江崎 元
孕石 照
阿部 政
原部 耕
元長 太
伊集院 清
岡田 喜
片岡 壽
寺澤 健
三三 次
三 郎
平 介
方 照
三 郎
三 郎
三 郎
三 郎
三 郎



シ
ゼ
ン
ト
（各
色）
ダ
ラ
フ
ア
イ
ト
ベ
イ
（各
色）
セ
ク
ロ
ン
（各
色）
ホ
ー
ル
ド
ベ
イ
ン
ト
（各
色）
コ
ウ
バ
ー
ベ
イ
ン
ト
（各
色）
シ
ム
ラ
（白
色）
ル
（白
色）
シ
ム
ラ
（白
色）
ル
（白
色）
シ
ム
ラ
（白
色）
ル
（白
色）
シ
ム
ラ
（白
色）
ル
（白
色）

船底塗料

品質優良ニシテ價格低廉ナリ
日本郵船并ニ大阪商船ニ特約御使用ヲ願フノ外帝國陸海軍
岸本汽船、辰馬汽船、大阪鐵工所、横濱船渠、浦賀船渠
其他汽船會社ニ多數御採用ヲ得ツ、アリ

グンアルビ阪大島之中阪大
大東塗料株式會社
電話一八九五八

